

日輪寺観音前 (前橋市0903)遺跡

(一)南新井前橋線日輪寺工区社会資本総合整備
(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

日輪寺観音前 (前橋市0903)遺跡

(一)南新井前橋線日輪寺工区社会資本総合整備
(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



日輪寺観音前道跡調査区遠景(南西より)

序

前橋市日輪寺町に所在する日輪寺は、多くの伝説に彩られた県内屈指の名刹であり、安置された十一面観音立像は、平安時代後～末期に東国で盛行した鈍彫り像の貴重な類例の一つとして、昭和26年6月に群馬県指定重要文化財に指定され、毎年1回の開帳の日には、各地から多くの参拝客が訪れています。

この古刹の北側では、現在、国道17号バイパス上武道路の建設が進められており、それを承けて、日輪寺の南側一帯において、上毛大橋を経て利根川の兩岸を結ぶ一般県道南新井前橋線を上武道路にアクセスするための建設工事が群馬県県土整備部によって行われることになりました。本地域は埋蔵文化財包蔵地であることから、群馬県教育委員会の調整を経て、平成26年12月から平成27年5月にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、平安時代前期の集落を中心とする多くの遺構・遺物が発見され、このたび、発掘調査の成果をまとめ、発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の方々などに多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に役立てられますことを願ひまして、序といたします。

平成29年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男

例 言

- 1 本書は、(一)新南井前橋線日輪寺区社会資本総合整備(活力・重点)事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 所在地 群馬県前橋市日輪寺町宮本389、390-1、390-2、390-3、394-2、395-1、400-1、同観音前43-1、52、53-1、53-2、54-3、55、56-1、56-2、57、69-1
- 3 事業主体 群馬県前橋土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間
 - (1)履行期間 第一次調査 平成26年11月1日～平成27年3月31日
第二次調査 平成27年4月1日～平成27年7月31日
 - (2)調査期間 第一次調査 平成26年12月1日～平成27年3月31日
第二次調査 平成27年4月1日～平成27年5月31日
- 6 調査面積 9,207㎡
- 7 発掘調査体制は次の通りである。
 - (1)発掘調査担当
第一次調査 調査統括・上席専門員 関根慎二
主任調査研究員 関 俊明、同 藤井義徳、同 小林茂夫、同 小野 隆
第二次調査 主任調査研究員 長澤典子、専門調査役 飯田陽一
 - (2)遺跡掘削工事請負 技研コンサル株式会社
 - (3)地上測量業務委託 技研コンサル株式会社
- 8 資料整理期間
 - (1)履行期間
第一次整理 平成27年10月1日～平成28年3月31日
第二次整理 平成28年10月1日～平成29年2月28日
 - (2)資料整理期間
第一次整理 平成27年10月1日～平成28年3月31日
第二次整理 平成28年10月1日～平成28年12月31日
- 9 資料整理体制は次の通りである。
 - (1)整理担当
第一次整理 補佐(総括) 佐藤元彦、専門員(総括) 高島英之
第二次整理 専門員(総括) 高島英之
 - (2)遺物写真撮影 資料統括・補佐(総括) 関 邦一、補佐(総括) 佐藤元彦
 - (3)遺物保存処理 資料統括・補佐(総括) 関 邦一
 - (4)デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦
- 10 本書作成の担当者は次の通りである。
 - (1)編集 専門員(総括) 高島英之
 - (2)本文執筆 専門調査役 神谷佳明(第4章第2節)、専門員(総括) 高島英之(前記以外)

- (3)遺物観察表 土 器：専門調査役 神谷佳明
 石 器：資料2課長 津島秀章
 金属製品：資料統括・補佐(総括) 関 邦一

- 11 発掘調査書資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
 12 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の機関にご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします(順不同)。

群馬県教育委員会、前橋市教育委員会

凡 例

- 1 本文中に使用した座標・方位は、すべて世界測地系(測地成果2000)を使用している。
 なお、座標北と真北との偏差は、調査対象地中央付近の座標による。
 2 遺構平面・断面図に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
 3 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下の通りとした。1：3以外の縮尺の遺物については、遺物番号の後に縮尺を記入してある。

遺構 住居1：60・1：30 掘立柱建物1：60 溝・河道・畠1：100・1：50
 鍛冶遺構・窪地1：60 井戸・土坑・ピット1：40
 遺物 大型土器・陶磁器・石製品1：4 小型土器・陶磁器・石製品1：3
 鉄製品・石製品の一部1：2








- 4 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図 1：25,000「前橋」(平成22年12月1日発行)
 1：25,000「渋川」(平成14年10月1日発行)
 地勢図 1：200,000「長野」(平成24年5月1日発行)
 1：200,000「宇都宮」(平成23年6月1日発行)

- 5 遺構図で使用しているスクリーンパターンは以下の通りとした。

	攪乱		焼土		硬化面		炭・炭化物
	灰面		粘土				

- 6 遺物図で使用しているスクリーンパターンは以下の通りとした。

	灰釉・釉		緑釉		スス・スミ		燻
	内黒		ガラス質		熱変色範囲		

目次

巻首図版

序

例言

凡例

目次

挿図・表・写真目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
1 調査の方法	2
2 調査の経過	4
3 基本土層	5
第3節 整理作業の概要	7
第2章 遺跡の位置と環境	8
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査の成果	23
第1節 成果の概要	23
第2節 A区で検出された遺構と遺物	24
1 掘立柱建物	24
2 溝	26
3 河道	28
4 土坑	31
5 ビット	37
6 遺構外出土遺物	45
第3節 B区で検出された遺構と遺物	46
1 住居	46
2 高	48
3 井戸	49
4 土坑	51
5 ビット	60
6 遺構外出土遺物	63
第4節 C区で検出された遺構と遺物	64
1 住居	64
2 溝	142
3 河道	143
4 土坑	148
5 ビット	186
6 遺構外出土遺物	191

第5節 D区で検出された遺構と遺物	194
1 住居	194
2 掘立柱建物	210
3 高	213
4 鍛冶遺構	217
5 窪地	219
6 溝	219
7 土坑	226
8 ビット	237
9 遺構外出土遺物	243
第6節 E区で検出された遺構と遺物	244
1 土坑	244
2 ビット	245
3 遺構外出土遺物	245
第4章 調査成果のまとめ	246
第1節 調査成果のまとめ	246
第2節 出土した施釉陶器について	247

遺物観察表

中近世土器・陶磁器図版

写真図版

抄録

付図1 日輪寺観音前遺跡全体図	
2 日輪寺観音前遺跡A・E区全体図	
3 日輪寺観音前遺跡B区全体図	
4 日輪寺観音前遺跡C区全体図	
5 日輪寺観音前遺跡D区全体図	

挿図目次

第1図	道路の位置	1	第64図	C区24号住居平面図・土層断面図・出土遺物	88
第2図	調査区設定図	3	第65図	C区25号住居平面図・土層断面図	89
第3図	日輪寺観音前道路周辺地形分類図	9	第66図	C区25号住居出土遺物(1)	90
第4図	日輪寺観音前道路周辺道路分布図	11	第67図	C区25号住居出土遺物(2)	91
第5図	A区1号独立柱建物平面図・土層断面図	25	第68図	C区26号住居平面図・土層断面図	92
第6図	A区2号独立柱建物平面図・土層断面図	27	第69図	C区26号住居出土遺物	93
第7図	A区1号講平面図・土層断面図	28	第70図	C区27号住居平面図・土層断面図・出土遺物	94
第8図	A区1号河道平面図	29	第71図	C区28号住居平面図・土層断面図・出土遺物	95
第9図	A区1号河道土層断面図・エレベーション図	30	第72図	C区29号住居平面図・土層断面図	96
第10図	A区1号河道出土遺物	31	第73図	C区29号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物	97
第11図	A区2号河道平面図・土層断面図・出土遺物	32	第74図	C区30号住居平面図・土層断面図	98
第12図	A区土坑平面図・土層断面図(1)	34	第75図	C区31号住居平面図・土層断面図	99
第13図	A区土坑平面図・土層断面図(2)	36	第76図	C区31号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物(1)	100
第14図	A区土坑出土遺物	37	第77図	C区31号住居出土遺物(2)	101
第15図	A区ビット平面図・土層断面図(1)	37	第78図	C区31号住居出土遺物(3)	102
第16図	A区ビット平面図・土層断面図(2)	38	第79図	C区32号住居平面図・土層断面図	104
第17図	A区ビット平面図・土層断面図(3)	39	第80図	C区32号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物	105
第18図	A区ビット平面図・土層断面図(4)	40	第81図	C区33号住居平面図・土層断面図	106
第19図	A区ビット平面図・土層断面図(5)	41	第82図	C区33号住居出土遺物	107
第20図	A区ビット平面図・土層断面図(6)	42	第83図	C区34号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	108
第21図	A区ビット平面図・土層断面図(7)	43	第84図	C区34号住居出土遺物(2)	109
第22図	A区ビット平面図・土層断面図(8)	44	第85図	C区35号住居平面図・土層断面図・出土遺物	110
第23図	A区ビット平面図・土層断面図(9)	45	第86図	C区36号住居平面図・土層断面図・出土遺物	111
第24図	A区遺構外出土遺物	47	第87図	C区37号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	112
第25図	B区1号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	45	第88図	C区37号住居出土遺物(2)	113
第26図	B区1号住居出土遺物(2)	48	第89図	C区38号住居平面図・土層断面図	114
第27図	B区1・4号高平面図・土層断面図・出土遺物	49	第90図	C区38号住居出土遺物	115
第28図	B区1・2号并戸平面図・土層断面図・出土遺物	50	第91図	C区39号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	116
第29図	B区土坑平面図・土層断面図(1)	52	第92図	C区39号住居出土遺物(2)	117
第30図	B区土坑平面図・土層断面図(2)	54	第93図	C区40号住居平面図・土層断面図	117
第31図	B区土坑平面図・土層断面図(3)	56	第94図	C区40号住居出土遺物	118
第32図	B区土坑平面図・土層断面図(4)	57	第95図	C区41号住居平面図・土層断面図・出土遺物	119
第33図	B区土坑平面図・土層断面図(5)・B区土坑出土遺物(1)	58	第96図	C区42号住居平面図・土層断面図・出土遺物	119
第34図	B区土坑出土遺物(2)	59	第97図	C区43号住居平面図・土層断面図・出土遺物	120
第35図	B区ビット平面図・土層断面図(1)	60	第98図	C区44号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	122
第36図	B区ビット平面図・土層断面図(2)	61	第99図	C区44号住居出土遺物(2)	123
第37図	B区ビット平面図・土層断面図(3)	62	第100図	C区45号住居平面図・土層断面図	124
第38図	B区遺構外出土遺物	63	第101図	C区46号住居平面図・土層断面図・出土遺物	125
第39図	C区2号住居平面図・土層断面図・出土遺物	65	第102図	C区47号住居平面図・土層断面図・出土遺物	126
第40図	C区3号住居平面図・土層断面図・出土遺物	66	第103図	C区48号住居平面図・土層断面図	127
第41図	C区4号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	68	第104図	C区49号住居平面図・土層断面図・出土遺物	128
第42図	C区4号住居出土遺物(2)	69	第105図	C区50号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	130
第43図	C区5号住居平面図・土層断面図・出土遺物	69	第106図	C区50号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物(2)	131
第44図	C区6・7号住居平面図・土層断面図	69	第107図	C区51号住居平面図・土層断面図	132
第45図	C区8号住居平面図・土層断面図	71	第108図	C区51号住居出土遺物	133
第46図	C区8号住居出土遺物	72	第109図	C区52号住居平面図・土層断面図	134
第47図	C区9号住居平面図・土層断面図	72	第110図	C区52号住居出土遺物	135
第48図	C区9号住居出土遺物	73	第111図	C区53号住居平面図・土層断面図・出土遺物	136
第49図	C区10号住居平面図・土層断面図	73	第112図	C区54号住居平面図・土層断面図	137
第50図	C区11号住居平面図・土層断面図・出土遺物	74	第113図	C区55号住居平面図・土層断面図・出土遺物	138
第51図	C区12号住居平面図・土層断面図	75	第114図	C区56号住居平面図・土層断面図・出土遺物	139
第52図	C区19号住居平面図・土層断面図	75	第115図	C区57号住居平面図・土層断面図	140
第53図	C区19号住居出土遺物	76	第116図	C区58号住居平面図・土層断面図・出土遺物	141
第54図	C区20号住居平面図・土層断面図	78	第117図	C区59号住居平面図・土層断面図・出土遺物	141
第55図	C区20号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物(1)	79	第118図	C区3・4・12・13・15号講平面図・土層断面図・13・15号講出土遺物	144
第56図	C区20号住居出土遺物(2)	80	第119図	C区14号講平面図・土層断面図・出土遺物	145
第57図	C区21号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	81	第120図	C区3・4号河道平面図・土層断面図	147
第58図	C区21号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物(2)	82	第121図	C区3号河道出土遺物	148
第59図	C区22号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	83	第122図	C区土坑平面図・土層断面図(1)	150
第60図	C区22号住居土層断面図・土層断面図・住居出土遺物(2)	84	第123図	C区土坑平面図・土層断面図(2)	153
第61図	C区22号住居出土遺物(3)	85	第124図	C区土坑平面図・土層断面図(3)	156
第62図	C区23号住居平面図・土層断面図・出土遺物	86	第125図	C区土坑平面図・土層断面図(4)	159
第63図	C区23号住居土層断面図・土層断面図	87			

第1268図	C区土坑平面図・土層断面図(5)	161
第1277図	C区土坑平面図・土層断面図(6)	163
第1280図	C区土坑平面図・土層断面図(7)	165
第1290図	C区土坑平面図・土層断面図(8)	167
第1300図	C区土坑平面図・土層断面図(9)	169
第1318図	C区土坑平面図・土層断面図(10)	171
第1329図	C区土坑平面図・土層断面図(11)	174
第1339図	C区土坑平面図・土層断面図(12)	176
第1340図	C区土坑平面図・土層断面図(13)	178
第1350図	C区土坑平面図・土層断面図(14)	181
第1368図	C区土坑平面図・土層断面図(15)	183
第1378図	C区土坑平面図・土層断面図(16)、C区土坑出土遺物(1)	184
第1389図	C区土坑出土遺物(2)	185
第1398図	C区ピット平面図・土層断面図(1)	186
第1405図	C区ピット平面図・土層断面図(2)	187
第1418図	C区ピット平面図・土層断面図(3)	188
第1428図	C区ピット平面図・土層断面図(4)	189
第1438図	C区ピット平面図・土層断面図(5)	190
第1449図	C区ピット出土遺物	191
第1458図	C区遺構外出土遺物(1)	191
第1468図	C区遺構外出土遺物(2)	192
第1478図	C区遺構外出土遺物(3)	193
第1488図	D区13号住居平面図・土層断面図・出土遺物	195
第1498図	D区14号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	197
第1508図	D区14号住居平面図・土層断面図・住居出土遺物(2)	198
第1518図	D区14号住居出土遺物(3)	199
第1528図	D区15号住居平面図・土層断面図	200
第1538図	D区15号住居出土遺物	201
第1548図	D区16号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	202
第1558図	D区16号住居平面図・土層断面図・住居出土遺物(2)	203
第1568図	D区16号住居出土遺物(3)	204
第1578図	D区17号住居平面図・土層断面図・出土遺物(1)	205
第1588図	D区17号住居出土遺物(2)	206
第1598図	D区18号住居平面図・土層断面図	207
第1608図	D区18号住居平面図・土層断面図・住居出土遺物(1)	208
第1618図	D区18号住居出土遺物(2)	209
第1628図	D区3号掘立柱建物平面図・土層断面図	210
第1638図	D区4号掘立柱建物平面図・土層断面図・出土遺物	212
第1648図	D区2号高平面図・土層断面図	214

第165図	D区3号高平面図・土層断面図	215
第166図	D区1号竪治遺構平面図・土層断面図・出土遺物(1)	218
第167図	D区1号竪治遺構出土遺物(2)	219
第168図	D区1号窪地平面図・土層断面図・出土遺物	220
第169図	D区5・6号溝平面図・土層断面図、6号溝出土遺物(1)	222
第170図	D区6号溝出土遺物(2)	223
第171図	D区7～9号溝平面図・土層断面図、8号溝出土遺物	224
第172図	D区10・11号溝平面図・土層断面図	225
第173図	D区土坑平面図・土層断面図(1)	228
第174図	D区土坑平面図・土層断面図(2)	230
第175図	D区土坑平面図・土層断面図(3)	233
第176図	D区土坑平面図・土層断面図(4)	235
第177図	D区土坑平面図・土層断面図(5)、D区土坑出土遺物	236
第178図	D区ピット平面図・土層断面図(1)	237
第179図	D区ピット平面図・土層断面図(2)	238
第180図	D区ピット平面図・土層断面図(3)	239
第181図	D区ピット平面図・土層断面図(4)	240
第182図	D区ピット平面図・土層断面図(5)	241
第183図	D区ピット平面図・土層断面図(6)	242
第184図	D区ピット平面図・土層断面図(7)、D区ピット出土遺物	243
第185図	D区遺構外出土遺物	243
第186図	E区26号土坑平面図・土層断面図	244
第187図	E区264・265号土坑平面図・土層断面図、E区土坑出土遺物	245
第188図	E区ピット平面図・土層断面図	245
第189図	A区1号掘立柱建物・1号河道出土陶磁器(1)	295
第190図	A区1号河道出土陶磁器(2)	296
第191図	A区2号河道・土坑・ピット・遺構外出土陶磁器	297
第192図	B区1号高・土坑出土陶磁器(1)	298
第193図	B区土坑出土陶磁器(2)、B区遺構外出土陶磁器(1)	299
第194図	B区遺構外出土陶磁器(2)	300
第195図	B区遺構外出土陶磁器(3)	301
第196図	B区遺構外出土陶磁器(4)	302
第197図	B区遺構外出土陶磁器(5)	303
第198図	B区遺構外出土陶磁器(6)、C区土坑・遺構外出土陶磁器(1)	304
第199図	C区遺構外出土陶磁器(2)	305
第200図	C区遺構外出土陶磁器(3)、D区出土陶磁器	306
第201図	E区出土陶磁器	307

表 目 次

第1表	周辺道路一覧表	12
第2表	調査区別出土遺物番号・遺構数一覧表	22
第3表	角軸陶器出土遺構と数量	251
第4表	角軸陶器出土量比較表	253

第5表	ピット一覧表	254
第6表	周縁遺物観察表	261
第7表	非掘立柱土器一覧表	285
第8表	非掘立柱陶磁器一覧表	292

写真目次

- PL 1
1. A区全景(南)
2. A区1号孤立柱建物全景(南)
- PL 2
1. A区1号孤立柱建物P 3土層断面(東)
2. A区1号孤立柱建物P 4土層断面(東)
3. A区1号孤立柱建物P 5土層断面(東)
4. A区1号孤立柱建物P 6土層断面(東)
5. A区1号孤立柱建物P 7土層断面(東)
6. A区1号孤立柱建物P 8土層断面(東)
7. A区1号孤立柱建物P 10土層断面(南)
8. A区2号孤立柱建物A P 4土層断面(南)
- PL 3
1. A区2号孤立柱建物全景(北)
2. A区2号孤立柱建物全景(西)
- PL 4
1. A区1号溝全景(北)
2. A区1号溝全景(西)
- PL 5
1. A区1号溝土層断面A-A'(東)
2. A区1号溝土層断面B-B'(北西)
3. A区1号河道土層断面A-A'(北東)
4. A区1号河道土層断面C-C'(東)
5. A区1号河道土層断面B-B'(西)
6. A区1号河道全景(西)
- PL 6
1. A区2号河道全景(南)
2. A区1号河道土層断面A-A'(東)
3. A区2号河道土層断面B-B'(東)
4. A区2号土坑全景(東)
5. A区2号土坑土層断面(東)
- PL 7
1. A区4号土坑全景(北東)
2. A区4号土坑土層断面(東)
3. A区10号土坑全景(北西)
4. A区10号土坑土層断面(北西)
5. A区15号土坑全景(南)
6. A区15号土坑土層断面(南)
7. A区22号土坑全景(北西)
8. A区22号土坑土層断面(北西)
- PL 8
1. A区23号土坑全景(東)
2. A区23号土坑土層断面(東)
3. A区24号土坑全景(北西)
4. A区24号土坑土層断面(北西)
5. A区37号土坑全景(東)
6. A区37号土坑土層断面(東)
7. A区54号土坑全景(東)
8. A区54号土坑土層断面(東)
- PL 9
1. B 1区1面西地区全景(北)
2. B 1区1面東地区全景(北西)
- PL 10
1. B 1区2面西地区全景(北西)
2. B 2区1面全景(北東)
3. B 2区2面全景(南西)
- PL 11
1. B 3区全景(東)
2. B 4区全景(北東)
3. B 4区全景(北西)
- PL 12
1. B区1号住居全景(西)
2. B区1号住居土層断面(南)
3. B区1号住居(西)
4. B区1号住居土層断面C-C'(南)
5. B区1号住居土層断面D-D'(西)
- PL 13
1. B区1号住居(東側方)(西)
2. B区1号高島全景(東)
3. B区4号島(手前)・1号島(奥)全景(西)
4. B区1号井戸全景(南)
5. B区1号井戸土層断面(南)
6. B区2号井戸全景(南)
7. B区2号井戸遺物出土状況(南)
8. B区2号井戸土層断面(南)
- PL 14
1. B区29号土坑全景(東)
2. B区29号土坑土層断面(東)
3. B区30号土坑全景(東)
4. B区30号土坑土層断面(東)
5. B区31号土坑全景(北)
6. B区31号土坑土層断面(北)
7. B区32号土坑全景・土層断面(北)
8. B区33号土坑全景(北)
- PL 15
1. B区34号土坑全景(南)
2. B区34号土坑土層断面(東)
3. B区35号土坑全景(南東)
4. B区35号土坑土層断面(西)
5. B区36号土坑全景・土層断面(南)
6. B区36号土坑全景(北西)
7. B区36号土坑遺物出土状況1(北)
8. B区36号土坑遺物出土状況2(南)
- PL 16
1. B区57号土坑土層断面(北西)
2. B区58号土坑全景(北)
3. B区58号土坑土層断面(北)
4. B区59号土坑土層断面(北西)
5. B区61号土坑全景(西)
6. B区61号土坑土層断面(南)
7. B区67号土坑全景(北西)
8. B区67号土坑土層断面(南)
- PL 17
1. B区73号土坑全景(西)
2. B区73号土坑土層断面(南)
3. B区77号土坑全景(北西)
4. B区77号土坑土層断面(南)
5. B区85・86号土坑土層断面(南)
6. B区88号土坑全景(東)
7. B区88号土坑土層断面(東)
8. B区89号土坑全景(西)
- PL 18
1. B区276・277号ピット全景(西)
2. B区278号ピット全景(南)
3. B区285～287号ピット全景(西)
4. B区289・299・302～305号ピット全景(西)
5. C・D区全景
- PL 19
1. C 2・3区全景(西)
2. C 2区全景空撮
- PL 20
1. C 4区全景空撮
2. C 1区全景(南)
- PL 21
1. C区2号住居全景(西)
2. C区2号住居遺物出土状況(西)

- C区3号住居全景(西)
- C区3号住居上層断面(西)
- C区3号住居(西)
- C区3号住居遺土層断面(西)
- C区4号住居全景(西)
- C区4号住居上層断面B-B'(東)

PL 22

- C区4号住居(西)
- C区4号住居遺物出土状況(西)
- C区4号住居遺土層断面C-C'(南)
- C区4号住居遺土層断面D-D'(西)
- C区8号住居全景(西)
- C区8号住居上層断面A-A'(北)
- C区8号住居上層断面B-B'(西)
- C区8号住居(西)

PL 23

- C区8号住居遺土層断面D-D'(西)
- C区8号住居遺土層断面C-C'(南)
- C区9号住居全景(西)
- C区9号住居上層断面B-B'(北西)
- C区9号住居遺土層断面C-C'(南)
- C区9号住居遺土層断面D-D'(北西)
- C区10号住居全景(西)
- C区10号住居上層断面A-A'(東)

PL 24

- C区11号住居全景(西)
- C区11号住居(西)
- C区11号住居遺土層断面C-C'(西)
- C区11号住居遺土層断面D-D'(西)
- C区11号住居遺物(西)
- C区12号住居全景(西)
- C区12号住居上層断面A-A'(南)
- C区12号住居上層断面A-A'部分(南)

PL 25

- C区12号住居遺物(西)
- C区19号住居全景(西)
- C区19号住居上層断面A-A'(南)
- C区19号住居上層断面B-B'(西)
- C区19号住居方全景(西)
- C区19号住居床下土塊1上層断面(西)
- C区19号住居床下土塊2上層断面(西)
- C区19号住居ピット1上層断面(西)

PL 26

- C区20号住居全景(西)
- C区20号住居遺物出土状況(西)
- C区20号住居上層断面A-A'(北)
- C区20号住居上層断面B-B'(西)
- C区20号住居遺土層断面(西)
- C区20号住居遺土層断面A-A'(北)
- C区20号住居遺土層断面E-E'(西)
- C区20号住居遺物全景(西)

PL 27

- C区21号住居全景(西)
- C区21号住居上層断面A-A'(南)
- C区21号住居上層断面B-B'(西)
- C区21号住居遺土層断面C-C'(南)
- C区21号住居遺物全景(西)
- C区22号住居全景(西)
- C区22号住居上層断面A-A'(南)
- C区22号住居上層断面B-B'(西)

PL 28

- C区22号住居遺土層断面(西)
- C区22号住居遺土層断面D-D'南側(西)
- C区22号住居跡遺土層断面D-D'北側(西)
- C区22号住居遺物(西)
- C区22号住居貯蔵穴全景(西)

- C区22号住居貯蔵穴上層断面(西)

- C区23号住居方全景(西)
- C区23号住居上層断面B-B'(西)

PL 29

- C区23号住居(西)
- C区23号住居遺土層断面C-C'(南)
- C区23号住居遺土層断面(西)
- C区23号住居遺物(西)
- C区24号住居全景(西)
- C区24号住居(西)
- C区24号住居遺土層断面B-B'(南)
- C区24号住居遺物方上層断面C-C'(西)

PL 30

- C区25号住居全景(西)
- C区25号住居上層断面A-A'(南)
- C区25号住居上層断面B-B'(西)
- C区25号住居遺物出土状況(西)
- C区25号住居(西)
- C区25号住居遺土層断面E-E'(南)
- C区25号住居遺土層断面F-F'(西)
- C区25号住居床下土塊1上層断面(南)

PL 31

- C区25号住居床下土塊2(西)
- C区25号住居床下土塊2上層断面(南)
- C区25号住居方全景(西)
- C区26号住居全景(西)
- C区26号住居上層断面A-A'(南)
- C区26号住居上層断面B-B'(東)
- C区26号住居遺土層断面E-E'(南)
- C区26号住居遺土層断面F-F'(西)

PL 32

- C区26号住居(西)
- C区26号住居遺物(西)
- C区26号住居床下土塊1(西)
- C区26号住居床下土塊1上層断面(南)
- C区26号住居床下土塊2上層断面(西)
- C区26号住居方全景(西)
- C区27号住居全景(西)
- C区27号住居上層断面A-A'(南)

PL 33

- C区27号住居(西)
- C区27号住居遺土層断面D-D'(北)
- C区27号住居遺土層断面E-E'(西)
- C区29・30号住居全景(西)
- C区29号住居遺物出土状況(西)
- C区29号住居上層断面A-A'(南)
- C区29号住居上層断面C-C'(西)
- C区29号住居(西)

PL 34

- C区29号住居遺土層断面H-H'(西)
- C区29号住居遺物方上層断面H-H'(西)
- C区29号住居床下土塊2(西)
- C区29号住居床下土塊2上層断面(南)
- C区29号住居床下土塊3(北西)
- C区29号住居床下土塊3上層断面(西)
- C区29号住居方全景(西)
- C区31号住居全景(西)

PL 35

- C区31号住居上層断面A-A'(南)
- C区31号住居上層断面B-B'(西)
- C区31号住居(西)
- C区31号住居遺土層断面E-E'(南)
- C区31号住居遺土層断面F-F'(西)
- C区31号住居遺物(西)
- C区31号住居遺物方上層断面G-G'(南)
- C区31号住居床下土塊1(北)

PL 36

1. C区31号住居床下土上土層断面(南)
2. C区31号住居掘方全景(西)
3. C区32号住居全景(西)
4. C区32号住居土層断面(南西)
5. C区32号住居竈(西)
6. C区32号住居竈土層断面E-E'(南)
7. C区32号住居竈土層断面F-F'(西)
8. C区32号住居床下ピット1土層断面(西)

PL 37

1. C区32号住居床下ピット1土層断面(西)
2. C区32号住居掘方全景(西)
3. C区33号住居全景(西)
4. C区33号住居土層断面A-A'(南)
5. C区33号住居土層断面B-B'(西)
6. C区33号住居竈(西)
7. C区33号住居竈土層断面C-C'(西)
8. C区33号住居竈土層断面D-D'(西)

PL 38

1. C区33号住居床下土上1(南)
2. C区33号住居床下土上1土層断面(南)
3. C区33号住居掘方全景(西)
4. C区34号住居全景(西)
5. C区34号住居土層断面A-A'(南)
6. C区34号住居竈(西)
7. C区34号住居竈土層断面D-D'(南西)
8. C区34号住居竈土層断面E-E'(北西)

PL 39

1. C区35号住居全景(西)
2. C区35号住居土層断面A-A'(南)
3. C区35号住居土層断面B-B'(西)
4. C区35号住居竈(北西)
5. C区35号住居竈土層断面D-D'(南)
6. C区35号住居竈土層断面E-E'(西)
7. C区35号住居全景(西)
8. C区37号住居全景(西)

PL 40

1. C区37号住居土層断面B-B'(東)
2. C区37号住居竈土層断面C-C'(西)
3. C区38号住居遺物出土状況(西)
4. C区38号住居土層断面A-A'(南)
5. C区38号住居土層断面B-B'(東)
6. C区38号住居竈(西)
7. C区38号住居竈土層断面D-D'(南)
8. C区38号住居竈土層断面E-E'(西)

PL 41

1. C区38号住居竈掘方(西)
2. C区38号住居床下土上土層断面(西)
3. C区38号住居掘方全景(西)
4. C区40号住居全景(南)
5. C区40号住居土層断面A-A'(南)
6. C区40号住居竈(西)
7. C区40号住居竈土層断面C-C'(南)
8. C区40号住居竈土層断面D-D'(西)

PL 42

1. C区40号住居竈掘方(西)
2. C区41号住居全景(西)
3. C区41号住居土層断面A-A'(南)
4. C区41号住居竈(西)
5. C区41号住居竈土層断面B-B'(南)
6. C区41号住居竈土層断面C-C'(西)
7. C区42号住居全景(北)
8. C区42号住居土層断面B-B'(南西)

PL 43

1. C区43号住居全景(西)
2. C区43号住居土層断面A-A'(南)

3. C区43号住居土層断面B-B'(東)
4. C区43号住居掘方全景(西)
5. C区44号住居全景(西)
6. C区44号住居土層断面A-A'(南)
7. C区44号住居土層断面B-B'(東)
8. C区44号住居竈(西)

PL 44

1. C区44号住居竈土層断面C-C'(南)
2. C区44号住居竈土層断面D-D'(西)
3. C区45号住居全景(西)
4. C区45号住居竈土層断面B-B'(南)
5. C区46号住居全景(西)
6. C区46号住居土層断面A-A'(南)
7. C区46号住居土層断面B-B'(東)
8. C区46号住居竈(西)

PL 45

1. C区46号住居竈土層断面C-C'(西)
2. C区46号住居竈掘方(西)
3. C区47号住居全景(北)
4. C区47号住居土層断面B-B'(東)
5. C区47号住居床下土上1(西)
6. C区47号住居床下土上土層断面(南東)
7. C区47号住居掘方全景(西)
8. C区48号住居全景(西)

PL 46

1. C区48号住居土層断面A-A'(南)
2. C区48号住居土層断面B-B'(東)
3. C区49号住居全景(西)
4. C区50号住居全景(西)
5. C区50号住居土層断面A-A'(南)
6. C区50号住居土層断面B-B'(西)
7. C区50号住居竈(西)
8. C区50号住居竈土層断面E-E'(南)

PL 47

1. C区50号住居竈土層断面F-F'(西)
2. C区50号住居竈掘方(西)
3. C区50号住居ピット2土層断面(西)
4. C区50号住居掘方全景(西)
5. C区51号住居全景(西)
6. C区51号住居土層断面A-A'(南)
7. C区51号住居土層断面B-B'(西)
8. C区51号住居竈(西)

PL 48

1. C区51号住居竈土層断面E-E'(南)
2. C区51号住居竈土層断面F-F'(西)
3. C区51号住居竈掘方(西)
4. C区51号住居床下ピット1・2(南)
5. C区51号住居床下ピット1土層断面(南)
6. C区51号住居床下ピット2土層断面(南)
7. C区52号住居全景(西)
8. C区52号住居竈(北西)

PL 49

1. C区52号住居竈土層断面D-D'1(南)
2. C区52号住居竈土層断面D-D'2(南)
3. C区52号住居竈E-E'(西)
4. C区52号住居竈遺物出土状況(西)
5. C区52号住居竈掘方(西)
6. C区52号住居床下土上(北)
7. C区52号住居床下土上土層断面C-C'(南)
8. C区53号住居全景(西)

PL 50

1. C区52号住居土層断面A-A'(南)
2. C区52号住居土層断面B-B'(東)
3. C区53号住居竈(西)
4. C区53号住居竈土層断面C-C'(南)
5. C区53号住居竈土層断面D-D'(西)

6. C区53号住居鑑測方(西)
7. C区54号住居鑑(北西)
8. C区54号住居鑑土層断面C—C'(南西)

PL 51

1. C区54号住居鑑測方(西)
2. C区55号住居全景(西)
3. C区55号住居鑑土層断面B—B'(南)
4. C区56号住居全景(西)
5. C区56号住居土層断面A—A'部分(南)
6. C区57号住居全景(西)
7. C区57号住居土層断面A—A'(南)
8. C区57号住居土層断面B—B'(東)

PL 52

1. C区57号住居鑑土層断面C—C'(南)
2. C区58号住居全景(西)
3. C区58号住居土層断面B—B'(南)
4. C区58号住居土層断面A—A'(西)
5. C区59号住居全景(西)
6. C区59号住居鑑(西)
7. C区59号住居土層断面A—A'(南)
8. C区59号住居遺物出土状況(西)

PL 53

1. C区3～5号溝全景(北)
2. C区3号溝土層断面A—A'(南)
3. C区4号溝土層断面A—A'(南)
4. C区12号溝全景(北)
5. C区13号溝土層断面A—A'(西)

PL 54

1. C区13号溝全景(東)
2. C区13号溝(西)
3. C区14号溝全景(南西)

PL 55

1. C区14号溝(南)
2. C区14号溝(西)

PL 56

1. C区14号溝(南)
2. C区14号溝(東)
3. C区14号溝土層断面C—C'(南)
4. C区14号溝土層断面E—E'(西)
5. C区14号溝遺物出土状況(西)
6. C区14号溝遺物出土状況(西)

PL 57

1. C区15号溝(西)
2. C区15号溝(南)
3. C区15号溝土層断面A—A'(南)
4. C区15号溝土層断面B—B'(西)

PL 58

1. C区3号河道輸出状況(東)
2. C区3号河道輸出状況(東)
3. C区3号河道輸出状況(東)
4. C区3号河道遺物出土状況(西)
5. C区3号河道遺物出土状況(南東)
6. C区3号河道遺物出土状況(東)
7. C区3号河道遺物出土状況(東)

PL 59

1. C区3号河道全景(南)
2. C区3号河道土層断面A—A'(南)
3. C区3号河道土層断面B—B'(南)
4. C区3号河道全景(北)

PL 60

1. C区92号土坑全景(北)
2. C区92号土坑土層断面(南)
3. C区93号土坑全景(北)
4. C区93号土坑土層断面(西)
5. C区94号土坑全景(北)
6. C区94号土坑土層断面(南)

7. C区95号土坑全景(南)

8. C区95号土坑土層断面(南西)

9. C区96号土坑全景(西)

10. C区96号土坑土層断面(南西)

11. C区97号土坑全景(東)

12. C区97号土坑土層断面(東)

13. C区98号土坑全景(北)

14. C区98号土坑土層断面(東)

15. C区99号土坑全景(南)

PL 61

1. C区99号土坑土層断面(東)

2. C区100号土坑全景(北)

3. C区100号土坑土層断面(南東)

4. C区101号土坑全景(北)

5. C区101号土坑土層断面(東)

6. C区102号土坑全景(東)

7. C区102号土坑土層断面(南)

8. C区103号土坑全景(西)

9. C区104号土坑全景(西)

10. C区105号土坑全景(北)

11. C区106号土坑全景(南)

12. C区107・108号土坑全景(西)

13. C区109号土坑全景(西)

14. C区109号土坑土層断面(西)

15. C区111号土坑全景(西)

PL 62

1. C区112号土坑全景(南)

2. C区112号土坑土層断面(南)

3. C区113～115号土坑全景(北西)

4. C区116～118号土坑全景(西)

5. C区119号土坑全景(西)

6. C区119号土坑土層断面(南)

7. C区120号土坑全景・土層断面(西)

8. C区126～128号土坑(北)

9. C区126～128号土坑土層断面(北)

10. C区129号土坑全景・土層断面(北)

11. C区130号土坑全景(西)

12. C区130号土坑土層断面(西)

13. C区157号土坑全景(南)

14. C区157号土坑土層断面(南)

15. C区158号土坑全景・土層断面(西)

PL 63

1. C区159号土坑全景(西)

2. C区159号土坑土層断面(西)

3. C区162号土坑全景(西)

4. C区162号土坑土層断面(南)

5. C区164号土坑土層断面(西)

6. C区165号土坑全景(南)

7. C区166号土坑全景(西)

8. C区167号土坑全景(西)

9. C区167・168号土坑・308号ビット土層断面(西)

10. C区168号土坑全景(西)

11. C区169号土坑全景(北西)

12. C区169号土坑土層断面(南西)

13. C区171号土坑土層断面(西)

14. C区172号土坑土層断面(西)

15. C区173号土坑全景(南)

PL 64

1. C区173号土坑土層断面(南)

2. C区174号土坑全景(西)

3. C区175号土坑全景(西)

4. C区175号土坑土層断面(西)

5. C区222号土坑全景(南)

6. C区228・229・235号土坑全景(西)

7. C区228・229号土坑土層断面(北西)

8. C区230号土坑全景(東)

- C区220号土坑土層断面(東)
- C区233号土坑全景(西)
- C区233号土坑土層断面(西)
- C区235号土坑土層断面(南)
- C区238号土坑全景(南)
- C区238号土坑土層断面(西)
- C区239号土坑全景・土層断面(北西)

PL 65

- C区240号土坑全景・土層断面(北)
- C区241号土坑全景(北)
- C区241号土坑土層断面(西)
- C区243号土坑全景(南)
- C区243号土坑土層断面(南西)
- C区245号土坑全景(西)
- C区245号土坑土層断面(西)
- C区246号土坑全景(東)
- C区246号土坑土層断面(東)
- C区247号土坑全景(南)
- C区247号土坑土層断面(南)
- C区251号土坑全景(南)
- C区251号土坑土層断面(南)
- C区252号土坑全景(西)
- C区252号土坑土層断面(西)

PL 66

- C区244号土坑全景(南)
- C区244号土坑土層断面(南)
- C区244号土坑遺物出土状況1(北西)
- C区244号土坑遺物出土状況2(南)
- C区244号土坑遺物出土状況3(南)
- C区244号土坑遺物出土状況4(南)
- C区244号土坑掘方(南)

PL 67

- C区253号土坑軸出状況(南)
- C区253号土坑土層断面(南)
- C区253号土坑出土遺
- C区255号土坑全景(南)
- C区255号土坑土層断面(南)
- C区256号土坑全景(南)
- C区256号土坑土層断面(南)
- C区257号土坑全景(南)
- C区258・259号土坑全景(西)
- C区258・259号土坑土層断面(西)
- C区262・263・266・267号土坑全景(西)
- C区266・267号土坑土層断面(西)
- C区268・269号土坑全景(北)
- C区271号土坑全景(南)
- C区271号土坑土層断面(南)

PL 68

- C区272・275号土坑全景(東)
- C区273号土坑全景(南)
- C区273号土坑土層断面(東)
- C区274号土坑全景(南)
- C区274号土坑土層断面(南)
- C区275号土坑土層断面(東)
- C区276号土坑全景(南)
- C区277号土坑全景(南東)
- C区277号土坑土層断面(南)
- C区278号土坑全景・土層断面(南)
- C区279号土坑全景・土層断面(南)
- C区280号土坑全景(南東)
- C区280号土坑土層断面(東)
- C区281号土坑全景(南東)
- C区281号土坑土層断面(南東)

PL 69

- C区282・283号土坑全景(北西)
- C区282・283号土坑土層断面(南西)

- C区292号土坑土層断面(南)
- C区293・294号土坑全景(南)
- C区293・294号土坑土層断面(南)
- C区295・296号土坑全景(南)
- C区295・296号土坑土層断面(南)
- C区297号土坑全景(南)
- C区297号土坑土層断面(南)
- C区298・302～306号土坑全景(南)
- C区298号土坑土層断面(南)
- C区299号土坑全景(南)
- C区301号土坑全景(南)
- C区302号土坑全景(南)
- C区302号土坑土層断面(南)

PL 70

- C区303・304号土坑土層断面(東)
- C区304号土坑全景(南)
- C区305号土坑全景(南)
- C区305・306号土坑土層断面(東)
- C区312・313号土坑全景(南)
- C区312・313号土坑土層断面(南)
- C区314号土坑全景(南)
- C区314号土坑土層断面(南)
- C区315号土坑全景(南)
- C区315号土坑土層断面(南)
- C区316・317号土坑全景(東)
- C区316号土坑土層断面(東)
- C区317号土坑土層断面(東)
- C区318号土坑全景(東)
- C区318号土坑土層断面(東)

PL 71

- C区319号土坑全景(南)
- C区319号土坑土層断面(南)
- C区320号土坑全景(南)
- C区320号土坑土層断面(南)
- C区321号土坑全景(南)
- C区321号土坑土層断面(南)
- C区322号土坑全景(南)
- C区322号土坑土層断面(南)
- C区307号ピット全景(西)
- C区310号ピット全景(西)
- C区313・314号ピット全景(西)
- C区422号ピット全景(南)
- C区423号ピット全景(南)
- C区429号ピット全景(南)
- C区452号ピット全景(南)

PL 72

- C区463号ピット全景(西)
- C区464号ピット全景(南)
- C区464号ピット遺物出土状況(西)
- C区464号ピット土層断面(西)
- C区469号ピット全景(南)
- C区470号ピット全景(南東)
- C区473号ピット全景(南)
- C区473号ピット土層断面(南)
- C区488号ピット全景(西)
- C区489号ピット全景(南)
- C区489号ピット土層断面(南)
- C区492号ピット全景(南)
- C区492号ピット土層断面(西)
- C区495号ピット全景(西)
- C区496号ピット全景(南)

PL 73

- D区全景
- 調査区遠景(南)

PL 74

- D区13号住居全景(西)

- D区13号住居土層断面A-A'(南)
- D区13号住居土層断面B-B'(西)
- D区14号住居全景(西)
- D区14号住居土層断面A-A'(南)
- D区14号住居炭化物・遺物検出状況1(北西)
- D区14号住居炭化物・遺物検出状況2(北西)
- D区14号住居炭化物・遺物検出状況3(北)

PL 75

- D区14号住居南側張出部炭化物出土状況1(北)
- D区14号住居南側張出部炭化物出土状況2(西)
- D区14号住居南側張出部炭化物出土状況3(南)
- D区14号住居南側張出部炭化物出土状況4(西)
- D区14号住居竈(西)
- D区14号住居竈土層断面D-D'(南)
- D区14号住居竈土層断面D-D'2(南)
- D区14号住居竈土層断面E-E'(西)

PL 76

- D区14号住居竈遺物出土状況1(西)
- D区14号住居竈遺物出土状況2(西)
- D区14号住居竈遺物出土状況3(西)
- D区14号住居竈掘方(西)
- D区14号住居貯蔵穴(西)
- D区14号住居貯蔵穴土層断面(西)
- D区14号住居床下土坑(西)
- D区14号住居床下土坑土層断面(西)

PL 77

- D区14号住居ビット1(南)
- D区14号住居ビット1土層断面(南)
- D区14号住居ビット2(北)
- D区14号住居ビット2土層断面(北)
- D区15号住居全景(西)
- D区15号住居土層断面A-A'(北)
- D区15号住居土層断面B-B'(西)
- D区15号住居竈(西)

PL 78

- D区15号住居竈土層断面C-C'(南)
- D区15号住居竈土層断面D-D'(西)
- D区15号住居竈掘方(西)
- D区15号住居掘方全景(西)
- D区16号住居全景(西)
- D区16号住居土層断面A-A'(南)
- D区16号住居土層断面B-B'(西)
- D区16号住居遺物出土状況1(西)

PL 79

- D区16号住居遺物出土状況2(西)
- D区16号住居遺物出土状況3(西)
- D区16号住居遺物出土状況4(西)
- D区16号住居遺物出土状況5(西)
- D区16号住居竈(西)
- D区16号住居竈遺物・炭化物出土状況(西)
- D区16号住居竈土層断面C-C'(南)
- D区16号住居竈土層断面D-D'(西)

PL 80

- D区16号住居竈掘方(西)
- D区16号住居竈掘方土層断面C-C'(南)
- D区16号住居竈掘方土層断面D-D'(西)
- D区16号住居掘方全景(西)
- D区16号住居掘方土層断面A-A'(南)
- D区17号住居全景(西)
- D区17号住居土層断面A-A'(南東)
- D区17号住居竈(西)

PL 81

- D区17号住居竈土層断面B-B'(南)
- D区17号住居竈土層断面C-C'(西)
- D区18号住居全景(西)
- D区18号住居土層断面B-B'(西)

- D区18号住居土層断面A-A'(南)

- D区18号住居遺物出土状況1(西)

- D区18号住居遺物出土状況2(西)

- D区18号住居竈(西)

PL 82

- D区18号住居竈土層断面C-C'(南)

- D区18号住居竈土層断面D-D'(西)

- D区18号住居竈掘方(西)

- D区18号住居炭化物検出状況(西)

- D区18号住居貯蔵穴(西)

- D区18号住居ビット1土層断面F-F'(西)

- D区18号住居ビット2土層断面G-G'(西)

- D区18号住居ビット3・4土層断面H-H'(西)

PL 83

- D区18号住居掘方全景(西)

- D区3号擬立柱建物全景(西)

- D区3号擬立柱建物ビット8(北)

- D区4号擬立柱建物全景(西)

- D区4号擬立柱建物ビット4(南)

- D区4号擬立柱建物ビット5(南)

- D区4号擬立柱建物ビット6(南)

- D区4号擬立柱建物ビット7(南)

PL 84

- D区4号擬立柱建物ビット10(南)

- D区4号擬立柱建物ビット11(右・南)

- D区2号竈全景(東)

- D区2号竈部分(東)

PL 85

- D区3号竈全景(東)

- D区3号竈土層断面A-A'(東)

- D区1号鍛冶遺構全景(西)

- D区1号鍛冶遺構土層断面A-A'(西)

- D区1号鍛冶遺構掘方土層断面A-A'(西)

PL 86

- D区1号鍛冶遺構ビット2・3土層断面G-G'(西)

- D区1号鍛冶遺構ビット4土層断面H-H'(東)

- D区1号鍛冶遺構掘方全景(南)

- D区窪地全景(東)

- D区窪地全景(北東)

- D区窪地土層断面A-A'(南)

- D区5号溝土層断面A-A'(西)

- D区6号溝土層断面A-A'(東)

PL 87

- D区6・7号溝全景(西)

- D区6・7号溝全景(南)

PL 88

- D区6号溝南西隅部部分(西)

- D区7号溝土橋付近(西)

- D区6・7号溝と1号鍛冶遺構(東)

- D区6・7号溝出土西端付近(東)

- D区7号溝全景(東)

- D区7号溝土層断面A-A'(東)

- D区7号溝・1号鍛冶遺構重複箇所土層断面(西)

PL 89

- D区8・9号溝全景(東)

- D区8号溝土層断面A-A'(東)

- D区9号溝土層断面A-A'(西)

- D区10号溝北平(南)

- D区10号溝南平(北)

PL 90

- D区10号溝土層断面B-B'(南)

- D区10号溝土層断面A-A'(南)

- D区11号溝土層断面B-B'(南)

- D区11号溝土層断面A-A'(南)

- D区133号土坑土層断面(西)

- D区134号土坑全景(南)

- D区134号土坑土層断面(南)
- D区135号土坑全景・土層断面(北)

PL 91

- D区136号土坑全景(南)
- D区136号土坑土層断面(南)
- D区137号土坑土層断面(西)
- D区138号土坑土層断面(南)
- D区139号土坑土層断面(南)
- D区140号土坑全景(南)
- D区140号土坑土層断面(西)
- D区141号土坑土層断面(西)
- D区142号土坑全景(南)
- D区142号土坑土層断面(西)
- D区154号土坑全景(北西)
- D区143号土坑土層断面(南)
- D区144号土坑全景(南)
- D区144号土坑土層断面(西)
- D区145号土坑全景(南)

PL 92

- D区145号土坑土層断面(南)
- D区146号土坑全景(南)
- D区146号土坑土層断面(西)
- D区147・148号土坑全景(西)
- D区147・148号土坑土層断面(西)
- D区149号土坑全景(南)
- D区149号土坑土層断面(南)
- D区150号土坑全景(北西)
- D区150号土坑土層断面(西)
- D区150・152号土坑、384・386・400・403・407号ビット輸出状況(南)
- D区151号土坑・403号ビット全景(西)
- D区151号土坑土層断面(西)
- D区152号土坑全景(北西)
- D区152号土坑土層断面(北西)
- D区153号土坑全景(西)

PL 93

- D区153号土坑土層断面(東)
- D区143号土坑全景(西)
- D区154号土坑土層断面(西)
- D区155号土坑全景(西)
- D区155号土坑土層断面(西)
- D区156号土坑全景(西)
- D区156号土坑土層断面(西)
- D区160号土坑全景(南)
- D区160号土坑土層断面(南)
- D区161号土坑全景(南)
- D区163号土坑・430号ビット全景(南)
- D区176号土坑全景(西)
- D区176号土坑土層断面(南)
- D区177号土坑全景(西)
- D区177号土坑土層断面(南)

PL 94

- D区178号土坑全景(南)
- D区178号土坑土層断面(南)
- D区179号土坑全景・土層断面(南)
- D区180号土坑全景(北)
- D区180号土坑土層断面(西)
- D区181号土坑全景(東)
- D区181号土坑土層断面(東)
- D区182号土坑全景(北)
- D区182号土坑土層断面(南)
- D区183号土坑全景(東)
- D区183号土坑土層断面(東)
- D区184号土坑全景(南)
- D区184号土坑土層断面(南)
- D区185号土坑全景・土層断面(南)
- D区186号土坑全景(南)

PL 95

- D区186号土坑土層断面(南)
- D区187号土坑全景(南)
- D区187号土坑土層断面(南)
- D区334号ビット全景(南)
- D区334号ビット土層断面(南)
- D区341号ビット全景(南)
- D区341号ビット土層断面(南)
- D区346号ビット全景(南)
- D区357・358号ビット全景(東)
- D区357・358号ビット土層断面(東)
- D区369号ビット全景(東)
- D区369号ビット土層断面(東)
- D区376号ビット全景(南)
- D区376号ビット土層断面(南)
- D区377号ビット全景(南)

PL 96

- D区377号ビット土層断面(南)
- D区388号ビット全景(西)
- D区388号ビット土層断面(南)
- D区396～398号ビット全景(南東)
- D区396～398号ビット土層断面(南)
- D区407号ビット全景(北東)
- D区420号ビット全景(西)
- D区441・442号ビット全景(南東)
- D区460・461号ビット全景(西)
- E区261号土坑全景(南)
- E区261号土坑土層断面(南)
- E区264号土坑全景(南)
- E区264号土坑土層断面(南)
- E区265号土坑全景(南)
- E区265号土坑土層断面(西)

PL 97

- E区全景(西)
- E区478号ビット土層断面(南)
- E区479号ビット全景(東)
- E区479号ビット土層断面(南)
- E区480号ビット全景(東)
- E区480号ビット土層断面(南)
- E区481号ビット全景(東)
- E区481号ビット土層断面(東)
- E区482号ビット全景(東)
- E区482号ビット土層断面(東)

PL 98

- A区基本土層(南)
- C3区基本土層1(北西)
- C3区基本土層2(南)
- C3区基本土層3(北)
- D区基本土層1(北)

PL 99 A区1・2号河道・土坑・ビット、B区1号住居・1号島・2号

井戸・56号土坑出土遺物

PL 100 B区56号土坑・遺構外出土遺物、C区2・4・5・8・9・11・

12号住居出土遺物

PL 101 C区20～22号住居出土遺物

PL 102 C区23・25号住居出土遺物

PL 103 C区25・27・29・31号住居出土遺物

PL 104 C区32～35・37～39号住居出土遺物

PL 105 C区40～44号住居出土遺物

PL 106 C区44・46・49・50号住居出土遺物

PL 107 C区51・53・55・58号住居・溝・河道・土坑出土遺物

PL 108 C区土坑・ビット・遺構外出土遺物

PL 109 D区13～15号住居出土遺物

PL 110 D区16～18号住居出土遺物

PL 111 D区18号住居・4号掘立柱建物・1号縦掘溝・6号溝・1号窪

地・土坑・ビット出土遺物、E区土坑出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

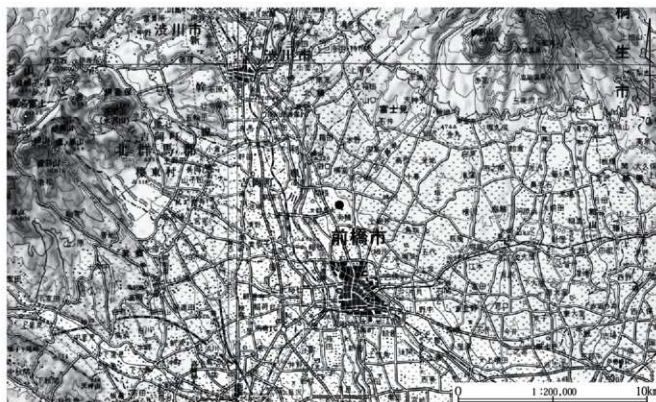
群馬県道161号一般県道南新井前橋線は、起点である北群馬郡榑東村大字新井の陸上自衛隊相馬原駐屯地前から途中前橋市高井町1丁目の高井町1丁目交差点で群馬県道15号主要地方道前橋伊香保線(吉岡バイパス)と接続し、同線と重用して北群馬郡吉岡町大久保の大松交差点で吉岡バイパスから再び分岐して利根川を上毛大橋で渡り、終点である一般国道17号線との前橋市荒牧町の荒牧町北交差点に至る道路である。

途中、北群馬郡榑東村大字新井の新井交差点で群馬県道26号主要地方道高崎安中渋川線及び群馬県道25号主要地方道高崎渋川線高崎渋川バイパスと、北群馬郡榑東村大字新井の下新井交差点で群馬県道154号一般県道新井下室田線と、前橋市清野町で群馬県道25号主要地方道高崎渋川線とそれぞれ交差している。吉岡バイパスとの重用区間の分岐点である吉岡町大久保の大松交差点から西

方向、駒寄スマートインターチェンジ南を經由して吉岡町陣場の高崎渋川線に至るバイパスの工事(第1期、大松-駒寄SIC南)が、元々吉岡町道であった道路を拡幅して進行している。

一般県道南新井前橋線日輪寺工区道路新設事業は、群馬県土木整備部によって、国道17号バイパス上武道路と周辺道路とのアクセス利便性の向上と地域における交通安全を目的に前橋市日輪寺町に計画された延長360m、幅20～26mの道路建設建設事業である。現在、同道の終点となっている、国道17号線と接続する前橋市荒牧町の荒牧町北交差点の、国道17号線を越えたさらに東側に延伸させ、現在建設中の上武道路に接続させるための道路の新設工事であり、すでに国道17号線を越え、桃ノ木川に架かる多嘉橋に至る地点まで道路の新設が完了している。

吉岡町の大松交差点から西側への延伸箇所である関越自動車道駒寄スマートインターチェンジへの接続部分が供用されるようになると、この日輪寺工区が建設される



第1図 道路の位置

(国土地理院20万分の1地形図「長野」平成24年5月1日発行、「宇都宮」平成23年6月1日発行を使用)

ことによって利根川右岸の吉岡町・高崎市方面と上武道路との双方方向アクセスが容易になり、ひいては開越自動車道駒寄スマートインタチェンジと上武道路間のアクセスの向上も期待出来、かつ周辺道路の渋滞解消や地域交通の安全性が向上することになる。

この、一般県道南新井前橋線日輪寺工区の道路新設事業は、群馬県土木整備部によって平成24年度から着手され、基本設計、地元説明などがなされていく中で、群馬県教育委員会文化財保護課に対して、工事対象地における埋蔵文化財の取り扱いについての照会がなされた。県教育委員会文化財保護課では、上武道路の建設工事に先だって、当該箇所北側約400mの前橋市川端町の川端山下遺跡、大堰川を挟んだ対岸に位置する前橋市川端根岸遺跡・諏訪遺跡において、古墳・奈良・平安時代集落遺跡の発掘調査実施しているため、当該工事箇所における埋蔵文化財の包蔵はほぼ確実と予見していたが、同年度中に埋蔵文化財試掘調査を実施し、古代の竪穴住居、溝、土坑などの遺構と土器片を検出し、埋蔵文化財の包蔵が確認出来たため、前橋市教育委員会文化財保護課との協議の上、前橋市0903遺跡として発見届が出された。県教育委員会文化財保護課から県土木整備部に対して、道路建設計画対象箇所は埋蔵文化財包蔵地であり、工事を実施するには、埋蔵文化財包蔵地を避けるよう工事計画を見直すか、あるいは当該箇所で行うのであれば、工事に先だって発掘調査を行い、埋蔵文化財の記録保存措置が必要であると伝えられた。

その後、工事の実務を担当する群馬県前橋土木事務所から、周辺には連絡と広範囲にわたって埋蔵文化財包蔵地が広がっており、包蔵地を避けて道路設計を見直すことは事実上不可能であり、地元協議も進んでいることから計画変更も無理であるとの趣旨の回答があったため、県教育委員会文化財保護課ではやむを得ず、対象地にかかる埋蔵文化財を発掘調査し、埋蔵文化財の記録保存の措置を図る方向で以後、県前橋土木事務所との調整を進めていった。

県前橋土木事務所では、平成25年度に測量設計、用地買収に着手、平成26年度も引き続き用地買収を行っていった。この間、県教育委員会文化財保護課は、県前橋土木事務所、前橋市教育委員会文化財保護課、当事業団との間で度々協議を重ね、発掘調査及び事後の整理業務

は、県前橋土木事務所と当事業団とが委託契約を締結して実施することになり、平成25年10月、両者の間で(一)南新井前橋線日輪寺工区社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う前橋市0903遺跡発掘調査委託契約が締結され、用地買収がなった平成25年度後半の12月1日から発掘調査に着手し、年度を越えた平成26年5月31日まで、総計9,207㎡が発掘調査された。

第2節 調査の方法と経過

1. 調査の方法

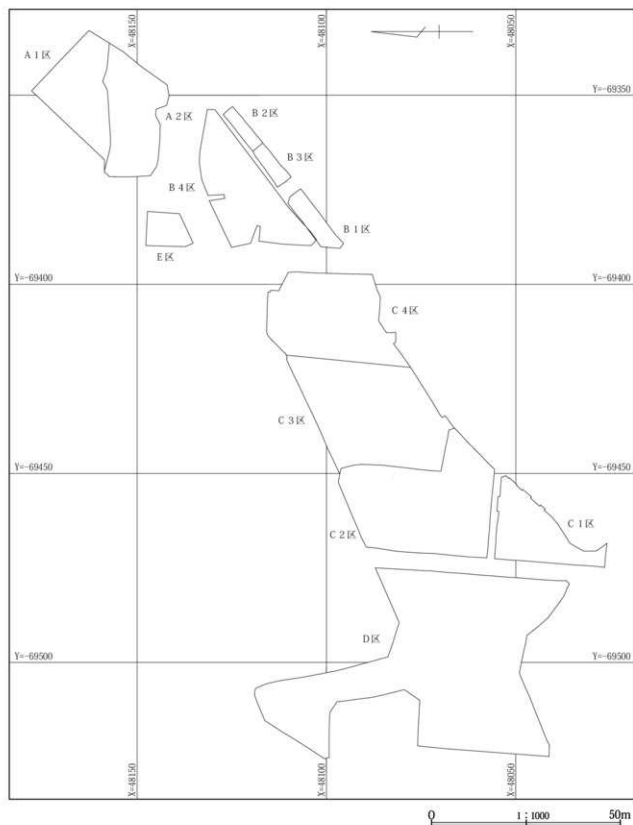
調査の対象になったのは、大堰川と桃ノ木川とに挟まれた標高約124m前後の沖積台地部の一帯である。平成24年度に、上武道路の建設に伴い発掘調査された川端根岸遺跡の、水路を挟んだすぐ南側に当たる。

遺構の測量には世界測地系(測地成果2000)を用いた。特に本遺跡特有のグリッドは設けていない。位置の表示が必要な場合は、1m×1m単位のグリッドを作り、その南東側の座標の下三桁を用いて表している(例：X=33,401、Y=87,285台、401-285と表す)。

調査であるが、まず、バックホーによる表土掘削の後に、鍬鏝を用いた作業員による人力での遺構確認を行い、奈良・平安時代の集落を中心とする多くの遺構が検出された。確認できた遺構について、人力による遺構埋土の掘削を行い、遺構や出土した遺物の測量・写真撮影などの記録を取りながら進めた。発掘調査で発見された遺構図面作成は、遺構土層断面図については、発掘作業員が手実測したものを測量業者がスキャンニングして図化し、遺構平面図については実測段階から業者に委託し、デジタル図面を作成した。

調査区は、現道によって北東側から南西側にかけて、A～Eの5区に分割された。平成26年12月1日から平成27年3月31日まで実施した第一次調査ではA・B・D区7,082㎡を、平成27年4月1日から5月31日まで実施した第二次調査では全調査区の中央部に当たるC・E区で調査を実施した。なお、B-1、B-2区のみ下層から遺構面が検出され、2面調査となった。

2次に亘る調査で確認できた主な遺構は、竪穴住居59棟、掘立柱建物跡4棟、溝13条、河道4条、井戸2基、竪穴4箇所、土坑209基、ピット479基、鍛冶遺構1箇所、



第2図 調査区設定図

第1章 調査の経過

窪地1箇所である。それぞれ埋土の土層観察のためのベルトを設定したり、あるいは半載するなどして掘り下げた。各遺構の名称は、各遺構の種類ごとに通し番号を付している。

遺構の測量は測量業者に委託し、平面図、断面図ともに縮尺は1/20とし、データをデジタル化してその後の整理作業の便を図っている。また、遺構・遺物共に写真撮影はデジタル一眼レフカメラを使用し、一部にプロローニー版の白黒フィルムを使用した。

すべての面の調査を終えた後に、調査区において東西2m×南北3mの旧石器確認のためのトレンチを2箇所設定して、人力によって掘削を行い、確認調査を実施したが、旧石器が検出されるような良好なローム層は確認することができず、当該期の火山灰の堆積層も確認することが出来なかったため、旧石器の分布はないものと判断した。

2. 調査の経過

現地における発掘調査は、平成26年も押し詰まった12月1日(月)、担当者として主任調査研究員関俊明と同じく小林茂夫の2名が配置され、バックホーによるA1・B1区の表土掘削から着手された。

最東北端のA1区は河道などの低地であり、12月15日(月)には調査を終了し、埋め戻しに取りかかった。B1区・B2区2面目及びA2区の調査も12月19日(金)までには終了した。これでA区及びB区の調査はすべて終了した。

B3区の調査は12月24日(水)に終了し、26年の調査は12月26日(金)を以て終了した。

明けて平成27年1月6日(火)から調査を再開、担当者は関・小林に代わって調査統括・上席専門員の関根慎二と主任調査研究員藤井義徳の2名が新たに着任し、新たな布陣での調査再開となり、B4区の調査から着手された。

1月13日(火)からはD区、16日(金)からはC2区、21日(水)からはC1区の調査に着手、1月23日(金)にはB4区、C1区の調査を終えた。また、2月4日(水)からはC4区の調査に着手した。

3月2日(月)から担当者として主任調査研究員小野隆が加わり、3月末まで担当者3人体制となった。3月6日(金)にC2区、11日(水)にD区の調査を終え、C4区

調査途中ながら、26年度の発掘現場での調査を20日(金)に終え、年度末まで基礎整理を実施した。

27年度は、4月1日(水)に担当者として主任調査研究員長澤典子と専門調査員飯田陽一の2名が着任し、4月8日(水)からC4区の調査が再開され、さらにC3区の調査にも着手された。5月18日(月)にはE区の調査にも着手し、E区の調査は5月21日(木)には終了した。5月25日(月)にC4区の調査も終了し、残すはC3区の調査のみとなったが、それも5月29日(金)には終了し、以後、調査区の埋め戻し、遺構実測図、遺構写真、出土遺物等の基礎整理を実施した。

・調査日誌抄

平成26年度

平成26年12月1日(月)担当者2名着任。

12月2日(火) A1区・B1区調査着手。

12月11日(木) A1区土坑・ビット・河道等調査。B2区調査着手。

12月12日(金) A1区空掘調査終了。B1・B2区ビット・土坑等調査。

12月15日(月) A2区調査着手。

12月16日(火) B1・B2区1面目全景写真撮影。調査終了。2面目の調査着手。

12月17日(水) B1・2区2面目全景写真撮影。調査終了。A2区土坑・ビット調査。

12月19日(金) A2区1面目全景写真撮影。調査終了。

12月22日(月) B3区調査着手。土坑・ビット調査。

12月24日(水) B3区調査終了。

12月26日(金) 平成26年調査終了。A区及びB1～3区の調査を終了。平成27年1月6日(火)平成27年調査開始。担当者2名交代。B4区調査着手。

1月13日(火) B4区土坑、ビット、1号井戸等調査。D区調査着手。

1月16日(金) B4区1号住居、28・9～29・1号ビット調査。C1区河道調査。C2区遺構確認。

1月23日(金) B4区1号住居、ビット調査。調査終了。

C1区5号住居、土坑調査。調査終了。

C2区2・7号住居、土坑調査。

1月26日(月) C2区2・4号住居、土坑、ビット調査。D区調査着手。

2月2日(月) B4区埋め戻し開始。C2区4・8号住居調査。DK6・7号溝、土坑調査。

2月10日(火) C2区土坑調査。D区13号住居、土坑、ビット、8・9号溝、2号溝調査。

2月12日(木) D区13号住居、ビット、掘削道構、3号溝調査。

2月20日(金) D区15号住居、土坑、ビット、10号溝調査。

2月25日(水)	C 2・4・D区地域住民向け現地説明会開催。
3月2日(月)	担当者1名増員。C 2区土坑、ビット調査。
3月6日(金)	C 2区河道全景写真撮影、調査終了。C 4区19号住居、ビット調査。 D区16～18号住居、土坑、ビット調査。
3月11日(木)	C 4区16～18号住居調査。D区19・20号住居、土坑、ビット調査、調査終了。
3月16日(月)	C 2区埋戻着手。C 4区22号住居、土坑調査。
3月17日(火)	D区埋戻着手。C 4区21・22号住居調査。
3月20日(金)	C 4区21号住居調査。平成26年度発掘調査終了。C 2区埋戻終了。
3月23日(月)	D区埋戻終了。

平成27年度

4月1日(水)	新担当者2名着任。前担当者との引継。
4月8日(水)	調査再開。C 4区19号住居跡調査。C 3区調査着手。
4月16日(木)	C 3区道幅確認。C 4区23・24号住居、土坑、ビット、13号溝調査。
4月20日(月)	C 3区25号住居、土坑調査。C 4区23・24号住居、土坑調査。
4月27日(月)	C 3区25・27・29号住居、土坑、14号溝調査。C 4区22・28号住居調査。
5月1日(金)	C 3区 26・27・29・31・32号住居、土坑、15号溝調査。C 4区調査継続。
5月7日(木)	C 3区26～29・31～33号住居、土坑、14号溝調査。
5月11日(月)	C 3区31～35号住居、土坑、ビット調査。
5月18日(月)	C 3区35・38・39・40・43・44・46・47・48・52号住居、土坑調査。E区調査着手。
5月21日(木)	C 3区35・39・41・45・47・50・51～53・55号住居、土坑調査。 C 4区土坑調査。 E区土坑、ビット調査、調査終了。
5月25日(月)	C 3区33・47・49・52・53・57～59号住居、土坑、ビット調査。旧石器確認調査着手。
5月29日(金)	C 3区25・52号住居調査終了。旧石器確認調査終了。C 3・4区埋戻。

3. 基本土層

基本土層は、A・C・D・E各区において確認した(各区全体図参照)。A・C区ではカスリーン台風(1947(昭和22)年9月8日発生17日消滅。最低気圧960hpa。台風本体が日本列島に接近したときにはすでに勢力を弱めつつあり、日本本土には上陸せず房総半島を掠め通ったのであるが、日本列島付近に停滞していた秋雨前線に南から湿った空気が供給されて活発化したため、9月14日から15日にかけて戦後治水史上に残るような大雨となり、特に関東・東北地方に甚大な被害が出た。死者 1,077名、行方不明者 853名、負傷者 1,547名。)に伴う洪水堆積物が明瞭に検出され、遺構はその下から検出されている。調査箇所は、現在の利根川に近く、また、大堰川と桃ノ木川とに挟まれた台地部に立地しており、調査対象地内からも旧河道が発見されるなど、河川の影響を多く受けているため、調査区ごとに土層の堆積状況が大きく異なるようなケースが見受けられるのが特徴的である。

(1) A区基本土層(付図2、PL.98)

位置：A区北西側壁の中央からやや北寄りの位置で確認した。

土層の検出状況：表土から約2.5mまでを掘り下げた。

- 表土(地表から地表下約0.1mまで)：灰黄褐色土 IOY4/2 締まりややあり、粘性あまりなし。
- カスリーン台風洪水層(地表下約0.1～0.8m)：にぶい黄褐色土 IOY4/3均質な砂質土。締まりなく、粘性あまりなし。
- カスリーン台風直前旧表土(地表下約0.8～1.1m)：暗褐色土 IOY3/4 締まりあまりなく、粘性ややあり。不均質。
- 近世洪水層(地表下約1.1～1.82m)：暗褐色土 IOY3/4締まりなく、粘性あまりなし。
- A1区1面地山(地表下約1.82～2.3m)：黄褐色土 IOY4/3 締まりあまりなく、粘性あまりなし。黄褐色土 IOY5/6締まりあまりなく、粘性ややあり。ややバサバサする砂質土。
- 褐色土(地表下2.3m～) IOY4/4締まり粘性とともになし。5～20cm大の円礫を大量(30～50%)に含む。

(2) C区基本土層(付図4、PL.98)

位置：C区の中央、C3調査区ほぼ中央の南壁で確認した。

土層の検出状況：

①A-A' 表土から約1.78mまでを掘り下げた。

- 3 灰色土10Y5/1(地表下0.54～0.8m) 粗粒砂サイズの砂質土層。ダイレクトな洪水層には見えない。
- 4 平安時代遺構の主な埋没土(地表下0.7～0.94m):灰黄褐色土10YR4/2 極細砂サイズの砂質土。FPらしいバミス最も多い。
- 5 灰黄褐色土(地表下約0.84～1.04m) 10YR4/2 4層と5層との漸移的な土。4層の土がブロック状に6層に混じるような部分あり。
- 6 オリーブ褐色土(地表下約0.82～1.14m) 2.5Y4/3 細粒砂。一部でラミナ状だが明瞭ではない。
- 7 灰褐色土(地表下約0.82～1.54m) 7.5YR5/2 C黒直上に見られるシルト質土層。場所によって黄色味の強い地点あり様でない。
- 8 黒褐色土(地表下約1.26m～) 10YR3/2 いわゆるC黒。上側でややネットリした土、下側でボソボソした土になる。Cは多量で粒径不揃い。層厚は20cm前後。この下にCの混じらない黒色土。層厚10～20cm。

②B-B' 表土から2.46mまでを掘り下げた。

- 1 カスリーン台風洪水層(表土から地表下約0.6～0.7m):灰色土10Y5/1 中粒砂～粗粒砂サイズ。ラミナ状。
- 2 江戸時代以降の遺構埋没土(地表下約0.5～0.7m):灰黄褐色土10YR4/2～暗褐色土10YR3/3やや砂質土。耕作土。FPらしいバミス少量含む。
- 3 灰色土10Y5/1(地表下1.02～1.31m) 粗粒砂サイズの砂質土層。ダイレクトな洪水層には見えない。
- 4 平安時代遺構の主な埋没土(地表下0.84～1.64m):灰黄褐色土10YR4/2 極細砂サイズの砂質土。FPらしいバミス最も多い。
- 5 灰黄褐色土(地表下約1.54～1.9m) 10YR4/2 4層と5層との漸移的な土。4層の土がブロック

状に6層に混じるような部分あり。

- 6 オリーブ褐色土(地表下約1.9～2.12m) 2.5Y4/3 細粒砂。一部でラミナ状だが明瞭ではない。
- 7 灰褐色土(地表下約1.9～2.08m) 7.5YR5/2 C黒直上に見られるシルト質土層。場所によって黄色味の強い地点あり様でない。
- 8 黒褐色土(地表下約2.1m～) 10YR3/2 いわゆるC黒。上側でややネットリした土、下側でボソボソした土になる。Cは多量で粒径不揃い。層厚は20cm前後。この下にCの混じらない黒色土。層厚10～20cm。

③C-C' 表土から約2.5mまでを掘り下げた。

- 1 カスリーン台風洪水層(表土から地表下約0.5～0.76m):灰色土10Y5/1 中粒砂～粗粒砂サイズ。ラミナ状。
- 2 江戸時代以降の遺構埋没土(地表下約0.74～0.98m):灰黄褐色土10YR4/2～暗褐色土10YR3/3やや砂質土。耕作土。FPらしいバミス少量含む。
- 3 灰色土10Y5/1(地表下0.84～1.4m) 粗粒砂サイズの砂質土層。ダイレクトな洪水層には見えない。
- 4 平安時代遺構の主な埋没土(地表下1.34～1.64m):灰黄褐色土10YR4/2 極細砂サイズの砂質土。FPらしいバミス最も多い。
- 5 灰黄褐色土(地表下約1.58～1.7m) 10YR4/2 4層と5層との漸移的な土。4層の土がブロック状に6層に混じるような部分あり。
- 6 オリーブ褐色土(地表下約1.62～1.84m) 2.5Y4/3 細粒砂。一部でラミナ状だが明瞭ではない。
- 7 灰褐色土(地表下約1.8～2.1m) 7.5YR5/2 C黒直上に見られるシルト質土層。場所によって黄色味の強い地点あり様でない。
- 8 黒褐色土(地表下約2.04m～) 10YR3/2 いわゆるC黒。上側でややネットリした土、下側でボソボソした土になる。Cは多量で粒径不揃い。層厚は20cm前後。この下にCの混じらない黒色土。層厚10～20cm。

(3) D区基本土層(付図5、PL.98)

位置: 南壁の東寄りで1箇所、西寄りで2箇所、計3箇所を確認した。

土層の検出状況: 表土から約2.5mまでを掘り下げた。

- 1 褐灰色土 10YR4/1 粘質土。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 シルト質。
- 3 褐灰色土 10YR4/1 φ 2mmの二ツ岳系軽石極少量含む。
- 4 黒褐色土10YR2/2 φ 1mmAs-C軽石極少量含む粘質土。
- 5 褐色土10YR4/4 φ 1mmAs-C軽石極少量含む粘質土。
- 6 黒褐色土10YR3/2 φ 1mmのAs-C軽石含む。φ 5mm褐色ブロック含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR5/4 粒子細かいシルト質土。
- 8 暗褐色土10YR3/4 粒子細かいシルト質土。
- 9 黒褐色土10YR3/1 φ 2mmのAs-C軽石含む粘質土。

(4) E区基本土層(付図2)

位置: 北壁の中央からやや西寄りの箇所を確認した。

土層の検出状況: 表土から約2.86mまでを掘り下げた。

- 1 灰黄褐色土(地表下約0.22~1.4m) 2.5Y6/2 カスリーン台風の洪水層。1'では粗粒となり、小円礫を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(地表下約1.4~1.54m) 10YR5/2 水田床土のような粘土層で、微細な鉄分の凝集が見られる。水田耕土みられない。
- 3 褐色土(地表下約1.54~1.82m) 7.5YR4/3 粘性土で2層から4層に漸移的に変化する。上半で鉄分凝集やや多く、下半で細礫少量含む。E区の遺構はこの層が埋没土となる。
- 4 黒褐色土(地表下約1.82~2m) 7.5YR3/2 ローム層内の暗色帯のような黒色味を帯びた粘性土層。下層は漸移的に5層へ至る。
- 5 鈍い黄褐色土(地表下約2m~) 10YR5/3 やや粒子の粗い粘性土で、褐色味を帯びる斑がある。5'~5"でこの斑が増え、5"では灰黄褐色10YR4/2前後の色調を呈する。

第3節 整理事業の概要

整理事業は平成27年10月1日から平成28年3月31日までと、平成28年10月から12月の合計9箇月間実施した。

遺構図面は調査区・調査面ごとに順次、点検・修正・編集を行い、掲載図面をデジタルデータとして作成し、ラフ・レイアウトを作成し、デジタルによるレイアウトを指示した。

遺物については、接合・復元・写真撮影・実測の後、実測図をスキャンニングして、デジタルデータ化した。遺物実測と並行して遺物の観察を行い、遺物観察表を作成した。

写真は、遺構・遺物ともデジタル写真から編集をおこなった。発掘調査現場で撮影した遺構写真は、掲載する写真を選出し、レイアウトを指示し、デジタルで図版原版を作成した。一方、遺物写真は、遺物の接合復元を行った時点で、掲載する遺物を選定し、平成28年1月下旬に写真撮影を行い、平成28年10月に入ってからレイアウトを指示して、遺構写真と同様、デジタルでの図版原版を作成した。

以上の作業と並行して本文の執筆、土層注記の修正・編集、遺物観察表等の作成を行い、それらレイアウトを作成した後にデジタル編集し、報告書原稿を作成し、総合的な編集作業を完了した。

なお、発掘調査報告書作成に当たり、県教育委員会文化財保護課の調整の上、前橋市教育委員会文化財保護課との協議により、本遺跡の名称を、遺跡所在地の大字小字名から日輪寺観音前遺跡(前橋市0903遺跡)とすることに決した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

日輪寺観音前遺跡(前橋市0903遺跡)は、群馬県の中南部、前橋市街地の北郊、前橋市役所から北へ約4.5kmの前橋市日輪寺町に所在する。遺跡が所在する場所は関東平野の北西最奥部に当たり、完新世に形成された河成段丘の後背湿地上に立地し、標高はおおよそ124m前後である。自然堤防の影響により利根川の直接的な影響を受けることなく、洪水等の自然災害時を除いては比較的稳定した環境にあったようである。

前橋市街地の平野部は、北東部に赤城火山斜面、南西部の洪積台地(前橋台地)と、それに挟まれた沖積低地(広瀬川低地)および現利根川氾濫原からなる。

本遺跡の北東側に所在する更新世火山である赤城山の高さは約300mと非常に近い位置にある。赤城山の火山活動は、約50万年前からの古期成層火山形成期、約20万年前からの新期成層火山形成期、約4.5年前からの中央火口形成期からなる。古期成層火山形成期にはスコリア噴出や溶岩流出により大規模な成層火山が形成され、最盛期には標高2,000m以上に達したと推定される。その後、山体崩落による岩層なだれによって、南麓から南西麓にかけて多田山や権現山、橋山などの流れ山が形成された。

古期成層火山形成後は、長い活動休止期があり山体の浸食が進んだ。新期成層火山の山体は主に溶岩流とテフラから構成され、浸食が進んだ古期成層火山を覆っている。

中央火口形成期には、カルデラの形成が進み、約4.5万年前にはカルデラ内で大規模な噴火が発生し、噴出された軽石は太平洋岸にまで達している。この時噴出した軽石が所謂「鹿沼土」であり、長石、角閃石、カンラン石などを成分とし、通気性・保水性が高く、強酸性で、雑菌をほとんど含まず、土壌乾燥の判断がしやすく、圃芸に優れた土として広く知られている。

その後、長七郎山・地藏岳などの中央火口丘群が形成された。中央火口丘群の形成後は、現在に至るまで浸食

作用が続き、火山麓扇状地が形成されている。

浅間山の山体前壊によって引き起こされた火山泥流堆積物(前橋泥流堆積物)とそれを覆うローム層から成る前橋台地は、利根川が赤城・榛名山麓間から関東平野に流れ出たところに広がる緩傾斜の台地である。前橋泥流堆積物の上下からはAs-BP Groupが確認されており、前橋泥流の堆積年代は約2.3万年前と推定される。

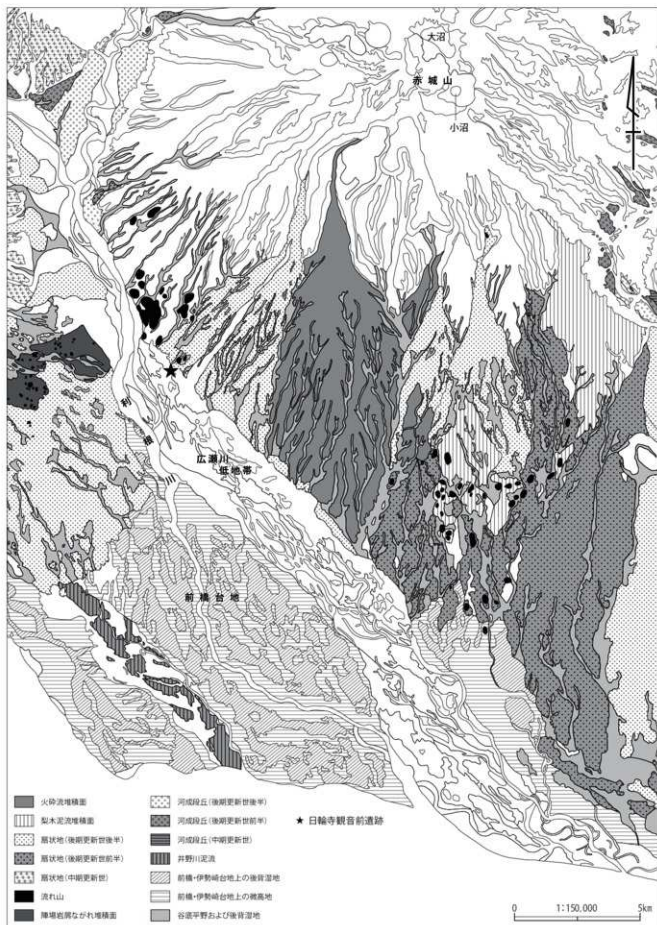
前橋台地と赤城火山南麓斜面との間には広瀬川低地帯(沖積低地)が広がり、前橋台地と広瀬川低地帯との間には比高差数mもの崖となっている。しかし、現在の広瀬川の流量では、広瀬川低地帯を形成するには不足と考えられており、一方、利根川は前橋台地の中央部を不自然に流下していることから、広瀬川低地帯が利根川の旧流路であったと推定するのが妥当であろう。

また、本遺跡の北西側には、利根川を挟んで更新世から完新世にかけての火山である榛名山があり、その山麓は利根川近くまで迫っている。

本遺跡は、赤城火山南西麓斜面と広瀬川低地帯との間、北に細ヶ沢川、南に大堰川、西に桃ノ木川に囲まれた後背湿地(河成段丘)上に位置している。

本遺跡の西約1.5kmには群馬県利根郡みなかみ町にある三国山脈の一つ、標高1,840mの大水上山に源を発し、流路延長約322km信濃川に次いで日本第2位、流域面積は約16,840km²で日本第1位であり、日本屈指の大河川利根川が南流している。この利根川のほぼ旧流路をなぞっているのが現在の利根川支流である広瀬川と桃の木川で、広瀬川は本遺跡の北側、渋川市北碓町の坂東合口で取水し、利根川沿いの自然堤防に沿って南流している。また、現在は広瀬川は、本遺跡の南東約1kmの位置を経て、河成段丘を縦断するように南南東に向かって流れている。一方、赤城山に源を発する法華沢川、細ヶ沢川、大堰川や赤城白川等の中小河川は山麓を開析しながら沖積地を下っている。細ヶ沢川は、現在では本遺跡の北西、大堰川は本遺跡の南西でそれぞれ桃ノ木川に合流しているが、河川改修が行われる前の細ヶ沢川は本遺跡の東側を流れていた。

この、赤城山と利根川とに挟まれた低地部は、完新世



第3図 日輪寺観音前遺跡周辺地形分類図(群馬県史編纂委員会『群馬県史』通史編1・付図2を改変)

の利根川の流れによって形成された沖積地であり、河岸段丘がみられる。この河岸段丘は旧中州と後背湿地に分けられるが、本遺跡は後者上に立地している。また、利根川沿いには広瀬川低地帯の旧中州の広がりが見られるが、この旧中州は利根川の自然堤防を形成しており、その形成時期は、1108（天仁元）年降下の浅間山火山灰As-B降下以降とされているが、前橋市田口町の田口上田尻遺跡における古墳時代集落の検出状況からみれば、その形成は古墳時代前期まで遡る可能性が高い。また、広瀬川低地帯の旧中州利根川寄りには、旧河道の痕跡が見られ、利根川の複雑な流路変更の様子を偲ぼせている。

沖積地における近代の集落は、1885（明治18）年測図の陸軍迅速図に示されるように、赤城山麓地帯にも営まれているが、沖積地における集落は微高地上に営まれている。

本遺跡周辺は戦後しばらくの間は典型的な農村地帯であり、水田も形成されているが、この水田は近世中期の前橋藩主酒井忠孝による用水整備を伴う新田開発によるものであり、従前は桃の木川や小河川沿いに細々と営まれていたに過ぎない。近年では市街地化が進行し、本遺跡の西には国立法学法人群馬大学の荒牧キャンパスが、西北には群馬県総合スポーツセンターがあり、それ以南は住宅団地が造成されている。本遺跡の西側約500mの位置を北北西-東南東方向に一般国道17号線が通り、本遺跡は先述したように現在建設中の上武道路へのアクセス道の建設に先だって発掘調査が行われたわけであり、本遺跡周辺は、一般国道17号線、同国道のバイパスである上武道路、主要地方道である前橋・渋川バイパスなどの幹線道路が交差する交通の要衝となる。

調査区内には1947（昭和22）年9月に襲来したカスリーン台風（昭和22年台風第9号、中心気圧960hPa、最大瞬間風速45m/s。15日早朝に遠州灘沖合いを通過、夜に房総半島南端をかすめ、16日には三陸沖から北東に去った。停滞していた秋雨前線に、南からの湿った空気が供給され大雨となり、利根川や荒川の堤防が決壊。関東地方に住宅損壊9,298棟、浸水384,743棟、耕地流失埋没12,927ha、罹災者40万人という甚大な被害をもたらした。特に群馬県赤城山麓において土石流や河川氾濫が多発し、県内における死者は592人に達した。）による洪水土砂が1.5mほど厚く堆積しており、遺構確認が地表

下3mもの深さになった箇所も存在した。

参考文献

群馬県史編纂委員会1990『群馬県史』通史編1
群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村鑑覧』
群馬県地質図作成委員会1995『群馬県10万分の1地質図』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根榎ヶ沢遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『弓切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
前橋市史編纂委員会1971『前橋市史』1
国土交通省関東地方整備局HP「防災」-「カスリーン台風」
(http://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai100000006.html)

第2節 歴史的環境

調査対象地は、インターネット上に公開されている群馬県統合型地理情報システム(GIS) マッピングぐんまの「遺跡・文化財」<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma>、2015年12月現在のデータによれば、前橋0903遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地とされている。

1. 旧石器時代

本遺跡周辺では、旧石器時代の遺跡は、近年の上武道路建設に伴う調査の進展によって、遺跡数は増加しつつあるものの、全体的に、分布は希薄である。

青柳町の青柳宿上遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)では浅間山火山灰As-Y層下から石器2点が出土した。上細井町の新田上遺跡(前橋市0034遺跡、第4図18)でもAs-Y層下から硬質頁岩製と黒色安山岩製の石器109点が出土し、五代町の鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(前橋市0049遺跡)でもAs-Y層下から硬質頁岩製を中心に石器350点が出土した。また、鳥取町の駒城遺跡(前橋市0023遺跡)では浅間山火山灰As-Y層下-浅間山火山灰As-OK 1から黒曜石製を中心に石器79点が出土し、上細井町の上細井嶺遺跡(前橋市0015遺跡、第4図13)においてはAs-OK 1を含む層から黒色頁岩製と黒色頁岩製の石器2点が出土している。このように、本遺跡周辺の旧石器時代遺跡は、赤城火山南西麓斜面に立地する比較的新しい時期のものである。



第4図 日輪寺観音前遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)

第2章 遺跡の位置と環境

第1表 周辺遺跡一覧表

	遺跡No.・名称・ID	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	中近	近代	種別・概要	文献
1	日輪寺観音前遺跡				○	○	○		集落、散布地、生産遺跡。	本道跡
	川端岸遺跡	04563	○		○	○	○		集落、散布地、生産遺跡。	
	川端道東(山下)遺跡	04564				○	○		集落。	
2	関根堀ヶ沢遺跡	04572			○	○	○		集落、生産遺跡。古墳溝7、水田2、平安住居149、溝36、製鉄炉3、鍛冶1、中近世溝22、サケ群8、餅作庫4など。	13
	前橋市0001遺跡	02245					○		散布地。	
	前橋市0002遺跡	02245					○		散布地。	
4	前橋市0003遺跡	04275			○	○	○		散布地。	
5	千手堂遺跡	00312	○						集落。	19
	田口八幡1遺跡	00313							集落。平安住居14など。	
	田口八幡2遺跡	00314					○		集落、生産遺跡。平安住居24など。	
	天神宮遺跡	00317	○						集落。	
	八幡遺跡	00332	○		○				集落。	
	富士見地区道跡群 陣場遺跡	02917	○			○			集落。縄文住居24、平安住居73など。	
	下庄司原西遺跡	02920	○	○	○	○			集落。縄文住居4、平安住居20など。	
	下庄司原東遺跡	04506	○		○	○			集落。縄文住居6、古墳住居10、奈良平安住居41など。	
	上庄司原西遺跡	02923	○	○	○	○			集落。古墳住居6、奈良平安住居6など。	
	上庄司原東遺跡	02925	○	○	○	○			集落。縄文住居4、平安住居7など。	
上庄司原北遺跡	02928			不	明			集落。		
米野下原遺跡	02942	○		○				散布地。		
	00344	○		○				集落。		
6	田口上田尻遺跡	04605			○	○	○		集落、生産遺跡。古墳～平安住居311、期26、近世復旧庫59、水田6など。	6
	田口下田尻遺跡	04606			○	○	○			
		04507			○	○	○			
	関根赤城遺跡	04571			○	○	○		集落、生産遺跡。古墳堀1、平安住居39など。	11
7	前橋市0009遺跡	02126					○		生産遺跡。江戸堀9、溝1など。	41
8	前橋市0010遺跡	00309							城館。江戸堀9、溝1など。	54
9	短久保遺跡	02953	○		○	○	○		集落。	23
	短久保B遺跡	02956		○		○	○		集落。古墳住居1、中近世溝1など。	23,26
		02957		○		○	○		集落。	27
	短久保C遺跡	02958		○		○	○		集落。	27
		02959		○		○	○		集落。	27
	短久保D遺跡	02960		○		○	○		集落。	31
		02961		○		○	○		集落。	31
	短久保E・F遺跡	02975		○		○			集落。	30
	短久保G遺跡	02973			不	明			集落。	22,33
		02974			不	明			集落。	22,33
	原之郷新川遺跡	02980	○					散布地。	33	
	02247	○				○		散布地。		
	04593	○						散布地。		
10	前橋市0012遺跡	原之郷下白川遺跡	02986				○		散布地。	27,29,30
11	青柳遺跡	00283				○			集落。古墳住居1。	45
	青柳宿上遺跡	00284	○	○	○	○	○		集落。旧石器、縄文住居1、古墳住居29、縄文早期包含層など。	14,45
	04554								集落。古墳住居29、奈良住居3、縄文早期包含層など。	14,35
12	引切塚遺跡	00336			○	○			集落。古墳住居29、奈良住居3、縄文早期包含層など。	14,35
	04557								集落。古墳住居29、奈良住居3、縄文早期包含層など。	14,35
	引切塚B遺跡	00338				○			集落。古墳住居2など。	36
	03705					○			集落。古墳住居2など。	36
	山王・柴遺跡群	03866				○			集落。As-B下水田？	
12	神明A遺跡	00302				○			集落。	
	神明B遺跡	00303				○			集落。	
	念仏遺跡	03052					○		散布地。	
	山王・柴遺跡群	04555	○		○	○			集落。As-B下水田？	
	02248						○		散布地。	

道跡№・名称・ID		旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	中近	近代	種別・概要	文献
13	前橋市0015道跡	時沢西萩林道跡	03075			○			集落。	33,34
		時沢西萩林Ⅱ道跡	04492				○		集落。	
		上畑井中島道跡	03864	○			○	○	集落。縄文住居7、平安住居7、縄文早期包含層など。	9
		上畑井嶺山道跡	03865	○		○	○		集落。旧石器、縄文住居1、平安住居25など。	8
14	前橋市0016道跡	諏訪道跡	00305			○		集落。		
		南橋東原道跡	02127			○	○	集落。古墳～平安住居52など。	53	
15	前橋市0031道跡	00225	○		○	○		散布地。		
16	前橋市0032道跡	青柳宿前道跡	00285			○		集落。	38	
		青柳宿前Ⅱ道跡	01311			○		集落。	39	
17	前橋市0033道跡	00288				○		集落。平安住居12など。	47	
18	前橋市0034道跡	新田上道跡	00300	○	○	○	○	○	集落。旧石器ブロック6、縄文住居13、配石1、古墳住居2、平安住居31など。	12
		時沢四ッ塚道跡	03049	○		○			散布地。	
		時沢原谷戸道跡	03081				○		集落。	31
		王朋久保道跡	00293	○		○			集落。	
19	前橋市0035道跡	薬師道跡	00343	○		○			集落。	
		時沢宮東道跡	03068			○	○		集落。	32,34
			03069							
		時沢西高田道跡	03070			○	○		集落。	26,27,30
			03071							
			03072							
		時沢西高田B道跡	03072				○		集落。	27
		時沢西紺屋谷戸道跡	03077				○	○	集落。	29
	03078									
	上町・時沢西紺屋谷戸道跡	03862				○	○	集落。古墳～平安住居47など。	10	
	王久保道跡	03863			○	○		集落。古墳～平安住居25、平安鑑治1など。	7	
		04594				○	○	集落。		
20	前橋市0036道跡	八幡山の菅	00334				○	城館。	54	
21	前橋市0063道跡	八幡前道跡	01312			○	○	散布地。		
22	前橋市0068道跡	02253	○		○			散布地。		
23	前橋市0115道跡	若宮道跡	00263			○		集落。平安住居14、溝3など。	48	
		箱野小間土道跡	94599			○		集落。		
24	前橋市0116道跡	勝山城	00043				○	城館。	5	
		元景寺経塚道跡	00078				○	城館。		
25	前橋市0124道跡	総社城	00154				○	城館。	54	
			01381				○	城館。	42	
	総社町屋敷南道跡	03879	○		○			集落。	44	
26	前橋市0125道跡	宝塔山古墳 (総社村9号古墳)	04509			○		古墳。	3,43	
27	前橋市0126道跡	南橋村41号古墳	02797			○		古墳。	3	
		神明古墳	04615			○		古墳。		
28	前橋市0589道跡	横室古墳 (富士見村13号古墳)	02943			○		古墳。	3	
29	前橋市0591道跡	富士見地区道跡群 初室古墳 (富士見村7号古墳)	02950			○		古墳。	21	
30	前橋市0595道跡		04351			○	○	集落。		
			04352							
31	前橋市0596道跡	陣場	02953				○	城館。	5	
32	前橋市0599道跡	原之郷戸田道跡	02983					散布地。		

第2章 遺跡の位置と環境

	道跡No・名称・ID	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	中近	近代	種別・概要	文献
33	前橋市0603道跡	遠見山古墳 (総社村6号古墳)	04444						古墳。	3
		鞍六山古墳 (総社村8号古墳)	04443						古墳。	3,37
		宝珠山古墳 (総社村9号古墳)	04447						古墳。	3,46
		愛宕山古墳 (総社村10号古墳)	04445						古墳。	3,45
		総社二子山古墳 (総社村11号古墳)	04446						古墳。	3, 4
		稲荷山古墳 (総社村12号古墳)	00016						古墳。	3,50
34	前橋市0639道跡	04454						散布地。		
35	前橋市0725道跡	引田高塚遺跡	02843						集落。縄文住居1、平安住居1など。	28,29
		引田原遺跡	02844						集落。	15
36	前橋市0726道跡	引田瀬訪三反田遺跡	02851						散布地。	
		富士見地区道跡群 赤城道跡	02845						集落。	20
		富士見地区道跡群 長泉寺道跡	02938						集落。縄文住居2、平安住居4など。	
		富士見地区道跡群 山森道跡	02913						集落。縄文住居2、平安住居23、掘立10など。	18
37	前橋市0727道跡	引田高橋道跡	02940						その他。	
		米野広町道跡	02854						散布地。	
38	前橋市0741道跡	横室寄居	02909						城館、その他。	54,55
		富士見地区道跡群 寄居道跡	02914						城館、その他。中近世溝4など。	17
39	前橋市0748道跡	富士見地区道跡群 愛宕山道跡	02910						集落。生産。縄文住居12、土坑150、平安塚 1など。	21
		富士見地区道跡群 愛宕道跡	02901						生産道跡。近世採石跡1。	
40	前橋市0749道跡	横室中道跡	02915						生産道跡。	26
41	前橋市0750道跡	富士見地区道跡群 田中田道跡	02930						集落。縄文住居9、古墳住居61、溝1など。	16
		富士見地区道跡群 田中道跡	02936						集落。縄文住居2、配石1など。	17
42	前橋市0751道跡	富士見地区道跡群 久保田道跡	02911						集落。縄文住居6、古墳住居1、奈良平安 住居13など。	18
		富士見地区道跡群 白川道跡	02912						集落。縄文住居2、古墳住居20、奈良平安 住居14、掘立11など。	
43	前橋市0752道跡	森山古墳 (富士見村6号古墳)	02944						古墳。	3
		道上古墳	02945						古墳。	
44	前橋市0753道跡	花井古墳 (富士見村14号古墳)	02946						古墳。	3,15
45	前橋市0754道跡	横室前道跡	02948						散布地。	15,30
46	前橋市0755道跡	田島城	02952						城館。	54
47	前橋市0756道跡	富士見地区道跡群 日向道跡	02939						城館。	21
		森山城(引田城)	02954						城館。	55
48	前橋市0757道跡	原之郷鎌原道跡	02949						集落、散布地。	
		田島上の台道跡	02951						散布地。	
49	前橋市0758道跡	富士見地区道跡群 岩之下道跡	02977						集落。縄文土坑3、古墳住居9、奈良平安 住居15など。	17
		横室東沢1道跡	02982						散布地。	
50	前橋市0759道跡	原之郷鯉沢道跡	02962						集落。平安住居2、掘立1など。	25
			02963						集落。	
51	前橋市0760道跡	原之郷東原道跡	02976						集落。	22
		原之郷後原道跡	02978						集落。	
52	前橋市0761道跡	原之郷善養寺道跡	02984						集落。	27
53	前橋市0762道跡	富士見瀬1号古墳	03724						古墳。	
54	前橋市0763道跡	原之郷山ノ後道跡	02985						散布地。	

道跡№・名称・ID		旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別・概要	文献
55	前橋市0764道跡 九十九山古墳 (富士見村16号古墳)	02987			○				古墳。	3
56	前橋市0765道跡 九十九山の惣	02988				○			城館。	5
57	前橋市0766道跡 金山城	02989					○		城館。	54
58	前橋市0767道跡 小沢の場道跡	02995 02996			○	○	○		集落。古墳溝1、平安住居2、中近世溝1など。	24
59	前橋市0769道跡 原之郷鹿阿弥道跡	03001	○		○	○			集落。	
60	前橋市0773道跡 田島鉄砲林道跡	03011			○				散布地。	
61	前橋市0776道跡 十二道跡	03016	○						集落。	
62	前橋市0777道跡 時沢中島道跡	03051			○	○			墳墓。	
63	前橋市0778道跡 田島清水道跡	03015	○		○				散布地。	
64	前橋市0779道跡 鎌塚古墳 (富士見村15号古墳)	03012			○				古墳。	3
65	前橋市0783道跡 山王・柴道跡群	04488			○				古墳。	
66	前橋市0843道跡 青柳寄居道跡	03950				○			生産道跡。水田。	47
		塩原塚古墳			○				古墳。	45
67	前橋市0846道跡	田口冠木道跡・田口冠木道跡1号古墳(南橋村24号古墳)	01245		○				古墳。	3,40
		富士塚古墳(南橋村28号古墳)	00340			○			古墳。	
		南橋村32号古墳	02233			○			古墳。	
		南橋村33号古墳	02234			○			古墳。	
		諏訪古墳群	02236			○			古墳。	
		諏訪古墳群B(南橋村34・36・37号古墳)	02237			○			古墳。	3
		諏訪古墳群C	02238			○			古墳。	
		冠木古墳群A(南橋村16～22号古墳)	02239			○			古墳。	
		冠木古墳群B(南橋村24～26号古墳)	02240			○			古墳。	
		南橋村35号古墳	02241			○			古墳。	3
68	前橋市0847道跡	下庄司原1号古墳・富士見村狐塚古墳(富士見村10号古墳)	02921			○			古墳。	
		上庄司原1号古墳(富士見村8号古墳)	03955			○			古墳。	
		上庄司原2号古墳(富士見村9号古墳)	02929			○			古墳。	3,19
		上庄司原3号古墳	02926			○			古墳。	
		上庄司原4号古墳(富士見村11号古墳)	02924			○			古墳。	
		陣場1号古墳(富士見村12号古墳)	02918			○			古墳。	
		陣場2号古墳	02919			○			古墳。	
		富士見地区道跡群 陣場道跡	03952			○			古墳。内墳2。	19
		上庄司原西道跡	03953			○			古墳。周溝墓1。	
		上庄司原東道跡	03954			○			古墳。内墳2。	
上庄司原北道跡	04428			○			古墳。内墳1。			
田口八幡1道跡	04603			○			古墳。内墳1。	51		
		04450			○			古墳。		
69	前橋市0858道跡	引切塚古墳(南橋村40号古墳)	00339			○			古墳。	35
		引切塚道跡	04329			○			古墳。	
70	前橋市0865道跡	04169		不	明			散布地。	42	
71	前橋市0901道跡	04583		不	明			生産。その他。		
72	前橋市0913道跡	04604			○	○	○		水田。生産。	6
73	前橋市0943道跡	04670					○		城館。	55
74	瓜山道跡			○	○				散布地。集落。縄文住居2など。	1, 2
75	橘峠道跡			○		○			散布地。	

第2章 遺跡の位置と環境

文献

1	北橋村教育委員会1990『東條遺跡・瓜山遺跡』
2	北橋村教育委員会2000『北橋村村内遺跡』Ⅱ
3	群馬県1938『上毛古墳総覧』
4	群馬県史編纂委員会1981『群馬県史』資料編3
5	群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
6	群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』
7	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『壬久保遺跡』
8	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上畑并山遺跡』
9	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上畑并中島遺跡』
10	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西組屋谷戸遺跡』
11	群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
12	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
13	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根郷々沢遺跡』
14	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
15	富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
16	富士見村教育委員会1986『田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見取遺跡』
17	富士見村教育委員会1987『富士見地区遺跡群 向吹張遺跡・田中遺跡・岩之下遺跡・資居遺跡』
18	富士見村教育委員会1989『富士見地区遺跡群 白川遺跡・山森遺跡・久保田遺跡』
19	富士見村教育委員会1991『富士見地区遺跡群 陣場・庄司原古墳群』
20	富士見村教育委員会1993『富士見地区遺跡群 赤城遺跡・長泉寺遺跡』
21	富士見村教育委員会1994『富士見地区遺跡群 愛宕山遺跡・初室古墳・愛宕遺跡・日向遺跡』
22	富士見村教育委員会1997『平成8年度村内遺跡』
23	富士見村教育委員会1998『旭久保B遺跡』
24	富士見村教育委員会1998『小沢の場遺跡』
25	富士見村教育委員会1998『原之郷開拓遺跡』
26	富士見村教育委員会1998『平成9年度村内遺跡』
27	富士見村教育委員会1999『平成10年度村内遺跡』
28	富士見村教育委員会2001『引田高塚遺跡』
29	富士見村教育委員会2001『平成12年度村内遺跡』
30	富士見村教育委員会2002『平成13年度村内遺跡』
31	富士見村教育委員会2004『平成15年度村内遺跡』
32	富士見村教育委員会2006『時沢宮東遺跡』
33	富士見村教育委員会2007『時沢西森林遺跡』
34	富士見村教育委員会2009『平成16～19年度村内遺跡』
35	前橋市教育委員会1985『引切塚遺跡』
36	前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ遺跡』
37	前橋市教育委員会1996『市内遺跡発掘調査報告書』
38	前橋市教育委員会2000『市内遺跡発掘調査報告書』
39	前橋市教育委員会2001『市内遺跡発掘調査報告書』
40	前橋市教育委員会2004『年報』35
41	前橋市教育委員会2007『市内遺跡発掘調査報告書』
42	前橋市教育委員会2008『市内遺跡発掘調査報告書』
43	前橋市教育委員会2009『市内遺跡発掘調査報告書』
44	前橋市教育委員会2009『年報』40
45	群馬県史編纂委員会1971『前橋市史』1
46	前橋市文化財研究会1976『蛇ヶ山古墳調査概報』
47	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳宿居遺跡』
48	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989『若宮遺跡』
49	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1996『総社愛宕山遺跡』
50	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『稲刈山古墳』
51	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅰ遺跡』
52	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅱ遺跡』
53	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橋原遺跡』
54	山崎一1971『群馬県古城遺址の研究』上
55	山崎一1979『群馬県古城遺址の研究』補遺編上

2. 縄文時代

縄文時代になると、本遺跡周辺の遺跡数は多くなる。とくに縄文時代前期の遺跡数が多い。中期以降のものは減少に転ずる。

縄文時代草創期の遺物は、勝沢町の堤遺跡・小神明遺跡群湯気遺跡(前橋市0045遺跡)・端気遺跡群、小神明町の小神明勝沢境遺跡(前橋市0046遺跡)などから出土している。

縄文時代早期の集落は、渋川市北碓町の城山遺跡で検出されている。当該期の遺物では、上細井町の上細井五十嵐遺跡(前橋市0037遺跡)、小神明町の端気遺跡群(前橋市0046遺跡)などからは蒸土系土器が、また、上細井町の丑子遺跡(前橋市0038遺跡)から条痕土器が出土しているほか、青柳町の青柳宿上遺跡・引切塚遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)、上細井町の上細井中島遺跡(前橋市0015遺跡、第4図13)などから早期の遺物包含層が確認されている。

縄文時代前期の集落は、赤城火山南西麓斜面に多く分布しており、田口町の下庄司原西遺跡・下庄司原東遺跡・上庄司原東遺跡・富士見地区遺跡群陣場遺跡(前橋市0004遺跡、第4図5)、上細井町の上細井嶺山遺跡(前橋市0015遺跡、第4図13)、富士見町の富士見地区遺跡群愛宕山遺跡(前橋市0748遺跡、第4図39)、富士見地区遺跡群田中田遺跡(前橋市0749遺跡、第4図40)、上細井町の上細井五十嵐遺跡・芝山遺跡・下箱田向山遺跡(前橋市0037遺跡)、などから検出されている。

周辺では中期の遺跡数は少ない。上細井町の上細井中島遺跡(前橋市0015遺跡、第4図13)、新田上遺跡(前橋市0034遺跡、第4図18)、渋川市北碓町の瓜山遺跡(第4図70)などから集落が確認されている。

後晩期の遺跡は少ない。小神明町の堤遺跡・小神明遺跡群九料遺跡(前橋市0045遺跡)、鳥取町の鳥取福蔵寺遺跡(前橋市0049遺跡)などから後期の集落が検出されている。また、青柳町の青柳宿上遺跡・引切塚遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)から晩期千網式土器が出土している。

3. 弥生時代

本遺跡周辺の弥生時代の遺跡数は、縄文時代晩期から継続して少なく、分布も赤城山南西麓斜面に限られてい

る。弥生時代後期の遺跡が多い。

上細井町の新田上遺跡(前橋市0034遺跡、第4図18)から中期の集落が、小神明町の小神明遺跡群湯気遺跡・倉本遺跡(前橋市0045遺跡)から中期～後期の集落が、上細井町の丑子遺跡(前橋市0038遺跡)から後期の集落がそれぞれ検出されている。また、青柳町の青柳宿上遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)からは中期の土器が出土している。

4. 古墳時代

古墳時代になると再び本遺跡周辺の遺跡数は多くなる。

古墳時代前期の集落は、田口町の下庄司原東遺跡(前橋市0004遺跡、第4図5)、同じく田口町の田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)、青柳町の引切塚遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)、富士見町の富士見地区遺跡群田中田遺跡(前橋市0749遺跡、第4図40)などで確認されている。田口町の上庄司原西遺跡(前橋市0004・0847遺跡、第4図5・68)からは集落に近接して周溝墓も検出されている。青柳町の山王・柴遺跡群(前橋市00013・0014遺跡、第4図11・12)からは浅間山火山灰A-C降下時期前後の畠4群が確認されており、古墳時代初期の生産域の存在を示すものである。

中期の集落は、田口町の田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)、富士見町の富士見地区遺跡群田中田遺跡(前橋市0749遺跡、第4図40)などから検出されている。

後期の集落は、田口町の下庄司原東遺跡(前橋市0004遺跡、第4図5)、田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)、青柳町の青柳宿上遺跡・引切塚遺跡(前橋市0013遺跡、第4図11)、日輪寺町の南橋東原遺跡(前橋市0016遺跡、第4図14)、富士見町の富士見地区遺跡群田中田遺跡(前橋市0749遺跡、第4図40)などから確認されている。

一方、古墳は、まず、上細井町の山王・柴遺跡群(前橋市0783遺跡、第4図65)から方墳と小石塚墓が確認されている。方墳の主体部は削平され失われていたが、周堀内に榛名山火山灰Hc-F層の堆積が確認でき、5世紀後半～6世紀初頭頃のものとして推定される。他に、6世紀前半の前方後円墳である富士見町の九十九山古墳(富士

見村16号古墳、前橋市0764遺跡、前橋市指定史跡、第4図55)、6世紀後半～7世紀の円墳の横穴式石室の一部が検出された上細井町の山王・柴遺跡群(前橋市0783遺跡、第4図65)、後期の円墳が群集する田口町の陣馬・庄司古墳群(前橋市0847遺跡、第4図68)、同じく後期の円墳である青柳町の引切塚古墳(前橋市0858遺跡、第4図69)などがある。

5. 奈良・平安時代

律令制下の上野国内には、当初、碓氷・片岡・甘楽・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽の13郡が置かれていたが、『続日本紀』和銅4年3月辛亥(6日)条や、高崎市吉井町地に現存する多胡碑文に見えるように、711(和銅4)年に甘楽郡・片岡郡・緑野郡から割かれた300戸によって多胡郡が新たに設置され、14郡となった。

前橋市域は、ほぼ利根川左岸側が勢多郡、利根川右岸側が群馬郡に当たっているものと考えられ、本遺跡は勢多郡。平安時代中期に成立した『和名類聚抄』によれば、勢多郡には深田、田邑、芳賀、桂堂、真壁、深栗、深澤、時澤、藤澤の9郷が存在した。本遺跡の北方には渋川市北極町真壁、東方には前橋市富士見町時沢という、勢多郡内の郷名に由来すると考えられるような地名が遺存している。

本遺跡に近接する前橋市荒牧町は、地名から古代の牧の所在地に比定されている。上野国については、すでに天平6年(734)尾張国正税帳に6月に上野国に下る種馬10頭に秣25束を支出したことが記されており、早くもこの時期には官牧が設置されていたことがわかる。

また先掲した『延喜式』左馬寮御牧条によれば、御牧として、利州・有馬島・沼尾・拝志・久野・市代・大藍・鹽山・新屋の9牧が設置されており、同式年貢条によれば、毎年50疋が京進されることになっていた。また、『政事要略』巻23年中行事8月下旬に見える「廿八日上野勅旨御馬事」の割注には、前掲の9御牧の他にさらに「小栗田」「平澤」の2牧の名があげられており、9御牧の他にもそれに準ずるような官牧が存在していたことがわかる。

『富士見村誌』続編では、拝志荘関係史料が分布する旧細ヶ沢川以西の赤城火山南西麓から西麓にかけての広大な地域を拝志荘と推定している。本遺跡付近では、近世

の史料ではあるが、1770(明和7)年の日輪寺棟札に「上野国勢多郡林正日輪寺村」とあり、本遺跡周辺に林=拝志の地名が遺っていたことが判明する。

本遺跡に近接した場所には、上野国内に設置された古代の9箇所の御牧の一つである拝志牧が所在した可能性が高い。

『延喜式』左馬寮諸国所貢飼馬牛条には、上野国から年に馬45疋が兵部省に貢進されると規定されているが、年貢御馬50疋とあわせると合計95疋ということになり、年貢御馬と所貢飼馬の合計数は全国最多である。

また、上野国はしばしば律令国家の征夷戦争の兵站基地として、兵士・軍馬・革甲等の調達地とされていた。そのような状況下、上野国の官牧は、元来、律令国家が必要とする馬の最大級の供給源の一つであった。

本遺跡周辺には、古墳時代から集落が継続して営まれている集落遺跡として田口町の田口下田尻遺跡・田口上田尻遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)、富士見町の久久保遺跡(前橋市0011遺跡、第4図9)、日輪寺町の南極東原遺跡(前橋市0016遺跡、第4図14)、川端町の川端根岸遺跡(前橋市0903遺跡、第4図1)などが存在している。奈良時代以降の集落としては、川端町の関根細ヶ沢遺跡・川端道東遺跡(前橋市0903遺跡、第4図1)などが上武道路の建設に先だって調査されている。

なお、田口町の田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)では7世紀及び10世紀の、上細井町の王久保遺跡・上町時沢西組屋谷戸遺跡(前橋市0035遺跡、第4図19)では9世紀の、関根町の関根赤城遺跡(前橋市0008遺跡、第4図6)では10～11世紀の鍛冶遺構も、集落の他に検出されている。赤城山南麓では古代の鍛冶遺構の検出が少なくなると、山麓の斜面を利用しての馬の放牧地などが存在した可能性が想定される。

上細井町の新田上遺跡(前橋市0034遺跡、第4図18)では、集落と集落の中心を東西に走る道路状遺構の検出が特筆される。また、青柳町の青柳寄居遺跡(前橋市0843遺跡、第4図66)からは平安時代の水田と、その下層から集落が検出されている。青柳町の山王・柴遺跡群(前橋市0013・0014遺跡、第4図11・12)からは1008(天仁元)年降下の浅間山火山灰As-B層下、及びさらに下層から水田が検出されている。

なお、本遺跡の北西側に隣接する日輪寺は811(弘仁2)

年建立との伝承を有する古刹である。創建年代を証するものは現段階ではないが、寺に伝わる平安時代後期の作と見られる十一面観音立像は広く「日輪寺の鉈彫りの観音様」と知られる優品で、本遺跡の名称となった字名の由来でもある。

像は、手先を除いて頭頂から台座までを柱材の一本から彫り出されており、丸髻痕を全身に残している。鉈彫像は関東・東北地方を中心に分布し、10～13世紀に盛行する。本像は関東・東北地方に多く分布するとされる鉈彫像の中でも、滑らかに仕上げをせずに髻痕を明瞭に遺しているところに特徴があると言う。髻目は整然とした横筋ではなく、比較的浅い彫りで、素木のつくりである。高さ151.5cm。像高128.5cm。全体的に短壺で、面相・衣文・台座などの彫法に平安時代後期製作の特徴を見ることができると言う。

台座に両足を揃えてほぼ直立するが、顔をやや傾げ、肩はなで肩で、右手は与願印、左手は施無畏印を結び、下半身を横切る天衣は両肩から両足の前でU字形に垂れており、分厚く表現され、在地風の独特なニュアンスがある。唇は朱く、眼は白地に瞳を黒く塗彩され、瓔珞や眉には墨を入れている。背部中央には光背を支えたとみられる鉄柄が残っている。口から下、あごの辺りはがっしりとした印象を与えるものの、全体的にはふくよかな面相で伏し目がちであり柔かな表情が読み取れる。

本像は90年に1度の開帳の時以外は秘仏として人目にふれることがなかったため、保存状態は極めて良好である。元来、観音堂の本尊であったが、現在は保存庫に安置され、毎年1月11日の開帳日に拝観できる。1952（昭和26）年6月19日に群馬県重要文化財に指定された。

この日輪寺の十一面観音立像には、奈良時代の726（神龜3）年3月に、寺の東にあった「朝日窟」という池の面が毎朝金色に輝くのを見物に多くの人々が詰めかけるといふ話を聴き付けた上野国司・多治比真人が検分をやつて来た際に、試みに池に綱を入れてみると1寸5分（約5cm）の小さな黄金の十一面観音立像がかり、像は八方に光を放ったので、多治比真人は黄金の観音像の靈験を有り難く思つてこの地に仏堂を建立して安置、人々の崇敬を大いに受けていたところ、807（大同2）年にこの地を巡錫した空海が由来を知り、それほど有り難い尊像をそのまましておくのは畏れ多いと、香木をもって1

丈5尺（約150cm）の十一面観音像を一夜のうちに彫り上げると、その胎内に元々あった黄金の小さな観音像を納めたのが今に残る鉈彫り十一面観音立像であり、空海は弟子の天恵をして811（弘仁2）年に開山させ、開山に当たっては勅旨と宸筆の勅額を賜ったとの伝承が遺されている（「日輪寺縁起」（1571元龜2）年）。因みに多治比真人は、多胡碑文中に見える「左中弁」であり、白鳳期から奈良時代前期にかけての皇親出身の官僚である多治比真人三宅麻呂のこである。宣化天皇三孫孫多治比古王の子。690（持統4）年に右大臣、697（文武元）年に左大臣となった多治比真人嶋の弟とされる。704（慶雲元）年従五位下受爵、707（慶雲4）年文武天皇崩御に際して御装束司を務め、元明朝では権造銭司・造雑物法用司の官人に任ぜられる一方、711（和銅4）年正五位上、713（和銅6）年従四位下と順調に累進し、元明朝末の715（和銅8）年には従四位上左大臣に補され、元正朝には民部卿、河内国摂官など歴任し、719（養老3）年正四位下、721（養老5）年には正四位上に昇るものの、722（養老6）年に謀反を讞告したとして斬刑に処せられることになったが、皇太子首皇子（のち聖武天皇）の奏請によって減刑されて伊豆国に流罪となった。一説では、725（神龜2）年6月22日配所で卒去したと伝える。上野国司として下向した史実はない。

多胡碑文の影響を受けた伝承と考えられ、史実からすれば荒唐無稽ではあるが、地域に遺る伝承として、民衆の歴史を語る上での史料とはなり得る。

6. 中世

天仁元（1108）年の浅間山大噴火に伴う火山灰As-B降下後、上野国内では荘園開発が活発になる。新田郡のほぼ全域に及ぶ新田荘などはその代表的な事例である。先述したように、本遺跡周辺は拝志荘（林荘）または青柳御厨にふくまれる可能性が高い。

拝志荘は、成立年代は不明ではあるが、鎌倉期と推定される年月日不詳の宮岡門院（観子内親王、1181（養和元）年～1252（建長4）年）、後白河天皇第6皇女（所領目録（島田文書）『群馬県史 資料編』6所収）に見え、長講堂（1191（建久2）年）に後白河院が膨大な荘園を院御所六条殿内に建立された法華長講弥陀三昧堂（長講堂）に寄進したことによって成立した中世荘園公領制下における王

家領荘園群の一つ。後白河院から皇女宣陽門院に譲られた際には42カ国89カ所に及んだ。その後、鎌倉時代末期には180カ所にまで増大したが(『梅松論』)、南北朝内乱及び応仁の乱などの混乱によって不知行が急増し、戦国時代には急速に解体した)に加えられていたことが判明している。また、戦国期の年月日不詳の上野国守護職上杉家所領目録(彦部文書、『群馬県史 資料編』7所収)にも見える。

『富士見村誌』続編(1979年)では、栲志荘関係史料が分布する旧細ヶ沢川以西の赤城火山南西麓から西麓にかけての広大な地域を栲志荘と推定している。とくに本遺跡に近接する日輪寺には、近世のものではあるが、「上野国勢多郡林正日輪寺村」と記された1770(明和7)年銘の棟札があり、本遺跡周辺に「林=栲志」の地名が遺っていたことが判明する。

一方、青柳御厨は、1192(建久3)年8月付け伊勢大神宮神主請文(神宮文庫蔵神宮雜書、『群馬県史 資料編』6所収)に見え、平安末期の長寛年間(1163～1165年)に成立した伊勢神宮の御厨で、『南橋村誌』(1955年)では、神明宮・伊勢宮や伊勢地名の分布から、前橋市荒牧町・日輪寺町付近から前橋市青柳町を中心とした赤城白川扇状地地域にかけてを青柳御厨と推定している。

『神風鈔』(伊勢神宮内宮および外宮の領地の諸国一覽表。1193(建久4)年に原本の書き出しを始め、その後追記がなされ、1360(延文5)年完成)に、建永年間(1206～1207)に官符が出され、その規模は田80町であったことが見える。また、『氏経御神事日次』(室町時代の伊勢神宮禰宜荒木田氏経(1402(応永9)～1487(文明19)年)の述作。後世、神職たちの神事・所作の拠り所となった)には、1347(貞和3)年と1452(宝徳4)年に青柳御厨関係文書が遠江国蒲原内安間郷関係文書とともに焼失し、紛失状が作成されたことが記されている。

1455(享徳3)年、室町幕府8代将軍足利義政の治世、5代鎌倉公方足利成氏による関東管領上杉憲忠暗殺に端を発し、1483年(文明14)年までの間、関東一円で幕府、鎌倉公方(古河公方)、堀越公方、山内上杉氏、扇谷上杉氏らが相争った享徳の乱以後、関東地方は戦国時代に入る。本遺跡周辺にもこの時期の城館が存在する。『富士見村誌』続編では、富士見町の陣馬遺跡(前橋市0596遺跡、第4図31)を1477(文明9)年に太田資長が長尾景春と対

峙した時の陣跡とする。

また、本遺跡周辺には、長尾氏や桐生氏関係の地侍が共同して構える陣地に限定して用いられる呼称である「寄居」が、関根町の関根寄居(前橋市0010遺跡、第4図8)、富士見町の横室寄居(前橋市0741遺跡、第4図38)、青柳町の青柳寄居(前橋市0943遺跡、第4図73)など分布している。本遺跡周辺のものは長尾氏に關係する地侍たちのものである。

その他、本遺跡周辺には、上細井町の八幡山の砦(前橋市0036遺跡、第4図20)、富士見町の田島城(前橋市0755遺跡、第4図46)・森山城(引田城とも、前橋市0756遺跡、第4図47)・九十九山の砦(前橋市0765遺跡、第4図56)・金山城(前橋市0766遺跡、第4図57)などの16世紀の砦や城塞跡が存在している。

なお、『上野国郡村誌』(1876(明治9)年)によると、日輪寺村は永祿年間(1558～1570年)頃に川端村から分村したとされている。本遺跡に近接する日輪寺は1570(元亀元)年に尊徳の中興と伝え、境内には中世の遺立と見られる石塔類が多数遺っている。

7. 近世

その後、江戸幕府による幕藩体制の確立によって、本遺跡をふくむ川端村・日輪寺村一帯は前橋藩領となった。村高は「寛文郷帳」で143石余、うち田方54石余・畑方89石余、「元禄郷帳」も同高、「天保郷帳」では194石余、「旧高旧領」も同高。河岸段丘上に形成された集落故に、畑作を主とする農村地帯であった様子が伺える。

なお、近接する日輪寺の観音堂には、暴れ馬の伝説を持つ1640(寛永17)年銘の絵馬がある。当時、夜な夜などこからともなく悍馬が現れて田畑を荒らしていくのに困り切っていた日輪寺村の村人たちが、ある日、その馬の後を付けて行ったところ、馬は日輪寺観音堂付近で急に見えなくなったので、堂内を見てみると、堂内に懸かる沢山の絵馬の一つに描かれた馬が田畑を荒らす悍馬と瓜二つであったため、絵馬の絵があまりに巧みに描かれていたために命が宿ってしまい、夜な夜な暴れて田畑を荒らすようになってしまったのだらうということで、絵師を呼んできて絵馬に描かれた馬に手綱を書き加えて貰うと、それ以来、馬に田畑を荒らされることはなかったということである。

この絵馬には、二本の杭に手綱で繋がれる一頭の勇馬が墨絵を主に、一部に青と白の絵具の彩色をもつて描かれており、右側に「寛永拾七年庚辰年四月吉日」、左側に「奉寄進御□前□」と墨書されている。高さ93.5cm、幅123cmで、前橋市重要文化財に指定されている。

参考文献

- 井上定幸・近藤義雄・西垣晴次編 1988『角川日本地名大辞典』10 群馬県
同部央 2011『日輪寺蔵木造十一面観音菩薩立像』（『国草』1983）
北橋村誌編纂委員会1975『北橋村誌』
群馬県教育委員会1988『群馬県0中世城館跡』
群馬県史編纂委員会1990『群馬県史』通史編 1
群馬県史編纂委員会1990『群馬県史』資料編 6
群馬県史編纂委員会1990『群馬県史』資料編 7
群馬県文化事業振興会1977『上野国郡村誌』1
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業部2014『関根赤城遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業部2015『新田上遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業部2015『関根瀬・沢遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業部2015『引切塚遺跡・青柳宮上遺跡』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業部2016『川端相岸遺跡』
京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 堀川書店
勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』
前橋市教育委員会2013『前橋市遺跡分布地図』
前橋市史編纂委員会1971『前橋市史』1
富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』
富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
山崎一1971『群馬県古城遺址の研究』上
山崎一1971『群馬県古城遺址の研究』補遺編上
国立歴史民俗博物館日高田湖取調帳データベース
https://www.rekihaku.ac.jp/up/cgi/login.pl?param=kyud/db_param
マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma>

第2章 遺跡の位置と環境

第2表 調査区別検出遺構番号・遺構数一覧表

	A区	B区	C区	D区	E区	計
竪穴住居		1号	2～12、19～59号	13～18号		
		1	52	6		59
掘立柱建物	1・2号			3・4号		
	2			2		4
溝	1号		3・4、12～15号	5～11号		
	1		5	7		13
河道	1・2号		3・4号			
	2		2			4
畠		1・4号		2・3号		
		2		2		4
井戸		1・2号				
		2				2
土坑	2・4、10・15・22～ 24・37・40～43・52～ 54号	29～36・56～59・ 61、62・67・73・77・85 ～89号	92～121・126～130・ 132・157～159・162・ 164～169・171～175・ 194・195・199・200・ 205・206・217・218・ 222・228～230・233・ 235・238～241・243～ 247・251～260・262・ 263・266～269・271～ 283・292～306・312～ 322号	131・133～156・160・ 161・163・176～187号	261・264・265号	
	15	22	129	40	3	209
ピット	2～36・38～63・ 106・111～135・137～ 176・178～259・264～ 272号	64～105・107～110・ 260～263・273～281・ 283～289・297～299・ 302～305号	294～296・301・306～ 324・421～429・443～ 451・462～477・483～ 503号	325～351・353～355・ 357～359・361・362・ 364～367・369・371～ 379・381～386・388・ 390～403・405～418・ 420・430・432・434～ 438・440～442・452～ 461号	478～482号	
	218	73	78	105	5	479
殿治遺構				1		
				1		1
窪地				1		
				1		1

第3章 調査の成果

第1節 成果の概要

本遺跡は、平成25年度に上武道路建設に先だって発掘調査された前橋市川端町の川端根岸遺跡とは、大堰川を挟んだ対岸に位置している。調査箇所は西南西から東北東にかけて生活道路によって大きくA～Dの4箇所に分断され、さらにその中も小規模な道路によって分断されているところもある。

また、A区と生活道路を挟んだ西隣・B区と同じく生活道路を挟んだ北側にE区が設定され、調査区は計5箇所である。なお、C区最東端の北側に生活道路を挟んで隣接するE区南西部は、狭小であることに加えて、北側民有地のブロック塀や埋設排水路、南側道路の保護等制約が大きい上に、1947（昭和22）年のカスリーン台風による厚い砂層の堆積があり、掘削自体が困難であるため、安全を優先して調査を断念している。

検出された主な遺構は、竪穴住居59棟、掘立柱建物4棟、溝13条、旧河道4条、井戸2基、高4箇所、土坑209基、ピット479基、鍛冶遺構1基、窪地1箇所である。中近世の溝、農作物貯蔵用の少量の土坑等以外の大半の遺構は平安時代前～中期9～10世紀のものであった。

調査区全体の西寄りの位置を北から南へと流れる幅約2～3m、深さ約1.5m程度の旧河道が検出され、この川を挟んだ東西の両側にそれぞれ竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、竪などの遺構が検出され、川の両側に集落が広がっていた様子がうかがえる。竪は住居と住居の間に作られていることから、畑作地帯としての耕地の広がりを見せているわけではなく、住居に隣接して小規模に作られる所謂菜園様のものであったとみられる。検出された住居からは須恵器・土師器の甕・杯・椀類や、刀子・鎌などの鉄製品、砥石や磨礪石などが出土した。

最西端の調査区であるD区の北端付近では、幅約1m・深さ約1mほどになる二重の堀が検出された。内側の堀は日輪寺側に延びることが判明した。今回の調査範囲では、堀の内側の建物類は全く検出されなかったが、二重の堀によって方形に区画された何らかの施設の跡と考え

られる。堀内からは9世紀の土器が出土しており、また、この堀が埋没した後に営まれた鍛冶の遺構が堀跡の上で検出され、この鍛冶遺構が9世紀後半のものと考えられることから、9世紀中葉以前における何らかの施設を区画した堀跡とみられる。

この鍛冶遺構では、炉の部分から炭化物や焼土が検出され、炉の周囲からは鑞の羽口片や鉄を鍛える台石、砥石、鍛造剥片、粒状滓などが出土している。

竪穴住居は、調査範囲の中央から西寄りを占める最大の調査区であるC区で主に検出されたが、ほとんどの住居で重複が認められ、住居の占地には強い制約があったように感じられる。これらの竪穴住居はいずれも平安時代前～中期9～10世紀のものに限定されている。集落からは豊富な遺物が出土しているが、中でも東海地方で生産された灰釉陶器の出土量の多さが特筆できる。灰釉陶器をこの地に流通させた主体としての荘所や官衙などと結びついた富豪層の存在が想定できるかも知れない。

なお、1基のみであるが、集落と同時期の墓塚が検出されている（C区244号土坑）。住居とは重複しておらず、集落内において墓として意識され続けていたことがわかる。9・10世紀における集落における墓制を考える上で貴重な検討材料である。

中世以降の遺構として特筆すべきは、C区の東半において検出された方形区画である。この区画は南北幅約40m・東西幅約43m以上の規模があり、溝内から近世の陶磁器類や石白などが出土している。区画内で明確な建物跡の痕跡は発見出来なかったが、近世の屋敷地とみられる。

なお、ピットについては膨大な量に上るため、254頁からの第5表ピット一覧表で提示した。

また、竪穴住居の主軸方位は、竪がある壁の直交方向で、竪を伴わない竪穴住居では長辺の方位を記載した。土坑・ピットでは長辺の方位によった。

近世陶磁器・土器類は、295～307頁第189～201図に一括して掲載した。

掲載した遺物の出土位置の詳細は観察表を参照されたい。

第2節 A区で検出された遺構と遺物

A区は、全調査区内の最北東で、道路を挟んで南側はB区、西側はE区と隣接する。主に中・近世の遺構が検出された。C・D区で検出された平安時代前～中期の集落はここまではのびてきていない。

調査の都合上、X=48,160のラインよりも約2.5m程度南側を境に、北側をA1調査区、南側をA2調査区と便宜上分割されているが、ここではA区として一帯として報告する。

A区からは2棟の掘立柱建物、1条の溝、2本の河道、15基の土坑、218基のピットなどの遺構が検出された。土坑・ピットはほとんどのものが年代不詳であった。

1. 掘立柱建物

先述したようにA区からは2棟の掘立柱建物が出された。本遺跡では合計4棟の掘立柱建物が出されており、他2棟はD区からの検出である。

A区で検出された掘立柱建物は、A区の北側と南側に位置しており、相互の関連は明らかではない。

(1) 1号掘立柱建物(第5・189図、PL.1・2)

位置: A区の北西寄りの位置。2号土坑の東。X=48,162~48,168、Y=-69,344~69,354。

主軸方向: N-74°-W。 **検出面積:** 13.158㎡。

規模と形状: 西北西-東南東方向に長い。桁行1間×梁間4間。梁間の長さは、西から2.1m・1.75m・2.2m・2.53mとまばらである。一方、桁行の長さは西からほぼ1.54mと均等である。北西隅の1ピット(以下P1と称する、他の柱穴も同様)、北側西から第2列のP2、北側西から第3列のP3、南側西から第2列のP9、南側西から第3列のP8は、東側のP4~7とは異なって据え換え痕があり、当初、西側の南北1間・東西2間の掘立柱建物だったものに、東側にピットを南北各2基計4基増やして、南北1間・東西4間の、東西に長大な掘立柱建物に改築した可能性も考えられる。柱穴芯々間における東西長8.6m・南北幅1.53m。

柱穴: P1(北西隅):形状:南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.86m・短径0.54m・確認面からの深さ

0.46m、埋土:暗褐色土。

P2(北西隅から2番目):形状:南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.81m・短径0.48m・確認面からの深さ0.56m、埋土:鈍い黄褐色土。

P3(北列中央):南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.62m・短径0.34m・確認面からの深さ0.48m、埋土:鈍い黄褐色土。

P4(北東隅から2番目):形状:やや角張った不整円形状を呈する。径0.36m・確認面からの深さ0.32m、埋土:鈍い黄褐色土。

P5(北東隅):形状:不整円形状を呈する。径0.46m・確認面からの深さ0.28m、埋土:褐色土。

P6(南東隅):形状:不整円形状を呈する。径0.28m・確認面からの深さ0.21m、埋土:褐色土。

P7(南東隅から2番目):南西-北東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.36m・確認面からの深さ0.48m、埋土:褐色土。

P8(南列中央):南側を攪乱されているが、南北に長い不整楕円形状を呈する。検出長径0.4m・短径0.36m・確認面からの深さ0.26m、埋土:鈍い黄褐色土。

P9(南西隅から2番目):北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.54m・短径0.42m・確認面からの深さ0.18m、埋土:鈍い黄褐色土。

P10(南西隅):南側を攪乱されており、形状不明である。残存径0.26m・確認面からの深さ0.28m、埋土:鈍い黄褐色土。

重複: 4・23号土坑、16・30~35号ピット。

遺物: P1より瀬戸・美濃陶器丸皿1点。

時期: 近世。

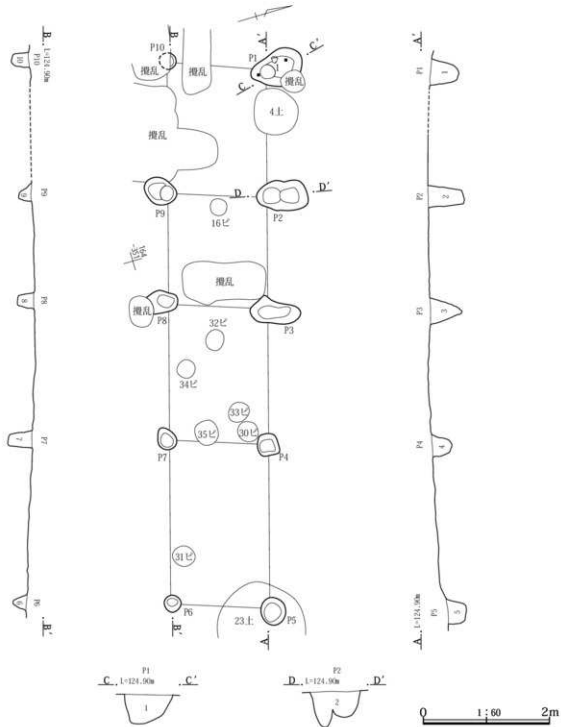
(2) 2号掘立柱建物(第6図、PL.2・3)

位置: A区の南西隅寄りの位置。X=48,146~48,153、Y=-69,361~69,368。

主軸方向: N-1°-E。 **検出面積:** 42.239㎡。

規模と形状: 検出された範囲では桁行3間・梁間3間のほぼ方形の総柱建物状を呈しているが、南西隅の柱穴は検出されなかった。また、北端列の東から2番目に当たるB P1と南端列及び東端列からそれぞれ2番目に当たるB P3は攪乱されており検出されなかった。南側が梁間2間・桁行1間あるいはそれ以上、廂状に突出する

1号掘立柱建物



1号掘立柱建物

- 1 暗褐色土10VR3/3 全体に色調暗い、地山黄褐色土を約15～25%程度、黒味強い粘質土を約5～10%程度頂状に含む。粘性あまりなし。しまりややあり。
- 2 灰黄褐色土10VR4/2 地山黄褐色土をブロック状に約1～3%程度、 ϕ 約2～3cm大の炭をごく少量含む。粘性、しまりともにあまりなし。
- 3 鈍い黄褐色土10VR4/3 地山黄褐色土をブロック状に不均質に約5～10%程度含む。粘性しまりともなし。
- 4 鈍い黄褐色土10VR4/3 地山黄褐色土をブロック状に不均質に約5～10%程度含む。粘性しまりともなし。
- 5 褐色土10VR4/4 均質。やや砂質味強い。粘性なし。しまりあまりなし。
- 6 褐色土10VR4/4 均質。やや砂質味強い。粘性なし。しまりあまりないが5層よりはしまりあり。
- 7 褐色砂質土10VR4/4 ややしっとりしている。粘性あまりなし。しまりややあり。
- 8 鈍い黄褐色砂質土10VR4/3 粘性しまりともあまりなし。やしっとり。
- 9 鈍い黄褐色土10VR4/3 地山黄褐色土を不均質に約5～10%程度含む。しまりなし。粘性あまりなし。
- 10 鈍い黄褐色土10VR4/3 地山黄褐色土を約15～25%程度含む。しまり粘性ともあまりなし。

第5図 A区1号掘立柱建物 平面図・土層断面図

第3章 調査の成果

可能性もある。南側調査区外に更に延びる可能性が高い。また、南西隅柱穴は確認できなかったため、南側が梁間2間・桁行1間あるいはそれ以上廂状に突出する可能性もある。

柱穴：北端列の東から2番目に当たるB P 1と南端列及び東端列からそれぞれ2番目に当たるB P 3は攪乱されており検出されなかった。

AP 1 (北東隅)：形状：不整形形状を呈する。径0.42m・確認面からの深さ0.18m、埋土：褐灰色土。

AP 2 (東端列北から2番目)：形状：南北に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.56m・短径0.48m・確認面からの深さ0.24m、埋土：褐灰色土。

AP 3 (東端列南から2番目)：東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.32m・短径0.28m・確認面からの深さ0.03m、埋土：褐灰色土。

AP 4 (南東隅)：形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.34m・確認面からの深さ0.3m、埋土：褐灰色土。

BP 2 (北端列・東端列からともに2番目)：形状：ほぼ円形状を呈する。径0.38m・確認面からの深さ0.28m、埋土：褐灰色土。

BP 4 (南端列、南東隅から2番目)：形状：不整形形状を呈する。径0.26m・確認面からの深さ0.26m、埋土：褐色土。

CP 1 (北端列西から2番目)：東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.31m・短径0.3m・確認面からの深さ0.18m、埋土：褐灰色土。

CP 2 (北端列・西端列からともに2番目)：不整形形状を呈する。径0.39m・確認面からの深さ0.18m、埋土：褐灰色土。

CP 3 (南端列・西端列からともに2番目)：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.39m・短径0.32m・確認面からの深さ0.38m、埋土：褐灰色土。

CP 4 (南端列、東南隅から3番目)：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.34m・確認面からの深さ0.32m、埋土：褐灰色土。

DP 1 (北西隅)：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.34m・確認面からの深さ0.22m、埋土：褐灰色土。

DP 2 (西端列、北から2番目)：北東-南西方向に僅か

に長い楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.36m・確認面からの深さ0.16m、埋土：褐灰色土。

DP 3 (西端列・北から3番目)：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.32m・確認面からの深さ0.06m、埋土：褐灰色土。

重複：40・41号土坑、221・223・228～243号ピット。

柱穴埋土：褐灰色土。

遺物：なし

時期：近世。

2. 溝

先述したようにA区から検出された溝は1条のみである。

本遺跡では合計3条の溝が検出されている。A区以外では、C区で5条、D区で7条が検出されている。

(1) 1号溝(第7図、PL. 4・5)

位置：A区の南西隅。X = 48,147～48,156、Y = -69,362～-69,369。

軸方向：調査区南壁から北へ約6.3mまでN-10°-E、それよりほぼ直角に屈曲して調査区西壁まで約7.2mはN-80°-W。

規模と形状：北北東方向から約90°屈曲して西北西方向となる。方形に区画する溝の北東隅部が南北約6m・東西約7mにわたって検出された。溝幅は、北北東-南南西方向部分では、調査区南端付近で約0.5m、屈曲点付近で約0.8m、西北西-東南東方向部分では0.4m前後。深さは約0.2m前後。近世の屋敷地を囲む溝と考えられる。

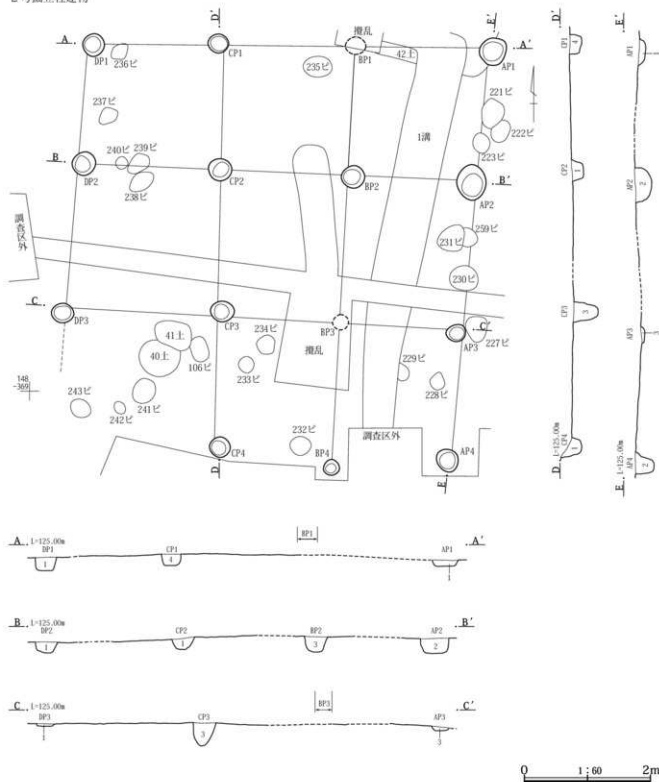
重複：2号掘立柱建物、42号土坑、229号ピットを掘り込む。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世。

2号掘立柱建物



2号掘立柱建物

- 1 褐色土10YR4/1 不均質。ややしっとりした灰色味のある土。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 2 褐色土10YR4/1 不均質。ややしっとりした灰色味のある土。炭化物を僅かに含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 3 褐色土10YR4/1 不均質。ややしっとりし、色調は地山に近い土。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 4 褐色土10YR4/1 不均質。ややしっとりし、色調地山とくに近い土。粘性ややあり。しまりあまりなし。

第6図 A区2号掘立柱建物 平面図・土層断面図



第7図 A区1号溝 平面図・土層断面図

3. 河道

A区では2条の旧河道が検出された。いずれも東西方向に流れる河道である。これらの河道は、トレンチによる部分的な調査を行った。

(1) 1号河道(第8～10・189・190図、PL. 5・99)

位置：東端はA区の南寄りの位置、西端はA区の中央、全体的にはA区の中央より南寄りの位置。X=48,147～48,163、Y=-69,343～-69,366。

規模と形状：東端はA区の南寄りの位置、西端はA区の中央、全体的にA区の中央より南寄りの位置をやや蛇行しながら東西方向に流れる。検出全長は約20m、川畔間の幅は4.9～7.7m、川底間の幅は0.64～4.38m、検出最

大深度1.2m。

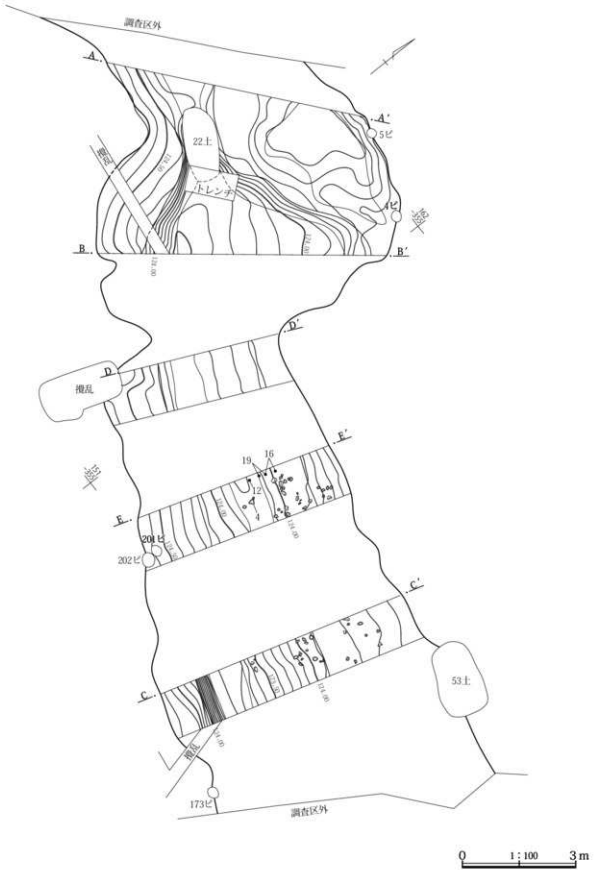
重複：53号土坑に掘り込まれる。

埋土：全体的に鈍い黄褐色土と灰黄褐色土の互層。

遺物：瀬戸・肥前陶器染付丸碗片1点・美濃陶器天目碗片1点・同灰軸筒形香炉片1点・同灰軸香炉片1点・同灰軸碗片1点・同御深井袖手付水注片1点・同播鉢片1点・同皿片1点・陶器播鉢片1点・在地系土器皿片1点・同烙片3点・同烙烙片1点・同灯明受皿片1点・円盤状加工品1点・粗粒輝石安山岩片砥石1点・砥沢石製砥石2点・粗粒輝石安山岩製刷石1点(埋土)。1～12は295頁第189図に、13～19は296頁第190図に別掲した。

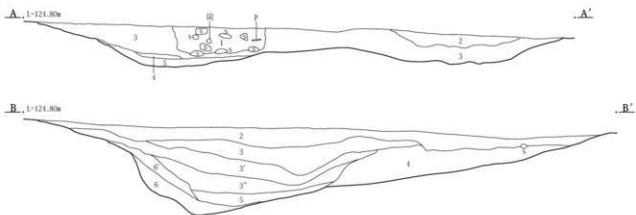
時期：近世。

1号河道



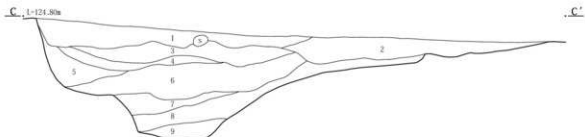
第8図 A区1号河道 平面図

第3章 調査の成果



1号河道 A-A'・B-B'

- 1 鈍い黄褐色土10YR5/3 不均質、雑多な礫を含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。カスリン台風以前の河道護岸石積の基盤の一部、浅間石も含まれる。地肌。
- 2 鈍い黄褐色土10YR5/3 砂質土ブロックを約5～10%程度、炭を約1～3%程度含む。鉄分凝集が斑状に約1～3%程度見られる。粘性しまりともにあまりなし。
- 3 鈍い黄褐色シルト質土10YR5/3 砂質土ブロックを約5～10%程度含み、鉄分凝集が斑状に約1～3%程度見られる。粘性は2層よりもややあり。しまりあまりなし。3'は3層よりも炭化物を多く含む。3''は3層よりも炭化物を含まない。
- 4 灰黄褐色砂質土10YR5/4 均質。粘性なし。しまりあまりなし。
- 5 鈍い黄褐色土10YR5/6 砂質土と粘性シルトの互層。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 6 黄褐色土10YR5/6 地山黄褐色土を不均質に約15～25%程度含む。粘性しまりともにややあり。6'は地山黄褐色土を不均質に約5～10%程度含む。粘性しまりともにややあり。



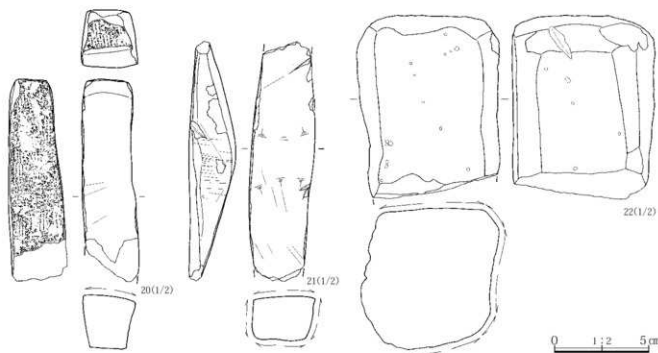
1号河道 C-C'

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約1～2mm大の白色軽石ブロックを約30～50%程度含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 砂質味強い。粘性あまりなし。しまりややあり。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 色調はやや灰色味。粘性ややあり。しまりなし。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 シルトと砂質土との互層。粘性しまりともになし。
- 5 黒褐色シルト質土10YR3/1 粘性あり。しまりややあり。
- 6 鈍い黄褐色土10YR6/3 シルト～粘土質。粘性しまりともにあり。
- 7 鈍い黄褐色シルト質土10YR5/4 粘性しまりともにややあり。
- 8 灰黄褐色シルト質土10YR4/2 粘性しまりともにややあり。
- 9 灰黄褐色砂質土10YR4/2 円礫層上位。粘性なし。しまりあまりなし。



0 1:50 2m

第9図 A区1号河道 土層断面図・エレベーション図



第10図 A区1号河道 出土遺物

(2) 2号河道(第11・191図、PL. 6・99)

位置：A区北端。X=48,162~48,172、Y=-69,336~-69,352。

規模と形状：東端はA区最北端部を蛇行しながら東西方向に流れる。大半は北東側壁外に出る。検出全長は約17.6m、川畔間の幅は2m~、川底間の幅は1.2m~、最大深0.94m。

重複：なし。

埋土：黄褐色土、暗褐色土ベース。

遺物：在地系土器皿片3点・同鉢片1点・同内耳銅片3点・粗粒輝石安山岩製用途不明石製品1点(埋土)。1~7は297頁第191図に掲載した。

時期：近世。

4. 土坑

A区からは15基の土坑が検出された。検出範囲はA区の全域に及んでいる。

本遺跡では合計202基の土坑が検出されている。当区他には、B区で22基、C区で122基、D区で40基、E区で3基が検出されている。いずれも用途不明であり、大きさ、深さもまちまちであった。

(1) 2号土坑(第12図、PL. 6)

位置：A区の北東寄りの位置。1号掘立柱建物1ピットの西側に隣接する。X=48,166~48,167、Y=-69,353~-69,354。

主軸方向：N-68°-W。

規模と形状：東西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径1.02m・短径0.88m・深さ0.2m。

重複：8号ピットに掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(2) 4号土坑(第12図、PL. 7)

位置：A区の北東寄りの位置。1号掘立柱建物1ピットの東側に隣接する。X=48,166~48,167、Y=-69,352~-69,353。

主軸方向：N-63°-E。

規模と形状：西南西-東北東方向に若干長い不整楕円形状を呈する。長径0.77m・短径0.73m・深さ0.28m。

重複：1号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明。

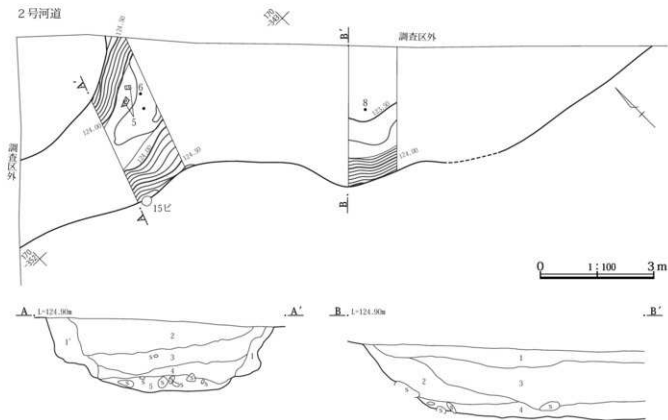
埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

第3章 調査の成果

2号河道



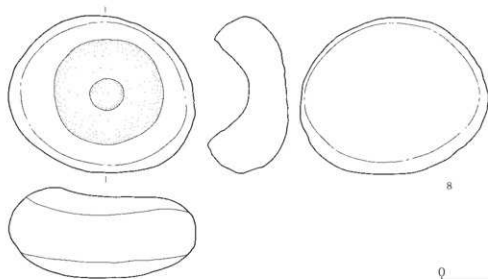
2号河道 A-A'

- 1 黄褐色土10YR5/6 地山黄褐色土を約5～10%程度含む。粘性あまりなし。しまりややあり。1'は地山黄褐色土の崩落土を約15～25%程度含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 やや砂質味あり。φ約1～3cm大の炭化物を約1～3%程度含む。粘性あまりなし。しまりややあり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 2層の上に加え地山黄褐色土を約5～10%程度含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 3層の上に比べて粘性と砂質味ややあり。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 5 暗褐色土10YR3/3 人為的に投棄されたと思われる人頭大～握り拳大の円礫を約30～50%程度含む。粘性ややあり。しまりなし。

2号河道 B-B'

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 φ約1cm大の炭化物を極僅か含む。粘性あまりなし。しまりややあり。
- 2 黄褐色土10YR5/6 φ約10cm大の円礫を極僅か含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 3 黄褐色土10YR5/6 砂質土と黄褐色シルトとの互層。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 4 黄褐色砂質土10YR5/6 水成堆積土。しまり粘性ともなし。

0 1:50 2m



第11図 A区2号河道 平面図・土層断面図・出土遺物

(3) 10号土坑(第12図、PL. 7)

位置：A区の中央よりやや北東寄りの位置。X=48,161～48,162、Y=-69,351。

主軸方向：N-65°-W。

規模と形状：東西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。南側約2/3上面を試掘トレンチで破壊される。長径0.72m・短径0.64m・深さ0.16m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(4) 15号土坑(第12図、PL. 7)

位置：A区の北東寄りの位置。X=48,166、Y=-69,350。

主軸方向：N-26°-E。

規模と形状：不整円形状を呈する。径0.52m・深さ0.34m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(5) 22号土坑(第12・14・191図、PL. 7・99)

位置：A区の中央、西寄りの位置。X=48,158～48,159、Y=-69,359～-69,361。

主軸方向：N-62°-W。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。東端を試掘トレンチによって掘り込まれ、上面を破壊されている。検出長径1.96m・短径0.89m・深さ0.55m。

重複：1号河道を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：瀬戸・美濃陶器胎軸碗片1点・同播鉢片1点・緑色片岩製板碑片2点・銭1点(埋土)。1・2は297頁第191図に掲載した。

時期：近世。

(6) 23号土坑(第12図、PL. 8)

位置：A区の中央よりやや北東寄りの位置。X=48,163～48,165、Y=-69,344～-69,345。

主軸方向：N-34°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.42m・短径1.33m・深さ0.16m。

重複：1号掘立柱建物5ピットに掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(7) 24号土坑(第12図、PL. 8)

位置：A区の中央、東寄りの位置。X=48,157～48,158、Y=-69,341～-69,342。

主軸方向：N-19°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径1.23m・短径1.15m・深さ0.39m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(8) 37号土坑(第12図、PL. 8)

位置：A区の中央、西寄りの位置。X=48,155～48,156、Y=-69,361～-69,362。

主軸方向：N-70°-W。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径1.24m・短径0.74m・深さ0.14m。

重複：258号ピットに掘り込まれる。

埋土：褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(9) 40号土坑(第13図)

位置：A区の南西隅付近。241号ピットの北側に近接する。X=48,148、Y=-69,366～-69,367。

主軸方向：N-65°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.63m・検出短径0.53m・深さ0.17m。

重複：41号土坑に北辺を掘り込まれる。

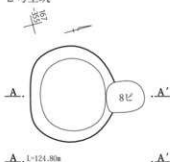
埋土：褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

第3章 調査の成果

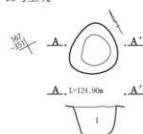
2号土坑



2号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色土を斑状に約15～25%程度含む。粘性なし。しまりややあり。

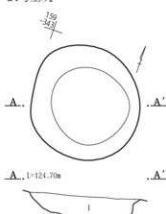
15号土坑



15号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色土を約5～10%程度含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。

24号土坑

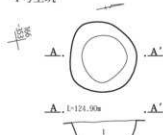


24号土坑

1 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山黄褐色土を不均質にブロック状に含む。粘性なし。しまりややあり。



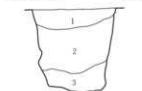
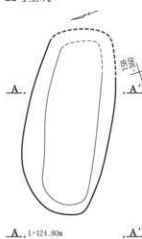
4号土坑



4号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色土をブロック状に約1～3%程度、φ約2～3cm大の炭をごく少量含む。粘性しまりともにあまりなし。

22号土坑



22号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 鉄分の凝集を斑状に含む。粘性しまりともにややあり。
2 灰黄褐色土10YR4/2 砂質土とシルトの互層。粘性ややあり。しまりあまりなし。
3 灰黄褐色土10YR4/2 φ約2～3cm大の炭及び鋸り拳大の地山円礫を僅かに含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。

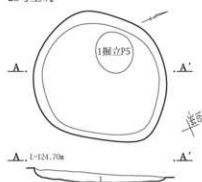
10号土坑



10号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色土を約15～25%程度含む。粘性しまりともにあまりなし。

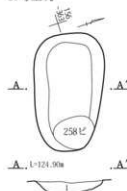
23号土坑



23号土坑

1 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色土ブロックを約15～25%程度含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。

37号土坑



37号土坑

1 褐色土10YR4/6 地山砂質土を不均質に僅かに含む。粘性あまりなし。しまりややあり。

第12図 A区土坑 平面図・土層断面図(1)

(10) 41号土坑(第13図)

位置: A区の南西隅付近。106号ピットの西側に近接する。

X=48,148~48,149、Y=-69,366~69,367。

主軸方向: N-71°-W。

規模と形状: 北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

長径0.62m・短径0.43m・深さ0.48m。

重複: 40号土坑の北辺を掘り込む。

埋土: 鈍い黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 不明。

(11) 42号土坑(第13図)

位置: A区の南西寄りの位置。37号土坑の南側に近接する。X=48,153~48,155、Y=-69,361~69,363。

主軸方向: N-69°-W。

規模と形状: 東西にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径2.04m・短径1.89m・深さ0.32m。

重複: 2号掘立柱建物A P 1に南東辺付近を、1号溝に南側を、250号ピットに東辺の北寄りを掘り込まれる。

埋土: 鈍い黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 不明。

(12) 43号土坑(第13図)

位置: A区の中央から南寄りの位置。252号ピットの西側に近接する。X=48,149~48,151、Y=-69,352~69,354。

主軸方向: N-73°-W。

規模と形状: 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.81m・短径1.17m・深さ0.22m。

重複: 176号ピットに南辺を、178号ピットに西辺を、255号ピットに西寄りの位置を掘り込まれる。

埋土: 灰黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 不明。

(13) 52号土坑(第13図)

位置: A区の南東隅付近。141・143号ピットの北側、148・154・155号ピットの東側、174号ピットの西側に隣接する。X=48,146~48,147、Y=-69,347~69,349。

主軸方向: N-25°-E。

規模と形状: 北側を攪乱で破壊されているため、全容は不明な点があるが、南北にやや長い隅丸長方形形状を呈していたものと推測される。検出長径1.52m・短径1.41m・深さ0.32m。

重複: なし。

埋土: 暗褐色土。

遺物: なし。

時期: 不明。

(14) 53号土坑(第13図)

位置: A区の中央、東壁付近。117号ピットの西側、129号ピットの東側に隣接する。X=48,154~48,156、Y=-69,343~69,345。

主軸方向: N-70°-W。

規模と形状: 西北西-東南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.81m・短径1.17m・深さ0.24m。

重複: 1号河道の北畔及び54号土坑の南辺を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 不明。

(15) 54号土坑(第13図、PL. B)

位置: A区の中央、東壁付近。118・119号ピットの西側、122号ピットの南側に近接する。X=48,155~48,156、Y=-69,343~69,345。

主軸方向: N-79°-W。

規模と形状: 西北西-東南東方向に若干長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.23m・検出短径0.92m・深さ0.22m。

重複: 53号土坑に南辺を掘り込まれる。121号ピットの南辺を掘り込む。

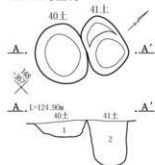
埋土: 灰黄褐色土。

遺物: なし。

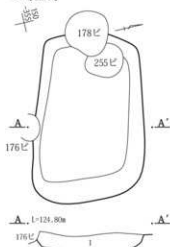
時期: 不明。

第3章 調査の成果

40・41号土坑



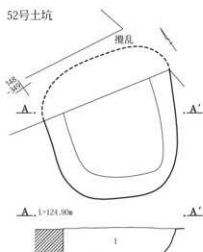
43号土坑



43号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 均質。炭化物を極微量に含む。粘性しまりともにややあり。

52号土坑



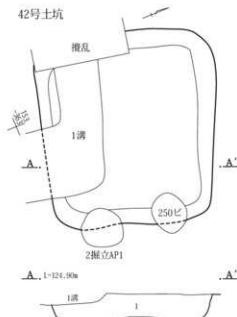
52号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1～3cm程度の炭化材を僅かに含む。粘性あまりなし。しまりあり。

40・41号土坑

- 1 褐色土10YR4/4 地山黒色土を不均質に約1～3%程度含む。粘性あまりなし。しまりややあり。
2 鈍い黄褐色土10YR4/3 掘り込みは黒色土を掘り抜く。粘性しまりともにあまりなし。

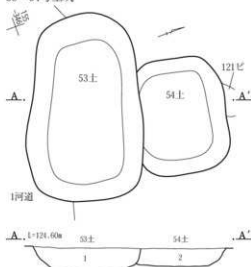
42号土坑



42号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土ブロックを不均質に少量含む。しまりあまりなし。

53・54号土坑

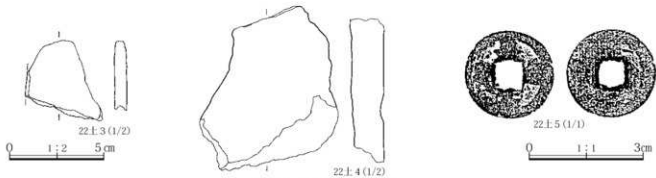


53・54号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性あまりなし。しまりややあり。
2 灰黄褐色土10YR4/2 地山ブロックを約5～10%程度含む。粘性あまりなし。しまりややあり。

0 1:40 1m

第13図 A区土坑 平面図・土層断面図(2)

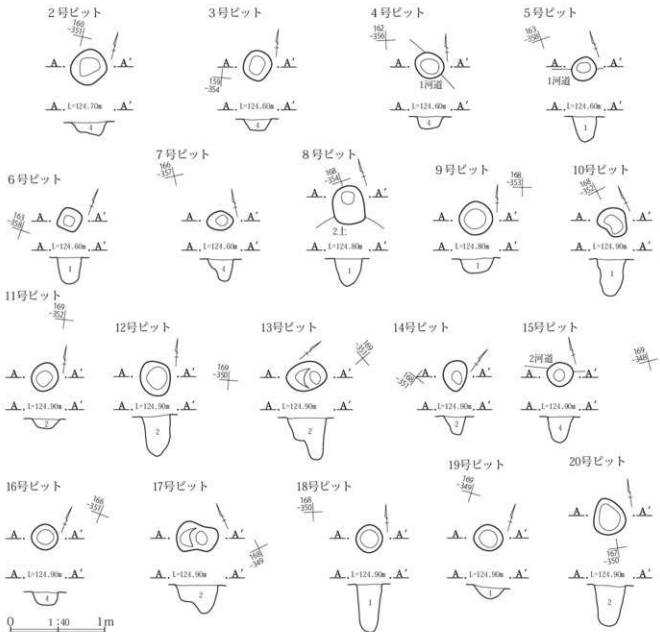


第14図 A区土坑 出土遺物

5. ビット

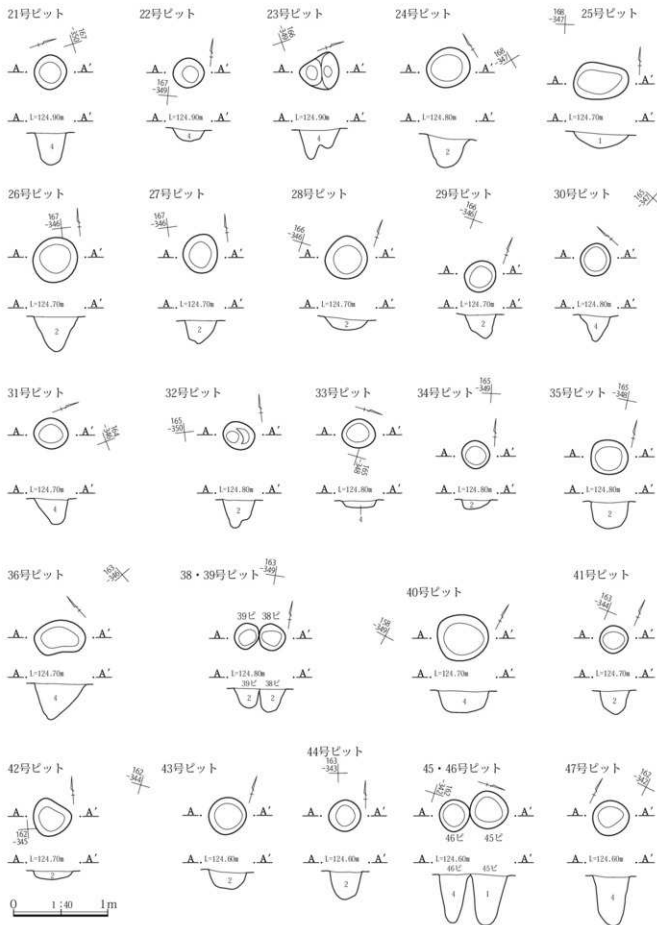
A区ではビットは調査区のほぼ全域から222基検出された。用途や年代は不明である。規模等は254頁からの

第5表ビット一覧表に示した。18号ビットからは、在地系土器内耳銅片が1点出土した(297頁・第191図)

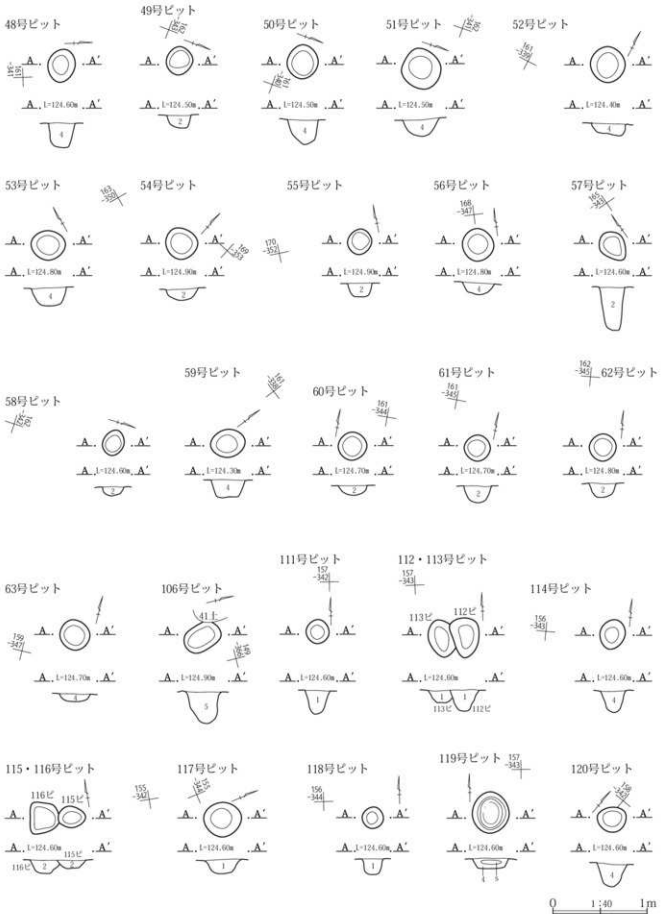


第15図 A区ビット 平面図・土層断面図(1)

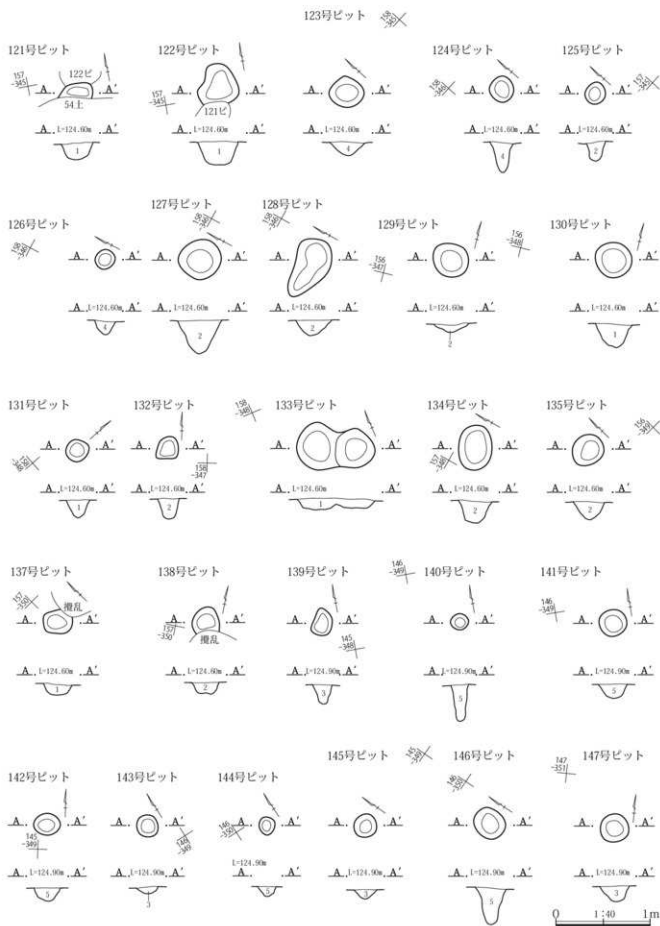
第3章 調査の成果



第16図 A区ビット 平面図・土層断面図(2)

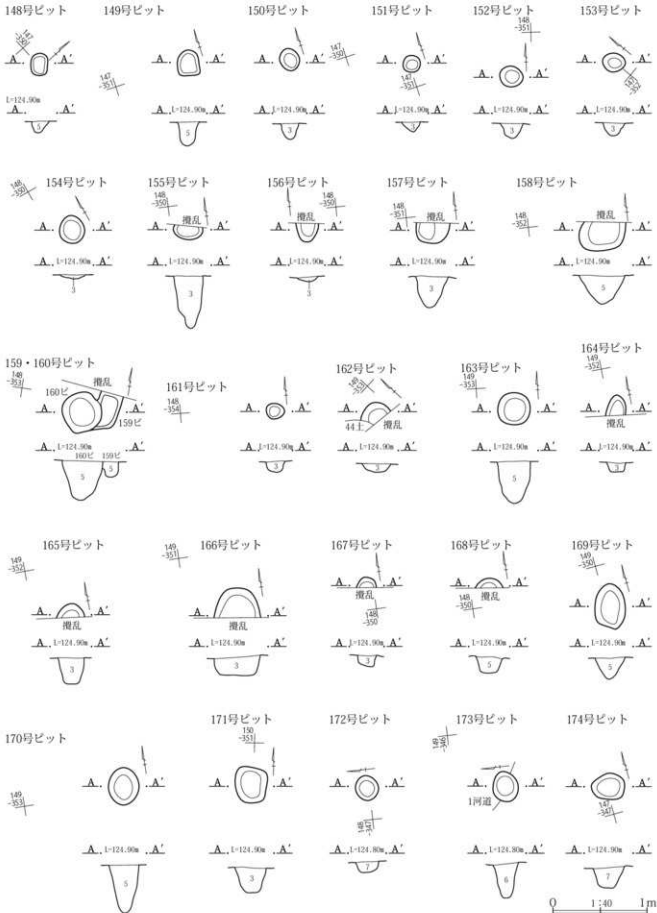


第17図 A区ビット 平面図・土層断面図(3)



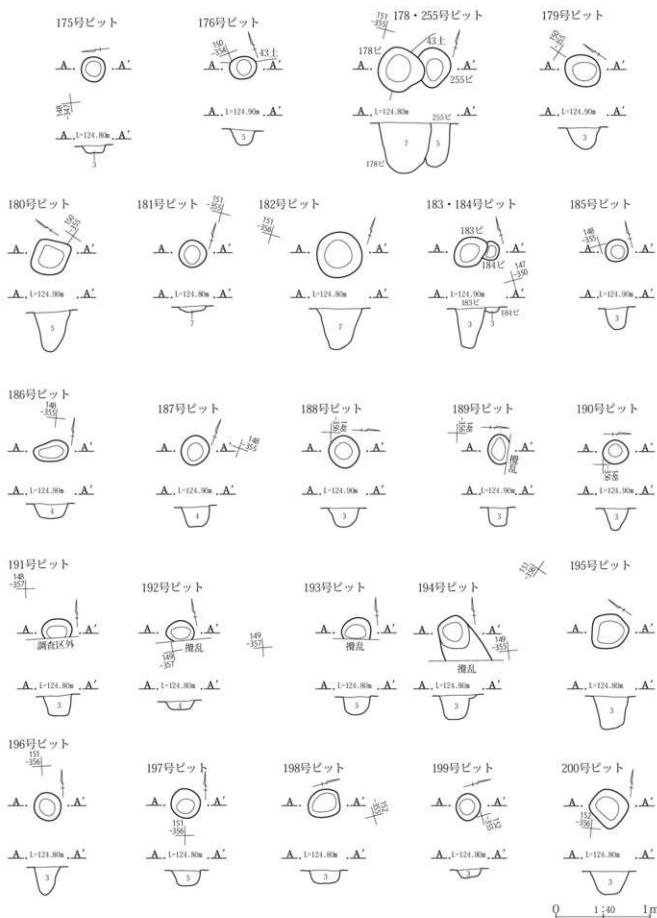
第18図 A区ビット 平面図・土層断面図(4)

第2節 A区で検出された遺構と遺物



第19図 A区ビット 平面図・土層断面図(5)

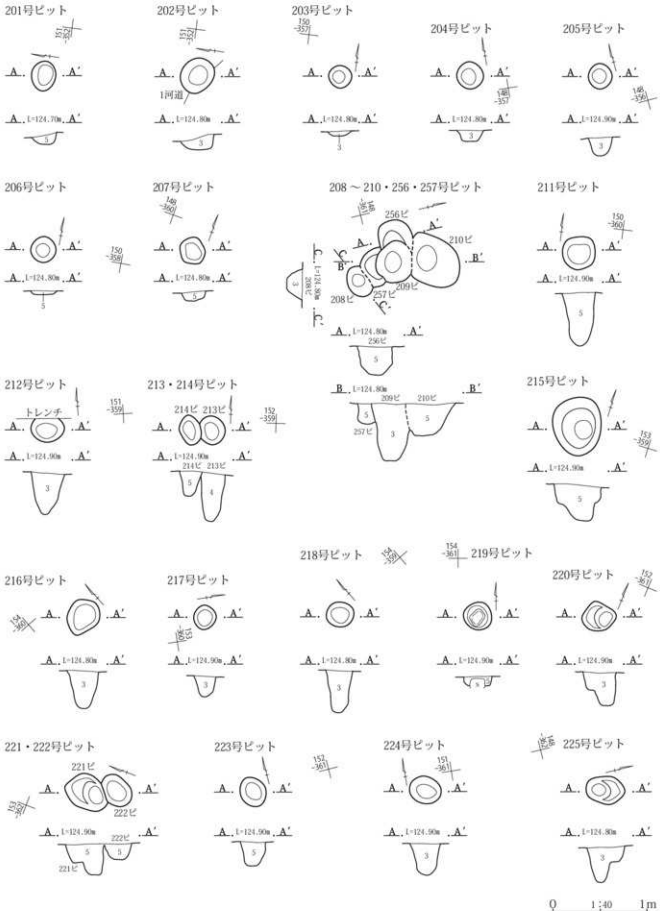
第3章 調査の成果



第20図 A区ピット 平面図・土層断面図(6)

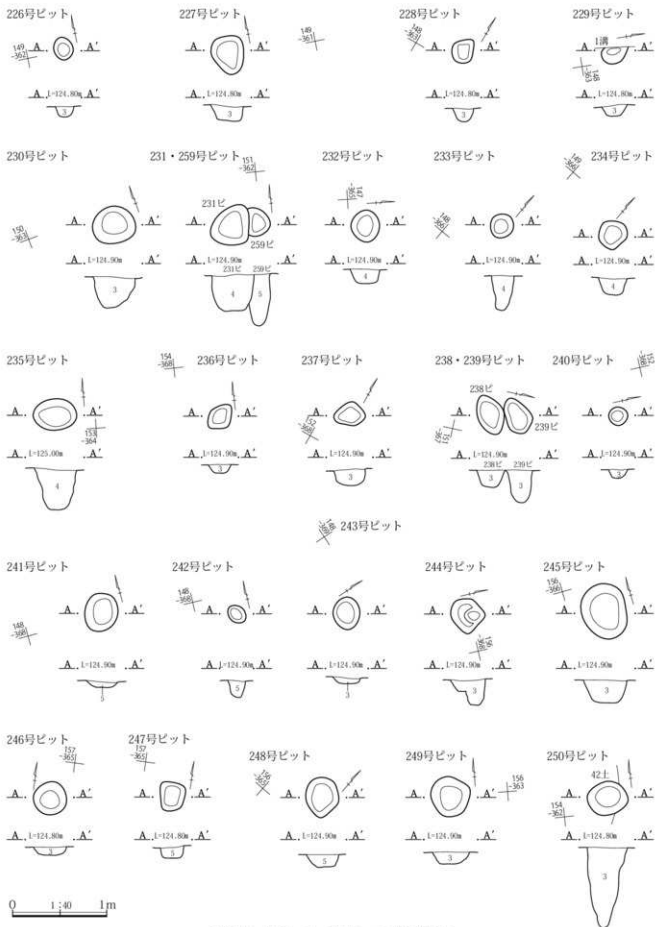
0 1:40 1m

第2節 A区で検出された遺構と遺物

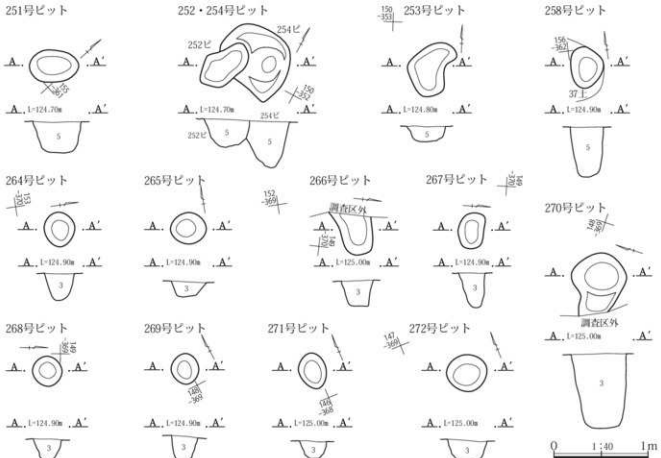


第21図 A区ビット 平面図・土層断面図(7)

第3章 調査の成果



第22図 A区ビット 平面図・土層断面図(8)



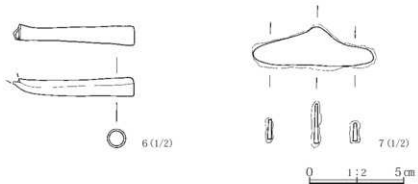
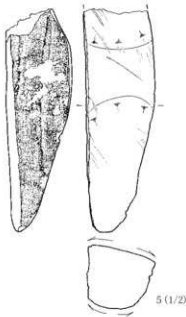
A区ピット

- 1 褐色土10YR4/1 地山黄褐色土を約5～10%程度含む。粘性しまりともあまりなし。
- 2 褐色土10YR4/1 1層よりも砂質味が強く、砂質土をやや多く含む。
- 3 褐色土10YR4/1 1層よりもより灰白色味が強く、ややしっとり感がある不均質土。

- 4 鈍い黄褐色土10YR4/3 ややバサバサした灰黄褐色土を斑に約5～10%程度含む。炭化物を若干含む場合もある。粘性ややあり。しまりあまりなし。
- 5 鈍い黄褐色土10YR4/2 4層よりも砂質味がやや強い不均質土。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色砂質土を不均質に含む層よりもさらに砂質味が強く砂質土をやや多く含む。
- 7 暗褐色土10YR3/4 やや均質で砂質味少ない。しまり粘性ともにややあり。

第23図 A区ピット 平面図・土層断面図(9)

6. 遺構外出土遺物



第24図 A区遺構外 出土遺物

A区の表土中から出土した遺物6点を図化・掲載した。1～4は近世陶磁器で、297頁第191図に掲載してある。5は砥石、6は煙管片、7は火打ち金である。

第3節 B区で検出された遺構と遺物

B区は、全調査区内の東北端を占めるA区から東西方向に走行する道路を挟んだ南西側、中央から西寄りの一帯を占める最大の調査区であるC区から南北方向に走行する道路を挟んだ北東側に位置する調査区である。A区で検出された1号河道の左岸に当たる。

周辺環境や工事計画等に配慮した結果、便宜的に調査区を4ブロックに分割して調査を行うことになった。南西端側の、北東-南西方向に細長い小規模な調査区をB1調査区、その北東側の、同じく北東-南西方向に細長い調査区をB3調査区、さらにその北東側に隣接する調査区をB2調査区とし、それらの調査区の北側に位置し、B区の大部分を占める調査区をB4区とした。

南側に位置する、北東-南西方向に細長い調査区の内、南西端側のB1調査区及びB2調査区において、2面にわたる調査を行った。

B1～B3調査区の1面は、中～近世洪水堆積層の上面であり、B1調査区2面は榛名山火山灰 Hr-S 堆積後の洪水層上面に、B2調査区2面は浅間山火山噴出物 As-C 層上面に相当する。B1調査区2面ではピットが4基(107～110号)検出された程度であり、B2調査区2面では遺構は検出されなかった。

検出された主な遺構は、平安時代の竪穴住居が1棟、竈2箇所、井戸2基、土坑22基、ピット73基である。B4調査区の下層で検出された1号住居とB1調査区2面で検出された榛名山火山灰 Hr-S 堆積後の洪水層上面で検出された4基のピット以外の遺構は、すべて近世のものである。

1. 住居

B区において竪穴住居はB4調査区北西隅近くで1棟が検出されただけである。南北方向に走行する生活道路を挟んで西側に隣接するC区では、平安時代前～中期の竪穴住居からなる集落が検出され、B区に隣接するC区東端の一帯においても数棟の竪穴住居が検出されたにも関わらず、B区で検出されたのは1棟のみに過ぎなかった。平安時代の集落の範囲は、こちら側まではほとんど及んでいなかったということになる。

(1) 1号住居(第25・26図、PL.12・13・99)

位置: B4調査区の北西隅付近。X=48,121～48,125、Y=-69,381～-69,385。

主軸方向: N-75°-W。

検出面積: 10.06㎡。

規模と形状: 南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径3.67m・短径3.52m・確認面からの深さ0.25m。上面を何力所も大きく攪乱されており、また、1号竪に掘り込まれているため、残存状態は悪い。

重複: 1・4号竪に掘り込まれる。

埋土: 鈍い黄褐色土をベースとし、暗褐色土、灰黄褐色土が堆積する。

竈: 東壁の南東隅寄りで検出された。両袖及び燃焼部は地山を削り出して構築され、燃焼部は住居の壁の外側に位置している。両袖の住居内への張り出しはほとんど見られない。構築材・支脚の一部と見られる石が竈周囲に散乱していたが、その数は少ない。竈前庭部には焼土層の堆積の広がりが見られた。全体的に残存状態は悪い。竈方位はN-73°-W。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

貯蔵穴: 竈両袖から南西側に当たる住居南東隅近くの南壁直下で検出された。平面形態は東西方向に長い不整形円形状を呈する。長径0.65m・短径0.42m・深さ0.15m。黄褐色土が堆積する。

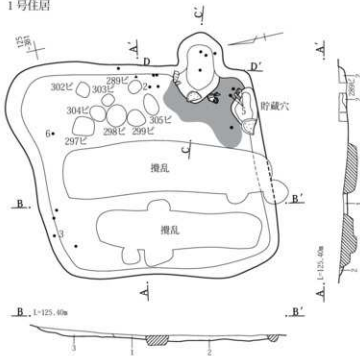
床面: 地山を平坦に削りだして床面を形成している。大きく攪乱されており、残存状態は悪く、顕著な硬化面は検出されなかった。

掘方: 床面と掘方が一致している。

遺物: 埋土より土器器表口縁部片1点及び同表口縁部～胴部上位片1点、甕埋土より土器器表口縁部～胴部上位片1点及び須恵器杯蓋口縁部片1点、甕掘方埋土より土器器表口縁部～胴部中位片1点、砥沢石製砥石1点、榛名山二ツ岳噴出軽石製砥石1点。

時期: 平安時代前期、9世紀第3四半期。

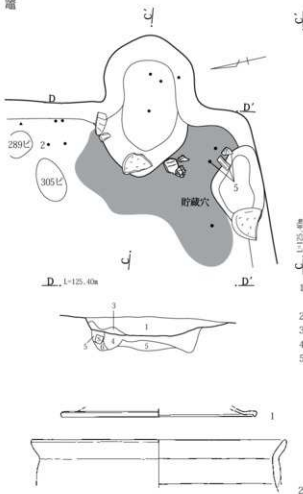
1号住居



- 1 暗褐色土10YR3/4 白色粒を約2%程度、焼土粒を僅かに含む。固くしまり強い。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 φ約1~5mm程度の暗褐色粒及び白色粒を僅かに含む。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 2層の土と炭化物との混土。しまり強い。

0 1:60 2m

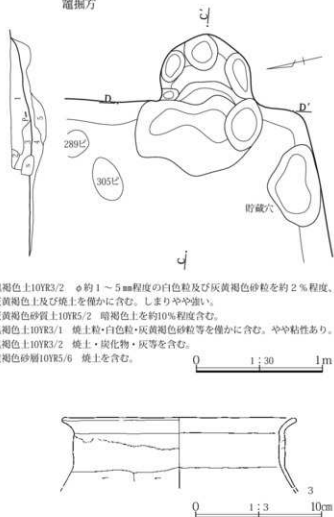
竈



- 1 黒褐色土10YR3/2 φ約1~5mm程度の白色粒及び灰黄褐色砂粒を約2%程度、灰黄褐色土及び焼土を僅かに含む。しまりやや強い。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR5/2 暗褐色土を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土10YR3/1 焼土粒・白色粒・灰黄褐色砂粒等を僅かに含む。やや粘性あり。
- 4 黒褐色土10YR3/2 焼土・炭化物・灰等を含む。
- 5 黄褐色砂質土10YR5/6 焼土を含む。

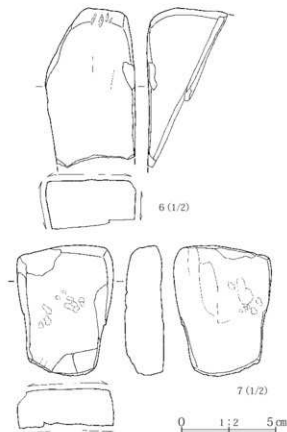
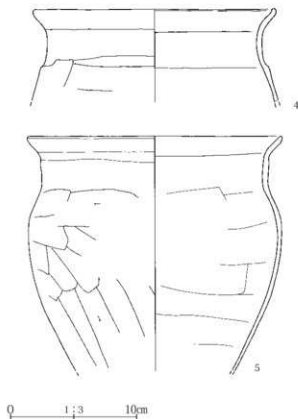
0 1:30 1m

竈掘方



0 1:3 10cm

第25図 B区1号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第26図 B区1号住居 出土遺物(2)

2. 畠

B4区の北西隅から中央部にかけて2区画の畠が検出された。本遺跡で畠が検出されたのは本調査区とD区からのみで、本調査区で検出されたものは中世以降のものである。

本調査区で検出された畠は、中～近世の洪水堆積層の上面に形成されており、畠間の堆積土の特徴から近世に営まれたものと考えられる。

(1) 1号畠(第27・192図、PL.13・99)

位置: B4調査区の北西寄りの位置から中央部にかけて。

X: 48,121～48,125、**Y:** -69,371～-69,381。

主軸方向: N-86°-W。

検出面積: 37.57㎡。

規模と形状: 東西方向に長い畠間が南北9条検出された。全体の長さ10.21m。畠間個々の長さ0.55～0.76m、全体幅3.68m。畠間個々の幅0.14～0.5m。畠跡部分の個々の幅0.08～0.34m。確認面からの畠間の深さ0.05～0.16m。上面を何カ所も大きく攪乱されており、また、上面

を削平されているため、残存状態は悪く、ごく部分的にしか検出されなかった箇所も存在している。

重複: 中央部付近で279・280号ピットに掘り込まれる。1号住居の東辺を僅かに掘り込む。

埋土: 畠間には砂質土が堆積する。

遺物: 畠間埋土より肥前陶器丸碗1点・回丸碗片1点、瀬戸・美濃陶器胎軸片口1点・砥石1点。1～3は、298頁第192図に掲載した。

時期: 近世以降。

(2) 4号畠(第27図、PL.13)

位置: B4調査区の北西端付近。1号畠とはほぼ1号住居跡地を挟んだ西側に展開する。大部分の範囲は西側調査区外に出る。X=48,122～48,124、Y=-69,384～-69,387。

主軸方向: N-88°-W。

検出面積: 3.4㎡。

規模と形状: 東西方向に長い畠間が南北4条検出された。検出された全体の長さは最大で2.42m、全体幅2.05m、畠間個々の幅0.14～0.25m、畠跡部分の個々の幅0.14～

0.34m、確認面からの畝間の深さ0.03~0.15m。上面を何れも大きく攪乱されており、また、上面を削平されているため、残存状態は悪い。

重複：東端が1号住居の西辺を僅かに掘り込む。

埋土：畝間には砂質土が堆積する。

遺物：なし。

時期：近世以降。

3. 井戸

B区からは2基の井戸(1・2号)が検出された。いずれもB4調査区からである。

本遺跡ではB4調査区で検出された2基の井戸以外、井戸は検出されていない。およそ1万㎡近い広範囲を調

査した際には、検出例は極めて僅少である。

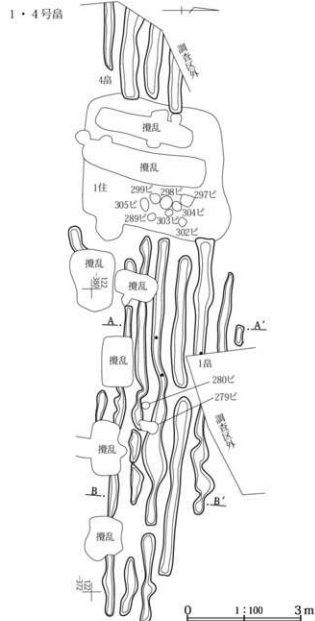
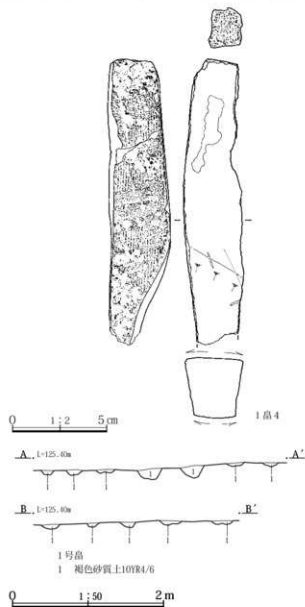
周囲には河川が多く流れているので、生活用水の確保は、井戸に頼る必要がなかったと言うことか。

(1) 1号井戸(第28図、PL. 13)

位置：B4調査区の中央より僅かに東寄りの位置、北壁にかかると。X = 48,129~48,130、Y = -69,373~-69,374。

主軸方向：不明。

規模と形状：約半分が北壁外調査区外に出るため、全容は不明である。底部に河原石が敷き詰められている。検出最大東西径1.31m・最大南北径0.72m・検出最大深度0.68m。



第27図 B区1・4号畝 平面図・土層断面図・出土遺物

第3章 調査の成果

重複: 275号ピットに東辺を掘り込まれる。

埋土: 上層に灰黄褐色土、下層に鈍い黄褐色砂質土が堆積する。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(2) 2号井戸 (第28図、PL.13・99)

位置: B 4 調査区の東端付近。X=48,128~48,129、Y

=-69,361~69,362。

主軸方向: N-74°-E。

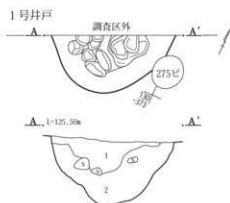
規模と形状: 東西に長い楕円形状を呈する。長径1.29m・短径1.11m・深さ0.75m。

重複: なし。

埋土: 灰黄褐色土。

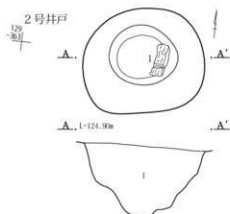
遺物: 輝石安山岩製石臼片(埋土)。

時期: 近世以降。



1号井戸

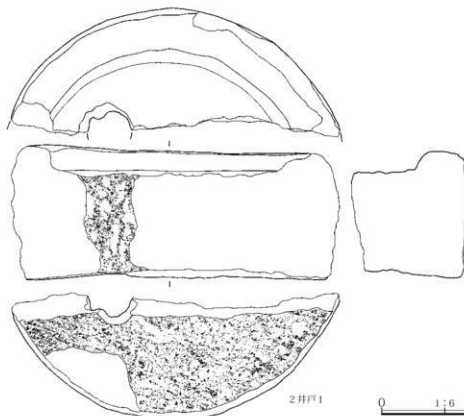
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約2cm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約20%程度含む。
2 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4



2号井戸

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約2cm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約20%程度含む。

0 1:40 1m



第28図 B区1・2号井戸 平面図・土層断面図・出土遺物

4. 土坑

B区からは22基の土坑(29～36・56～59・61・62・67・73・77・85～89号)が検出された。B1調査区から4基(29～32号)、B2調査区1面から4基(33～36号)、B3調査区1面から4基(56～59号)、B4調査区から10基(61・62・67・73・77・85～89号)である。B2及びB3調査区のそれぞれ2面からは土坑は検出されなかった。

(1) 29号土坑(第29図、PL.14)

位置: B1調査区の西端、西壁にかかる。65号ピットの南側に近接する。X=48,097～48,098、Y=-69,387～-69,390。

主軸方向: N-84°-E。

規模と形状: 東西に細長い隅丸長方形形状を呈する。西側が調査区外に出る。検出長径3.05m・短径0.79m・深さ0.61m。本土坑のような非常に細長い隅丸長方形形状ないし楕円形状の土坑は、B1～B3調査区でいくつか検出されている。B2調査区で検出された34号土坑、B3調査区で検出された58・59号土坑などである。

重複: なし。

埋土: 鈍い黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(2) 30号土坑(第29図、PL.14)

位置: B1調査区の西端付近、北壁寄りの位置。67号ピットの北側、69号ピットの西側に近接し、66号ピットの東側、70号ピットの南西側に隣接する。X=48,100、Y=-69,388～-69,389。

主軸方向: N-52°-W。

規模と形状: 北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.77m・短径0.61m・深さ0.18m。

重複: 南西隅近くを68号ピットに掘り込まれる。

埋土: 鈍い黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(3) 31号土坑(第29図、PL.14)

位置: B1調査区の中央よりやや北西に寄った位置。78

号ピットの北側、87号ピットの西側、100号ピットの南東側に近接する。X=48,100～48,102、Y=-69,385～-69,386。

主軸方向: N-7°-E。

規模と形状: 北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.26m・短径0.75m・深さ0.5m。

重複: なし。

埋土: 鈍い黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(4) 32号土坑(第29図、PL.14)

位置: B1調査区の中央南端、南壁にかかる。86号ピットの東側、91号ピットの南西側に近接する。X=48,100、Y=-69,382～-69,383。

主軸方向: N-58°-E。

規模と形状: 南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと推測できる。検出長径0.89m・検出短径0.26m・検出最大深度0.23m。

重複: 96号ピットを掘り込む。

埋土: 褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(5) 33号土坑(第29図、PL.14)

位置: B2調査区1面の西寄りの位置。X=48,119～48,120、Y=-69,360～-69,363。

主軸方向: N-83°-W。

規模と形状: 南側が掘乱されているため全容は不明であるが、東西に長大な楕円形状を呈するものと推測できる。長径3.23m・検出短径0.83m・検出最大深度0.21m。

重複: 西端付近を101号ピットに、東寄りの北辺際を102号ピットに、東端付近を103号ピットにそれぞれ掘り込まれる。

埋土: 灰黄褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(6) 34号土坑(第29図、PL.15)

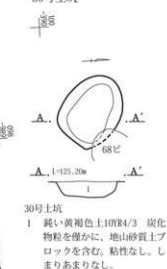
位置: B2調査区1面の東寄りの位置。北壁にかかる。

第3章 調査の成果

29号土坑



30号土坑



30号土坑

1 鈍い黄褐色土10YR4/3 炭化物粒を僅かに、地山砂質土ブロックを含む。粘性なし。しまりありなし。

31号土坑



31号土坑

1 褐色土10YR4/4 白色軽石粒を僅かに含む。粘性なし。しまりややあり。やや乱れている。
2 褐色土10YR4/4 1層によりも均質で色調明るい。粘性なし。しまりややあり。

32号土坑



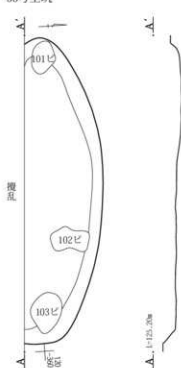
32号土坑

1 褐色土10YR4/6 上層やや乱れ不均質。粘性なし。しまりややあり。

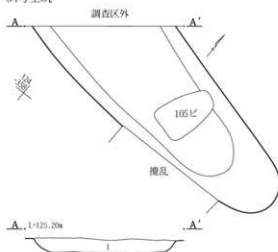
29号土坑

1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 炭化物粒を僅かに含む。粘性なし。しまりありなし。

33号土坑



34号土坑



34号土坑

1 鈍い黄褐色土10YR4/3 均質。粘性しまりともにあまりなし。

0 1:40 1m

第29図 B区土坑 平面図・土断面図(1)

36号土坑の南側に近接する。X=48,124~48,125、Y=-69,355~-69,358。

主軸方向：N-83°-W。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長大な楕円形状を呈するものと推測できる。検出長径2.57m・短径1.21m・検出最大深度0.18m。

重複：中央部よりやや東寄りの位置を105号ピットに掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(7) 35号土坑(第30図、PL.15)

位置：B2調査区1面の北東端。北壁及び東壁にかかる。36号土坑の東側に近接する。X=48,125~48,126、Y=-69,353~-69,355。

主軸方向：N-85°-W。

規模と形状：北側及び東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと推測できる。検出長径2.04m・短径0.83m・深さ0.27m。

重複：なし。

埋土：褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(8) 36号土坑(第30図、PL.15)

位置：B2調査区1面の北端。北壁にかかる。35号土坑の西側に近接する。X=48,125~48,126、Y=-69,355~-69,356。

主軸方向：N-50°-E。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出東西径0.92m・検出南北径0.56m・深さ0.19m。

重複：なし。

埋土：褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(9) 56号土坑(第30・33・34・192図、PL.15・99・100)

位置：B3調査区1面の西端付近。58号土坑の西側に近接する。X=48,112~48,113、Y=-69,370~-69,373。

主軸方向：N-78°-E。

規模と形状：東西に長い不整形楕円形状を呈する。東側を擾乱されている。長径2.59m・検出短径1.64m・深さ0.5m。

重複：なし。

埋土：褐色土。

遺物：肥前磁器白磁稜花小碗1点・瀬戸・美濃陶器丸皿1点・同灰釉端反皿1点・同鉄軸播鉢片1点・在地系土器焙烙片1点・銭2点(元祐通宝・嘉定通宝)(埋土)。1~9は298頁第192図に掲載した。

時期：近世以降。

(10) 57号土坑(第31図、PL.16)

位置：B3調査区1面の中央。58号土坑の東側に近接する。X=48,114~48,116、Y=-69,366~-69,368。

主軸方向：N-32°-W。

規模と形状：南北に長い不整形楕円形状を呈する。南側を擾乱されている。長径2.09m・短径1.95m・深さ0.33m。

重複：59号土坑を掘り込む。

埋土：褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(11) 58号土坑(第30図、PL.16)

位置：B3調査区1面の中央やや西寄り。X=48,110~48,115、Y=-69,368~-69,370。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北に非常に長い隅丸長方形形状を呈する。南側が調査区外に出る。29・34・35・59号土坑と類似する。検出長径4.21m・短径1.19m・深さ0.38m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(12) 59号土坑(第31図、PL.16)

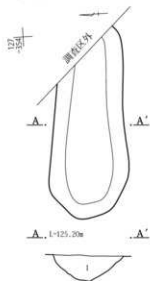
位置：B3調査区1面の中央。58号土坑の東側に位置する。X=48,112~48,115、Y=-69,367~-69,368。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るので全容は不明であ

第3章 調査の成果

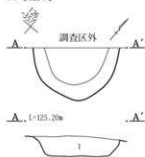
35号土坑



35号土坑

- 1 褐色土10YR4/4 砂質味やや強く、地山砂質土をブロック状に僅かに含む。しまりややあり。

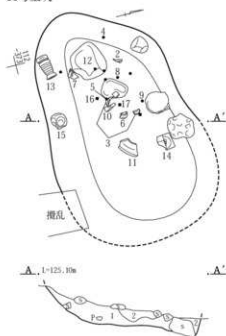
36号土坑



36号土坑

- 1 褐色土10YR4/4 砂質味やや強い、粘性なし。しまりややあり。

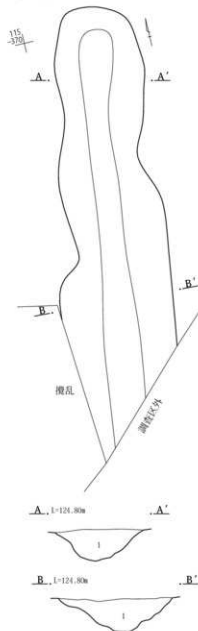
56号土坑



56号土坑

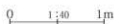
- 1 鈍い黄褐色土10Y 4/3 φ約10cm～人頭大の雑多な大きさの礫を含む。粘性なし。しまりあまりなし。
2 鈍い黄褐色土10YR4/3 砂質土ブロックを多く含む。粘性しまりともなし。

58号土坑



58号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 均質。砂質味ある地山ブロックを僅かに含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。



第30図 B区土坑 平面図・土層断面図(2)

るが、南北に非常に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。規模・形状29・34・59号土坑等と類似する。検出長径2.48m・短径1.26m・深さ0.33m。

重複：北端部を57号土坑に掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(13) 61号土坑(第31図、PL.16)

位置：B 4調査区1面の中央、南寄り。62号土坑の東側に隣接する。X=48,120~48,121、Y=-69,373~69,374。

主軸方向：N-88°-W。

規模と形状：歪な円形状を呈する。長径0.96m・短径0.87m・深さ0.19m。

重複：なし。

埋土：暗灰黄褐色砂質土及び暗褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(14) 62号土坑(第31図)

位置：B 4調査区1面の中央、やや南寄り。61号土坑の西側に隣接する。X=48,120~48,121、Y=-69,374~69,375。

主軸方向：N-5°-W。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.93m・短径0.68m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(15) 67号土坑(第31・192図、PL.16)

位置：B 4調査区1面の中央。87号土坑の北側に位置する。X=48,119~48,120、Y=-69,378~69,379。

主軸方向：N-9°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.91m・短径0.73m・深さ0.21m。

重複：なし。

埋土：上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。

遺物：在地系土器埴埴1点(埋土)。298頁192図に掲載。

(16) 73号土坑(第31図、PL.17)

位置：B 4調査区1面の中央よりもやや南西寄り。87号土坑の西側に位置する。X=48,116~48,117、Y=-69,379~69,380。

主軸方向：N-33°-W。

規模と形状：不整形。北西隅を攪乱されている。長径1.88m・短径1.55m・深さ0.25m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(17) 77号土坑(第31図、PL.17)

位置：B 4調査区1面の中央、南壁寄り。87号土坑の南東側に近接する。X=48,115~48,116、Y=-69,376~69,377。

主軸方向：N-20°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.17m・短径0.73m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色砂質土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(18) 85・86号土坑(第32・34・193図、PL.17)

位置：B 4調査区1面の中央、南壁寄り。87号土坑の東側に近接する。X=48,116~48,118、Y=-69,375~69,376。

主軸方向：85号N-19°-E、86号N-7°-W。

規模と形状：両土坑とも南北に長い隅丸長方形を呈する。85号長径1.1m・短径0.8m・深さ0.17m。86号長径1.21m・短径0.89m・深さ0.25m。

重複：85号土坑が86号土坑の北東側上面を掘り込んでいる。

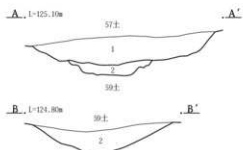
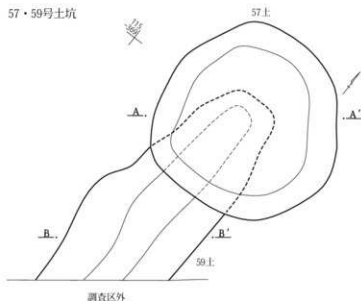
埋土：85号暗褐色土。86号灰黄褐色土。

遺物：86号土坑より近世陶器2点(埋土)。299頁第193図に掲載した。

時期：近世以降。

第3章 調査の成果

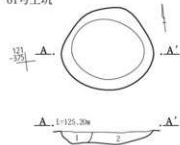
57・59号土坑



57・59号土坑

- 1 褐色土10YR4/4 ブロック状に乱れた地山砂質土を僅かに含む。粘性なし。しまりややあり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土ブロックを僅かに含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。

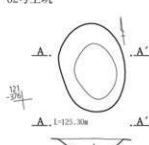
61号土坑



61号土坑

- 1 暗灰黄色砂質土2.5Y5/2 酸化した灰色シルトを含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 φ約1～2cm程度の灰黄褐色砂質土ブロックを約20%程度含む。粘性ややあり。しまり強い。

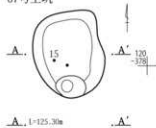
62号土坑



62号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR5/4 粘性のある暗褐色土を約20%程度含む。粘性あり。しまりやや強い。

67号土坑



67号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 明黄褐色土を約30%程度含む。固くしまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 炭化物を僅かに含む。しまりやや強い。

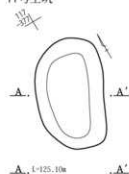
73号土坑



73号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色土ブロックを僅かに含む。しまり強い。

77号土坑



77号土坑

- 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 炭化物、焼土粒を僅かに含む。しまり強い。



第31図 B区土坑 平面図・土層断面図(3)

(19) 87号土坑(第32図)

位置: B 4 調査区 1 面の中央、南寄り。73号土坑の東側、77号土坑の北西側、85・86号土坑の西側に近接する。X = 48,116~48,118、Y = -69,376~69,378。

主軸方向: N-9°-E。

規模と形状: 南北にやや長い、不整形を呈する大きな土坑。長径2.62m・短径2.3m・深さ0.61m。

重複: なし。

埋土: 暗褐色土。

遺物: なし。

(20) 88号土坑(第33図、PL. 17)

位置: B 4 調査区 1 面の中央、西端。西壁に掛かる。X = 48,118~48,119、Y = -69,382~69,383。

主軸方向: N-15°-E。

規模と形状: 西端が調査区外に出るが、東西に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.91m・短径0.88m・深さ0.19m。

重複: なし。

埋土: 灰黄褐色砂質土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

(21) 89号土坑(第33図、PL. 17)

位置: B 4 調査区 1 面の中央、やや西寄り。X = 48,121~48,122、Y = -69,379。

主軸方向: N-15°-E。

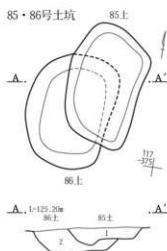
規模と形状: 東側を攪乱され、西側を283号ピットに掘り込まれるが、南北に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.63m・短径0.41m・深さ0.2m。

重複: 東側を283号ピットに掘り込まれる。

埋土: 暗褐色土。

遺物: なし。

時期: 近世以降。

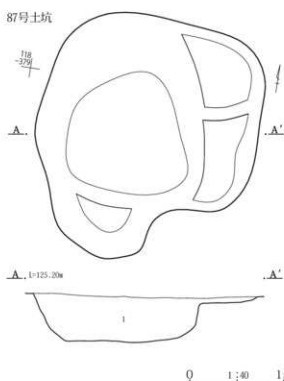


85・86号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1~3mm程度の白色粒を約2%程度、φ約1~5mm程度の鈍い黄褐色土粒を僅かに含む。固くしまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色土と暗褐色土との混土でφ約1~5mm程度の白色粒を約3%程度含む。しまり強い。

87号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1~2cm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約3%程度、白色粒を約1%程度含む。粘性あり。しまりやや強い。

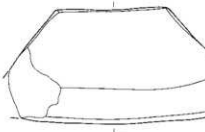
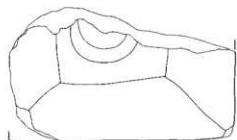
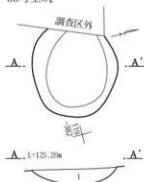


0 1:40 1m

第32図 B区土坑 平面図・土層断面図(4)

第3章 調査の成果

88号土坑



56上11(1/4)

88号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 φ約5~1mm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約10%程度、φ約1~3mm程度の白色粒を僅かに含む。

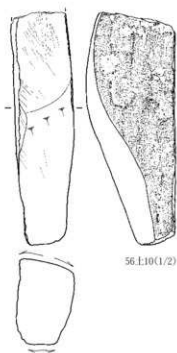


89号土坑

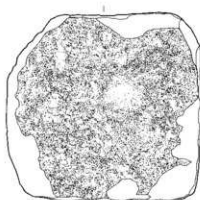
89号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約5~10mm程度の鈍い黄褐色土ブロック僅かに含む。しまり強い。

0 1:40 1m



56上10(1/2)

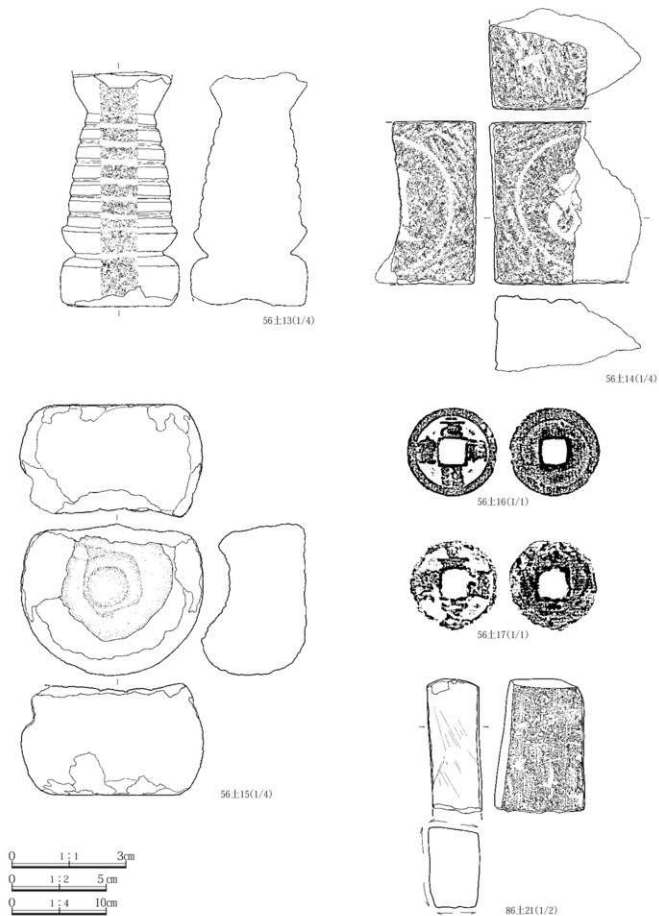


56上12(1/6)



0 1:2 5cm
0 1:4 10cm
0 1:6 20cm

第33図 B区土坑 平面図・土層断面図(5)、B区土坑出土遺物(1)

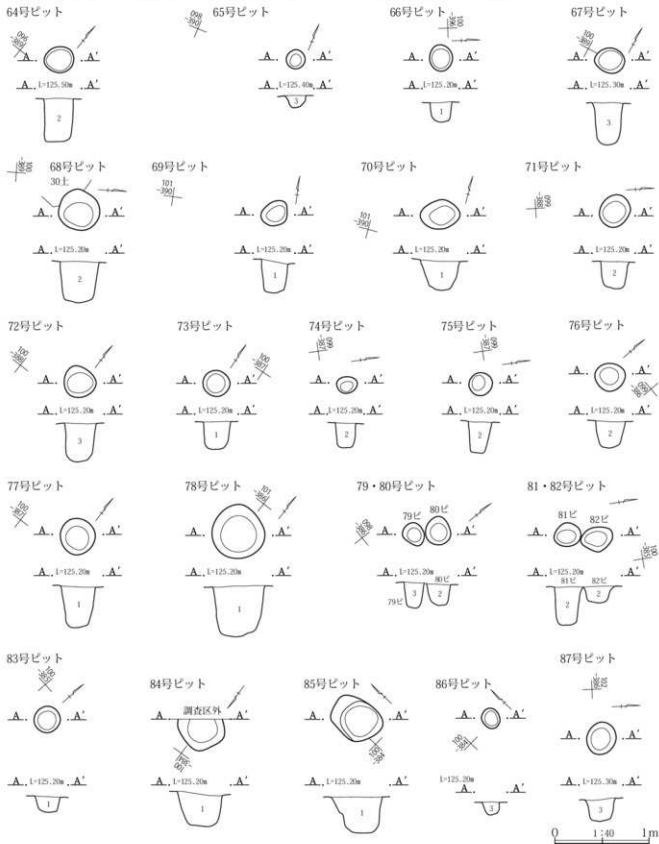


第34図 B区土坑出土遺物(2)

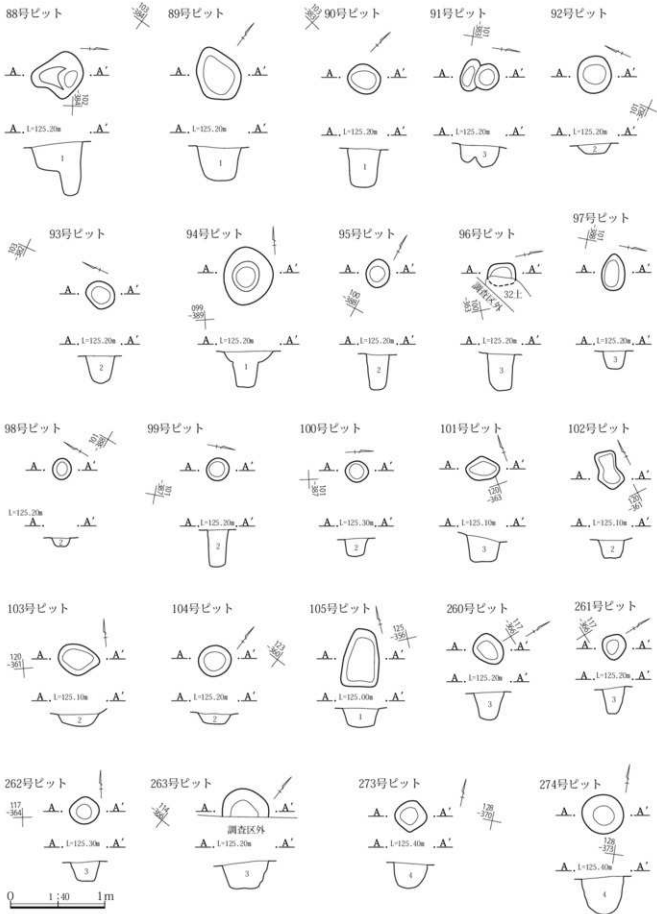
5. ビット

B区では79基のビットが、B1区の西寄りやB4区の

北側を中心に多く検出された。用途や年代は不明である。規模については254頁からの第5表ビット一覧表に示した。遺物の出土はみられない。

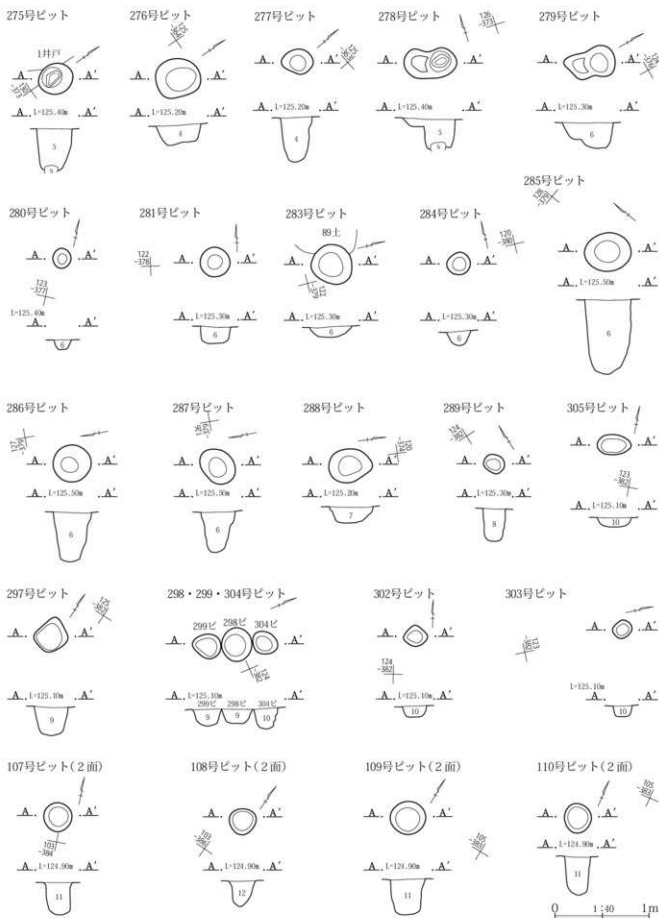


第35図 B区ビット 平面図・土層断面図(1)



第36図 B区ピット 平面図・土層断面図(2)

第3章 調査の成果



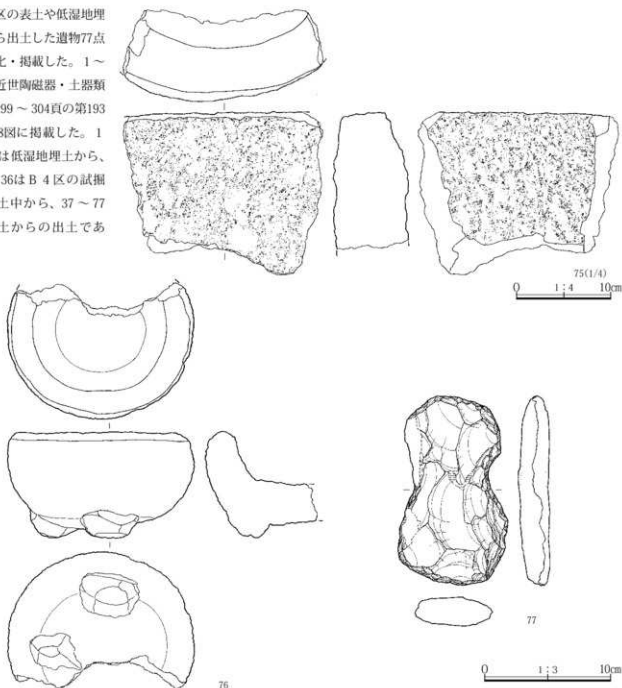
第37図 B区ビット 平面図・土層断面図(3)

B区ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土を不均質に含む。粘性しまりともにあまりなし。
 2 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土を不均質に含む。粘りよりも砂質味が強く、砂をやや多く含む。粘性しまりともにあまりなし。
 3 暗褐色土10YR3/4 やや均質で砂質味が少ない。粘性しまりともにややあり。
 4 黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色土を斑の子斑状に約30%含む
 5 暗褐色粘質土10YR3/3
 6 暗褐色砂質土10YR3/3 鈍い黄褐色土ブロック及び白色粒を含む。粘性ややあり。
 7 暗褐色砂質土10YR3/3 φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約5%程度含む。固くしまり強い。
 8 暗褐色土10YR3/3 φ約1～2mm程度の白色粒及び炭化物を僅かに含む。しまり強い。
 9 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒、炭化物を約2%程度含む。しまり強い。
 10 暗褐色土10YR3/3 粘性しまりあり。
 11 褐灰色土10YR4/1 やや灰白色味が強く、ややしっとり感ある不均質土。粘性しまりともにあまりなし。
 12 鈍い黄褐色土10YR4/3 ややハサバサした灰黄褐色土を斑に約5～10%程度、炭化物を若干含む。粘性ややあり。しまりあまりなし。

6. 遺構外出土遺物

B区の表土や低湿地理土から出土した遺物77点を図化・掲載した。1～74は近世陶磁器・土器類で、299～304頁の第193～198図に掲載した。1～18は低湿地理土から、19～36はB4区の試掘坑表土中から、37～77は表土からの出土である。



76
第38図 B区遺構外出土遺物

第4節 C区で検出された遺構と遺物

C区は、全調査区内の中央から西寄りの一帯を占める最大の調査区で、西端には南北に旧河道が検出されている。平安時代前～中期の集落はこの河川の西側に当たるD区にも展開しているが、調査内では東側C区中央部における住居の密集が圧倒的に顕著であり、竪穴住居相互の重複も著しいので、集落の中心はC区側であったと考えられる。

C区は南西から北東に連なる調査区で、調査の便宜上、東側からC4調査区、C3調査区、C2調査区、C1調査区と分割されている。C1調査区がC区の南西端であり、C1・2調査区が南北に走る生活道路を挟んで西側D区と隣接する。東端C4調査区は同様に南北方向の生活道路を挟んでB区(B1・4調査区)と隣接する。

C区からは52棟の竪穴住居、5条の溝、129基の土坑、78基のピットなどの遺構が検出された。

竪穴住居と溝・土坑の大部分は平安時代前～中期、9～10世紀のものである。ピットはほぼ全てが年代不詳であった。

1. 住居

先述したようにC区からは52棟の竪穴住居が検出された。本遺跡では合計59棟の竪穴住居が検出されている。6棟がC区の西側に隣接するD区からの検出で、B区から僅かに1棟が検出されている。約9割の竪穴住居はC区で検出されたことになる。C区で検出された住居は、C区の中央部であるC3区に特に集中し、激しく重複しているが、その他の調査区ではまばらである。

(1) 2号住居(第39図、PL.21・100)

位置：C2調査区の西端寄り、南壁にかかる。3・11号住居の東側、48・52号住居の南側に隣接する。X = 48,063～48,066、Y = -69,438～-69,441。

検出面積：7.56㎡。

規模と形状：南東側約半分が調査区外に出るため、全容は明確ではないが、検出状況から東西にやや長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。最大残存長3.75m・短径3.8m・確認面からの深さ0.24m。全体に浅い。

重複：なし。

埋土：褐灰色土をベースとし、鈍い黄褐色土が斜めに流入している。

竈・柱穴・溝溝：検出されなかった。

貯蔵穴：貯蔵穴は検出されなかったが、検出範囲の北東隅から床下土坑が1基検出された。南側は調査区外に出るが、南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.75m・短径0.5m・深さ0.15m、褐灰色土が堆積する。

床面：地山を平坦に削りだして床面を形成している。中央部で顕著な硬化面が検出された。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須器器片3点(1・2は床直、3は埋土)、砥石1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀前半。

(2) 3号住居(第40図、PL.21)

位置：C2調査区の西端寄りの南寄り、2号住居の西側に隣接する。北側51号住居との関係は、両住居の重複箇所がたまたま平成26年度調査のC2区と平成27年度調査のC3区の調査小区境に当たっているために明らかにする事が出来なかった。X = 48,065～48,069、Y = -69,443～-69,447。

主軸方位：N-64°-W。 **竈主軸方位：**N-53°-W。

検出面積：8.72㎡。

規模と形状：北辺が調査小区外に出るため、全容は明確ではないが、検出状況から東西にやや長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。長辺3.75m・残存最大南北径3.4m・確認面からの深さ0.15m。全体に浅い。

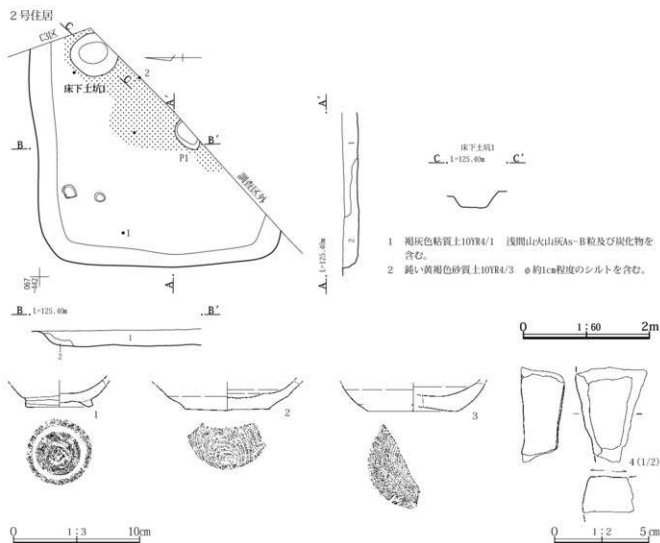
重複：11号住居を掘り込む。すぐ北側に重複する51号住居との新旧関係は不明。

埋土：鈍い黄褐色土をベースとし、暗褐色土がごくわずかに斜めに流入している。

竈：東壁の南寄りの位置に取り付く。両袖は地山を削り出して住居内に張り出すように造られ、煙道は地山を削り出して住居の外側に延びている。燃焼部から煙道まで約0.5～0.8cmの厚さで粘質土を貼り付け火床面を形成している。竈前面の床面に、あまり広範囲ではないが焼土及び炭の堆積が認められた。

貯蔵穴・柱穴・溝溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。顕



第39図 C区2号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

著な硬化面は検出されなかった。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須恵器羽釜片1点(床直)。

時期：平安時代中期、10世紀後半。

(3) 4号住居(第41・42図、PL.21・22・100)

位置：C2調査区の南東隅、130号土坑の西側に隣接する。

X=48,057~48,060、Y=-69,447~69,451。

主軸方位：N-67°-W。 **竈主軸方位**：N-76°-W。

面積：5.44㎡。

規模と形状：南東-北西方向にやや長い隅丸長方形を呈する。長辺2.76m・短辺2.62m・確認面からの深さ0.19m。全体に浅い。

重複：なし。

埋土：上層及び下層に鈍い黄褐色土、中層に黒褐色土が堆積する。

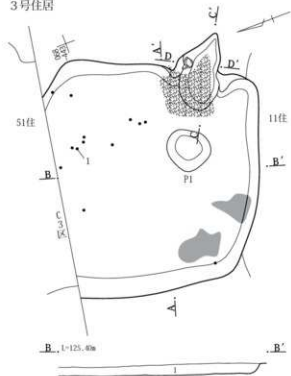
竈：南東壁のコーナー寄りの位置に取り付く。左袖は地山を削り出した上に粘土を貼り付けて、右袖は粘質土主体に、ともに自然石を芯材に使用して造られている。煙道は地山を削り出し、鈍い黄褐色土を貼り付け、川原石大の石を並べて整形し、住居外側に延びている。燃焼部の天井に用いられたと思われる石が燃焼部から出土した。火床は、削り出した地山の上に、燃焼部では約1cm、煙道部では約2cmの厚さで粘質土を貼り付け、形成している。燃焼部奥から煙道にかけて狭い範囲に焼土の堆積が認められた。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。顕

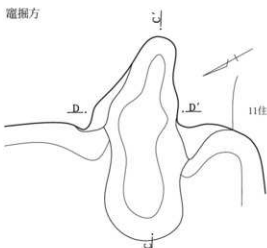
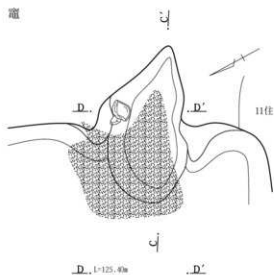
第3章 調査の成果

3号住居



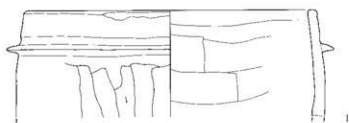
- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 少量の炭化物含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 炭化物含む。

0 1:60 2m



- 1 暗褐色土10YR3/4 炭化物粒及び白色粒を約2%程度、潮灰色砂粒を約5%程度含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 灰及び焼土を約5%程度、潮灰色砂粒を約10%程度含む。しまりやや強い。
- 3 黒色土10YR2/1 炭・灰屑
- 4 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 焼土及び炭化物を若干含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第40図 C区3号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

著な硬化面は検出されなかった。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：土師器盤1点・同杯1点・同小型甕片1点(竈掘方)、鉄鎌1点(埋土)。

時期：奈良時代初期、8世紀第1四半期。

(4) 5号住居(第43図、PL.100)

位置：C1調査区の北端、東寄り。北壁に掛かる。X=48,054~48,055、Y=-69,456~69,460。

規模と形状：北側が調査区外に出、南側は削平により検出されず、南北幅は0.45mしか検出出来なかったため全く不明。東西辺3.09m・確認面からの深さ0.45m。検出範囲における北東隅部でテラス状の高まりがあった。

重複：なし。

埋土：上層褐灰色土、中・下層に鈍い黄褐色土が堆積する。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須恵器椀1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第4四半期。

(5) 6号住居(第44図)

位置：C1調査区の北東寄り。X=48,049~48,051、Y=-69,456~69,458。

規模と形状：北側を試掘トレンチで破壊され、南・西側は削平により検出されず、竪穴住居の南西隅のごく一部が僅かに検出されたに過ぎず、全容は全く不明である。南西隅部における不整形の落ち込みは掘方の一部と考えられる。

重複：301号ピットに掘り込まれる。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面・掘方：不明。

遺物：なし。

時期：古代。

(6) 7号住居(第44図)

位置：C1調査区の北東端、東壁に掛かる。X=48,049~48,051、Y=-69,451~69,453。

規模と形状：南東側が調査区外に出、北西側は削平により検出されず、南東-北西幅0.2m分しか検出出来なかったため全く不明。北東-南西辺2.12m・確認面からの深さ0.25m、掘方までの深さは0.52m。

重複：なし。

埋土：褐灰色土。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地鈍い黄褐色土を約0.3m程貼って床面を形成している。

掘方：全体的に凹凸激しく掘り込まれている。

遺物：なし。

時期：古代。

(7) 8号住居(第45・46図、PL.22・23・100)

位置：C2調査区の南端中央、南壁に掛かる。10号住居の西側に隣接する。X=48,056~48,060、Y=-69,457~69,462。

主軸方位：N-78°-W。竈主軸方位：N-74°-W。

検出面積：8.54㎡。

規模と形状：南辺が調査区外に出るが、東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。長辺3.74m・短辺検出最大長2.92m・確認面からの深さ0.14m。全体に浅い。

重複：9・12号住居の南辺を掘り込む。121号土坑に掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土と暗褐色土が混じる。

竈：南東壁に取り付く。両袖及び燃焼部は地山を削り出して造られている。煙道は検出されなかった。火床は、削り出した地山の上に、燃焼部では約0.5~1.5cmの厚さで黒色土及び暗褐色土を貼り付け、形成している。燃焼部前面の床面に広く灰及び炭・焼土の堆積が認められた。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。竈の前面に顕著な硬化面が検出された。

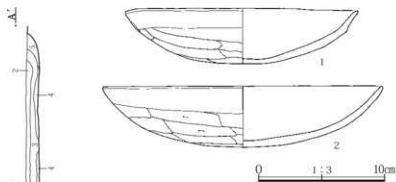
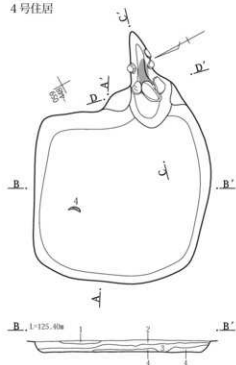
掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須恵器杯1点(床直)、土師器甕片2点(床直・竈)。

時期：平安時代前期、9世紀第3四半期。

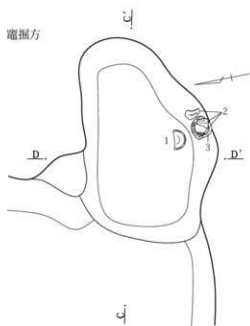
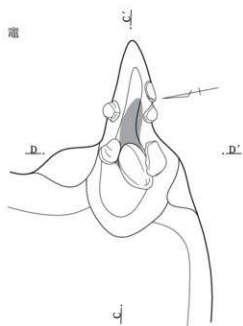
第3章 調査の成果

4号住居



- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 炭化物を多く、椋名山ニツ岳軽石In-IP粒を含む。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物を含む。やや粘質。
- 4 鈍い黄褐色砂質土10YR5/3 炭化物を極少量含む。
- 5 鈍い黄色砂質土10YR6/4

0 1:60 2m

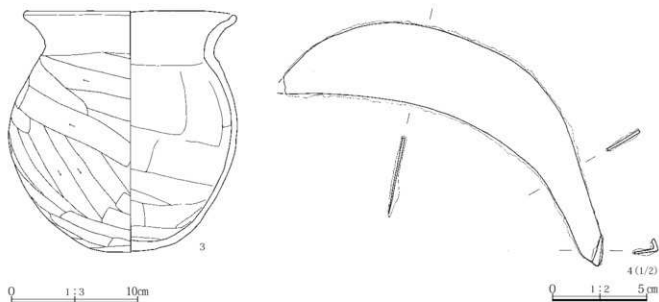


- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 炭化物多く、椋名山ニツ岳軽石In-IP粒を含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 焼土及び炭化物を少量含む。
- 3 鈍い赤褐色土5YR4/4 ローム及び焼土を含む。
- 4 赤褐色土5YR4/6 ローム及び焼土を含む。
- 5 鈍い黄褐色土10YR5/3 椋名山ニツ岳軽石In-IP粒を少量含む。
- 6 鈍い黄褐色土10YR5/3 焼土を多く含む。
- 7 暗褐色土10YR3/3 炭化物を多く含む。
- 8 鈍い黄褐色土10YR4/3

0 1:30 1m

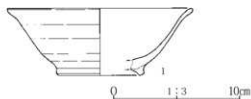
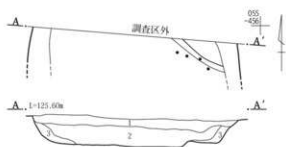
第41図 C区4号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第42図 C区4号住居 出土遺物(2)

5号住居

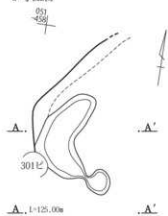


- 1 褐色粘質土10YR4/1 榛名山二ツ岳軽石B-FP粒及び炭化物を少量含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR5/4 榛名山二ツ岳軽石B-FP粒及び炭化物を含む。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR6/4 炭化物を少量含む。

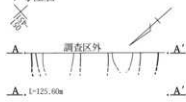
0 1:60 2m

第43図 C区5号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

6号住居



7号住居



- 1 褐色砂質土10YR4/1 榛名山二ツ岳軽石B-FP粒及び炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 榛名山二ツ岳軽石B-FP及び炭化物を含む。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR6/4 炭化物を少量含む。

0 1:60 2m

第44図 C区6・7号住居 平面図・土層断面図

(8) 9号住居(第47・48図、PL.23・100)

位置: C2調査区の南端付近中央、南壁寄りの位置。10号住居の西側に隣接する。X=48,058~48,062、Y=-69,456~69,461。

主軸方位: N-70°-W。 **竈主軸方位:** N-73°-W。

検出面積: 8.74㎡。

規模と形状: 南辺を8号住居に破壊されているが、南東-北西方向に若干長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。長辺3.64m・短辺検出最大長3.1m・確認面からの深さ0.28m。

重複: 12号住居を掘り込む。南辺を8号住居に掘り込まれる。

埋土: 鈍い黄褐色土と暗褐色土が混じる。

竈: 南東壁に取り付く。掘りししか残存していなかった。両袖及び燃焼部は地山を削り出して造られている。煙道は検出されなかった。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山をほぼ平坦に削り出して床面を形成している。

掘方: 床面と掘方が一致している。

遺物: 須恵器椀2点(床直)、内1点体部外面正位墨書「本」。土師器壺片1点(竈)、刀子1点(床直)。

時期: 平安時代前期、9世紀第4四半期。

(9) 10号住居(第49図、PL.23)

位置: C2調査区の南端付近中央、南壁に懸かる。8~12号住居の東側に隣接する。X=48,056~48,058、Y=-69,453~69,456。

主軸方位: N-16°-E。

検出面積: 3.92㎡。

規模と形状: 南辺が調査区外に出、さらに攪乱で破壊されているため全容は不明であるが、隅丸方形ないし長方形形状を呈するものと思われる。東西長2.75m・南北検出最大長1.34m・確認面からの深さ0.22m。全体的に浅い。

重複: 129号土坑に掘り込まれる。

埋土: 上層に灰黄褐色土、下層に暗褐色土、床面間隙の一部に鈍い黄褐色土が堆積している。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山をほぼ平坦に削り出して床面を形成している。

掘方: 床面と掘方が一致している。

遺物: なし。

時期: 古代。

(10) 11号住居(第50図、PL.24・100)

位置: C2調査区の南東寄り。東壁間近。2号住居の西側、4号住居の北側に隣接する。X=48,062~48,066、Y=-69,444~69,448。

主軸方位: N-72°-W。 **竈主軸方位:** N-46°-W。

面積: 11.97㎡。

規模と形状: 北辺を3号住居に破壊されているが、東西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺4.86m・短辺3.69m・確認面からの深さ0.33m。

重複: 北辺を3号住居に、南東隅を93号土坑に、北東隅を95号土坑に掘り込まれる。東側132号土坑を掘り込む。

埋土: 上層に暗褐色土、下層に灰黄褐色土、壁際に鈍い黄褐色土と暗褐色土が斜めに混入する。

竈: 南東のコーナーに取り付く。両袖及び燃焼部は地山を削り出した上に粘質土を貼り付けて造られていたと考えられるが、ほぼ掘りししか残存していない状態であった。なお、左袖芯材を据えた痕跡と見られる微小な掘り込みが検出されている。燃焼部及び煙道は地山を削り出して造られ、0.2~0.3mの暗褐色土・暗赤褐色土・黒褐色土を貼って火床面を造り出している。煙道は住居外に延びる。焚き口前には広範囲に焼土、炭、灰等の堆積が見られた。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山をほぼ平坦に削り出して床面を形成している。

掘方: 床面と掘方が一致している。

遺物: 須恵器椀1点(竈掘方)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期。

(11) 12号住居(第51図、PL.24・25・100)

位置: C2調査区の南端寄りの中央。東壁間近。10号住居の西側に隣接する。X=48,057~48,060、Y=-69,456~69,460。

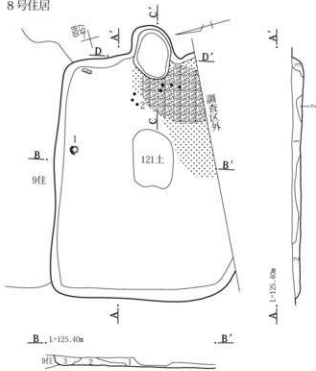
主軸方位: N-74°-W。 **竈主軸方位:** N-70°-W。

規模と形状: 上面を8・9号住居に破壊され、掘り込みが検出された。東西方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.52m・短辺3.34m・確認面からの深さ0.09m。

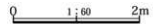
重複: 上面を8・9号住居に掘り込まれる。

埋土: 掘方埋土である。鈍い黄褐色土。

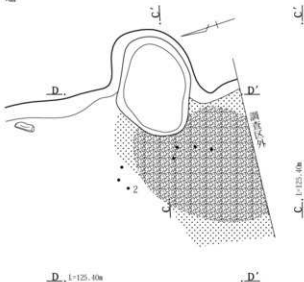
8号住居



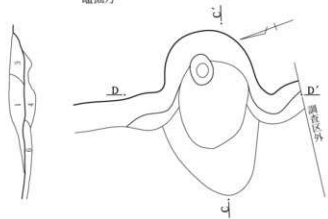
- 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 炭化物及び黄色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黄色ブロック少量、炭化物を含む。やや粘質。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3



竈

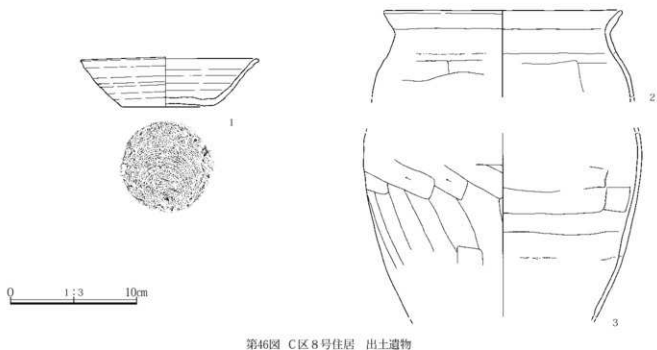


竈掘方

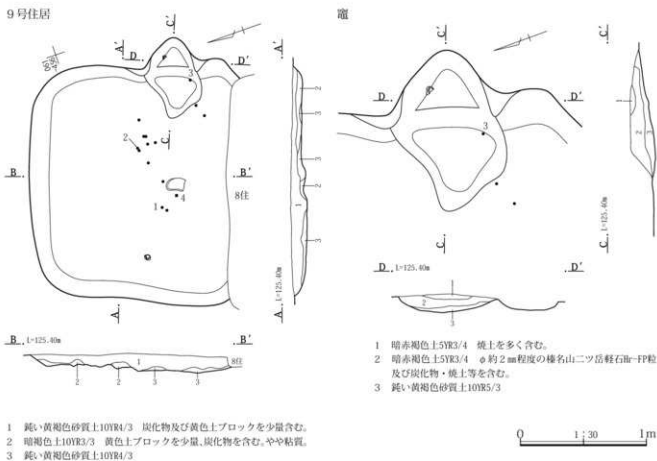


- 1 黒褐色土10YR3/2 φ約5～10mm程度の焼土ブロックを約5%程度、炭化物及び白色粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 白色粒及び炭化物粒を僅かに含む。粘性ややあり。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 φ約5～10mm程度の焼土ブロック、φ約1～2cm程度の鈍い黄褐色粘質ブロックをともに約10%程度、灰を僅かに含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色土及び焼土のブロック、灰とを約20%程度含む。しまり強い。
- 5 灰黄褐色土10YR5/2 φ約1～5mm程度の焼土粒及び鈍い黄褐色土ブロック、炭化物とを約10%程度含む。しまり強い。
- 6 黒色土10YR2/1 暗褐色土と灰黄褐色土との混土にφ約5～10mm程度の焼土ブロックを約5%程度含む。しまり強い。
- 7 暗褐色土10YR3/3 白色粒及び炭化物を僅かに含む。粘性ややあり。

第45図 C区8号住居 平面図・土層断面図



第46図 C区8号住居 出土遺物

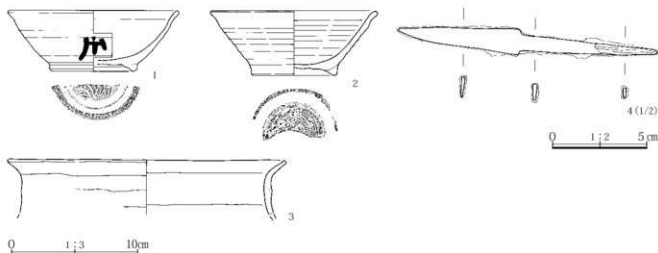


- 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 炭化物及び黄色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黄色土ブロックを少量、炭化物を含む。やや粘質。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3

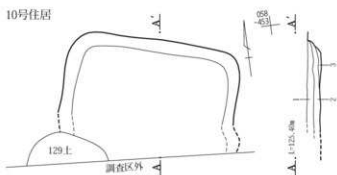
- 1 暗赤褐色土5YR3/4 焼土を多く含む。
- 2 暗赤褐色土5YR3/4 φ約2mm程度の榛名山二ツ岳軽石In-FP粒及び炭化物・焼土等を含む。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR5/3

第47図 C区9号住居 平面図・土層断面図

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第48図 C区9号住居 出土遺物



第49図 C区10号住居 平面図・土層断面図

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約1～5mm程度の明黄褐色粒を5%、φ約1～3mm程度の榛名山ニツ岳軽石Br-珪粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色砂質土10YR3/3 明黄褐色粒及び榛名山ニツ岳軽石Br-珪粒を僅かに含む。しまり強い。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 φ約1～2mmの黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い。

竈：東壁のほぼ中央に取り付くが掘方しか残存していない状態であった。煙道は検出されなかった。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：削平・破壊されており、検出されなかった。

掘方：北辺から中央部にかけて一段深く、不整形に掘り込まれていた。

遺物：なし。

時期：古代。

(12) 19号住居(第52・53図、PL. 25)

位置：C 4 調査区的最東端。東壁にかかる。217・218号土坑の北側に隣接する。X = 48,101～48,105、Y = -69,396～-69,400。

検出面積：9.39㎡。

規模と形状：東辺が調査区外に出るが、東西方向に長い隅丸長方形を呈する。検出最大長辺3.7m・短辺3.1m・確認面からの深さ0.38m。掘方までの深さは0.5m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、下層及び壁際に鈍い黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：検出されなかった

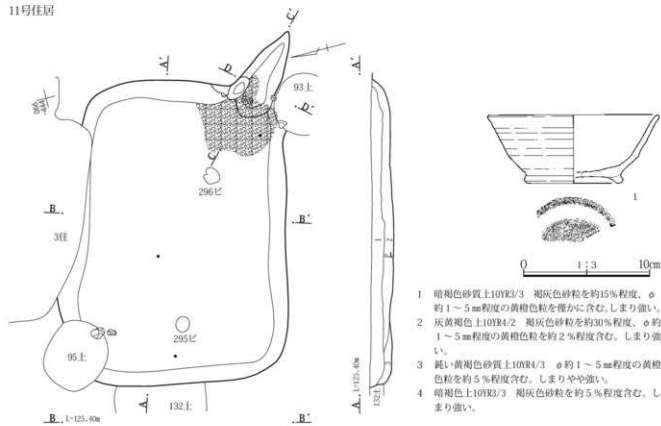
貯蔵穴：北東隅付近の床下からビット1が検出された。東西に長い楕円形状を呈し、長径0.31m・短径0.28m・深さ0.16m、暗褐色土が堆積していた。

柱穴：なし。

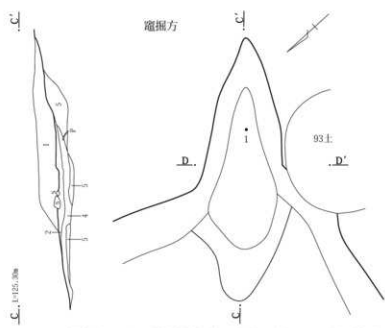
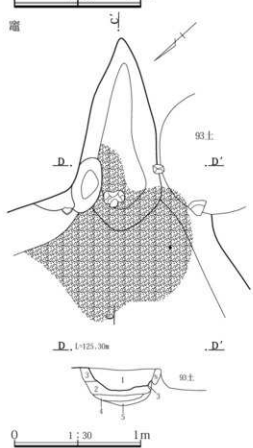
周溝：検出されなかった。

床面：掘方の上に0.05～0.17mほど黒褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

11号住居



- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約15%程度、φ約1～5mm程度の黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色砂粒を約30%程度、φ約1～5mm程度の黄褐色粒を約2%程度含む。しまり強い。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 φ約1～5mm程度の黄褐色粒を約5%程度含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土10YR3/3 褐灰色砂粒を約5%程度含む。しまり強い。

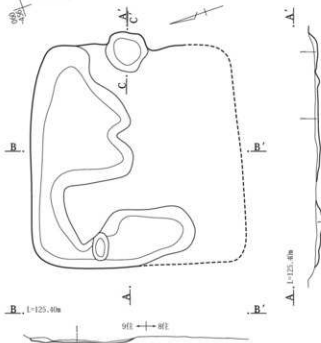


- 1 暗褐色土10YR3/4 灰黄褐色砂粒を約20%程度、φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを僅かに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 灰黄褐色土及び焼土を含む。
- 3 灰黄褐色粘質土10YR4/2
- 4 暗赤褐色土5YR3/4 褐灰色砂粒を約10%程度、φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを僅かに含む。しまり強い。
- 5 黒褐色砂質土7.5YR3/2 灰・焼土・φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを僅かに含む。しまり強い。

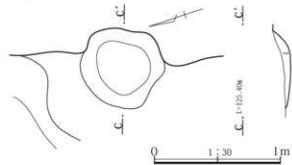
第50図 C区11号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

第4節 C区で検出された遺構と遺物

12号住居掘方

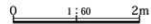


掘方



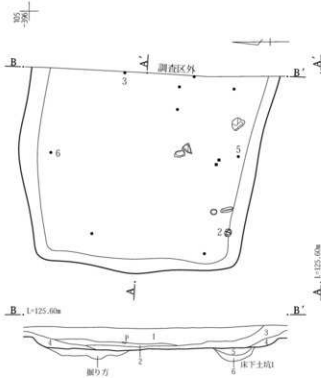
12号住居・竈

- 1 鈍い黄褐色粘質土10YR5/4 φ約5mm程度の褐色土ブロックを含み、炭化物及び焼土を僅かに含む。

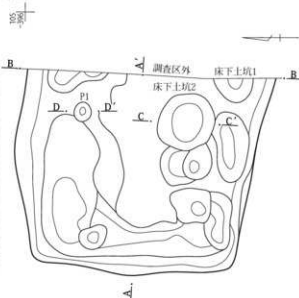


第51図 C区12号住居 平面図・土層断面図

19号住居



掘方



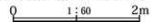
- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約2～3mm程度の榛名山二ツ岳軽石H-F粒及び炭化物を含む。
- 2 暗褐色土10YR4/3 φ約2～3mm程度の榛名山二ツ岳軽石H-F粒を少量含む。炭化物の含有は少ない。
- 3 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 炭化物を少量含む。
- 4 鈍い黄褐色砂質土10YR5/3
- 5 黒褐色土10YR3/2 炭化物片を少量、砂を多く含む。しまりややあり。やや粘質。
- 6 褐色土10YR4/4 しまりあり。やや粘質。

125.20m

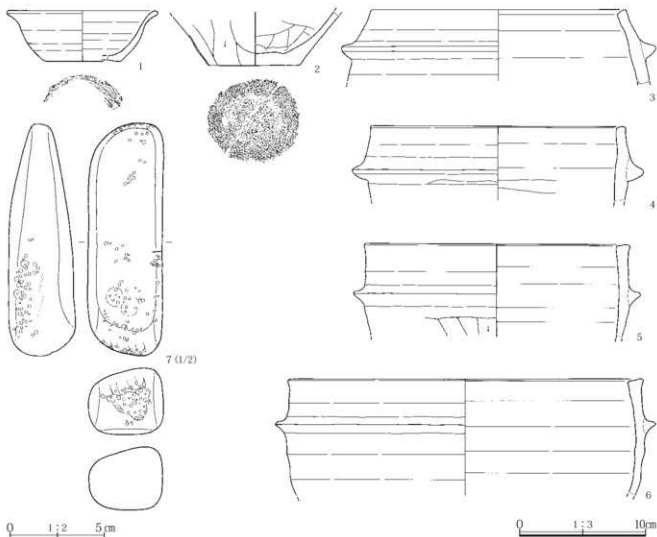


19号住居 P1

- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 φ約5mm程度の軽石を微量含む砂粒状の層。ややしまりあり。



第52図 C区19号住居 平面図・土層断面図



第53図 C区19号住居 出土遺物

掘方：全体に凹凸激しく掘り込まれており、特に南西隅から西壁際、北壁際にかけて一段深く溝状に掘り込まれている。中央部には土坑状の掘り込みが見られる。南東隅床下から床下土坑1が、中央部から南東寄りの床下から床下土坑2が検出された。床下土坑1は、東側が調査区外に出るため内容は不明であるが、南北径0.85m・検出最大東西径0.3m・床面からの深さ0.21m、黒褐色土が堆積していた。床下土坑2は、東西にやや長い楕円形状を呈し、長径0.93m・短径0.9m・床面からの深さ0.18m、黒褐色土が堆積し、壁際に鈍い黄褐色土塊が混入する。

遺物：須恵器杯片1点(掘方)、同羽釜片4点(2・5は床直、3・4は埋土)、土師器裏片1点(床直)、礫石器敲石1点(埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(13) 20号住居(第54～56図、PL. 26・101)

位置：C区の北東隅付近、C4調査区の中央、北寄りの位置。205・206号土坑の北側に隣接する。X=48,105～48,111、Y=-69,408～-69,412。

主軸方位：N-80°-W。**竪主軸方位：**N-70°-W。

面積：10.31㎡。

規模と形状：南北方向に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺5m・短辺4.2m・確認面からの深さ0.47m。掘り方までの深さは0.52m。

重複：23号住居の南西隅を掘り込む。南東隅付近を206号土坑に浅く掘り込まれる。

埋土：暗褐色土、壁際に褐色土が斜めに堆積する。

竈：東壁の中央からやや南寄りの位置に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖は壁の地山を削り出して形成され、左袖には芯材に使用されたと見られる自然石が残存していた。掘方からは右袖の芯材及び燃焼部中央の支脚を据えたと考えられる痕跡が検出された。燃焼部、煙道共に地山を削り出して形成され、煙道部は住居の外側に延びている。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：掘方の上に0.05～0.09mほど黒褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：全体に平坦で、凹凸は激しくない。北壁際に若干の掘り込みが見られた。

遺物：須恵器杯蓋片1点(床直)、同杯片1点(埋土)、同裏片1点(竈)、土師器杯片1点(掘方)、同裏片6点(5・6・8・10竈、7埋土、9床直)、同小型裏片1点(床直)、刀子1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第2四半期。

(14) 21号住居(第57・58図、PL. 27・101)

位置：C区の東寄り、南端。C4調査区の西寄り、南端。22号住居の南側に隣接する。X=48,082～48,086、Y=-69,413～-69,416。

主軸方位：N-88°-W。 **竈主軸方位**：N-87°-W。

面積：10.06㎡。

規模と形状：南北方向に長い隅丸長方形を呈する。長辺4.5m・短辺3.4m・確認面からの深さ0.34m。掘方までの深さは0.45m。北側の床面を一部、後世に攪乱されている。

重複：なし。

埋土：黒褐色土。

竈：東壁の南東隅寄りの位置に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖は壁の地山を削り出して形成され、右袖には芯材に使用されたと見られる自然石が残存していた。燃焼部、煙道共に地山を削り出して形成され、煙道部は住居の外側に延びている。

貯蔵穴：住居の南東隅、竈のすぐ南側で、掘方で検出された。南北に長い不整楕円形状を呈し、長径0.75m・短径0.51m・深さ0.02m。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：掘方の上に0.01～0.2mほど鈍い黄褐色土・黒褐

色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：南側がテラス状にやや高まるが、全体に平坦で、凹凸は激しくない。

遺物：土師器杯4点(1竈、2・3埋土、4床直)、同裏片1点(埋土)、須恵器碗6点(5・8・9埋土、6・7掘方、10竈)、鉄釘1点(掘方)。

時期：平安時代前期、9世紀第4四半期。

(15) 22号住居(第59～61図、PL. 27・28・101)

位置：C区の東寄り、南端付近。C4調査区の西寄り、南端付近。21号住居の北側に隣接する。X=48,086～48,091、Y=-69,411～-69,415。

主軸方位：N-78°-W。 **竈主軸方位**：N-81°-W。

面積：8.88㎡。

規模と形状：南北方向に若干長い隅丸長方形を呈する。長辺4.1m・短辺3.8m・確認面からの深さ0.47m。掘方までの深さは0.51m。

重複：なし。

埋土：上層に黒褐色土、中・下層に鈍い黄褐色土が堆積し、壁際に黒褐色土、褐色土の堆積が見られる。

竈：東壁のほぼ中央に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖は壁の地山を削り出して形成され、左袖芯材に使用されたと見られる自然石が壁際から、また、右袖芯材と見られる自然石が貯蔵穴縁から、それぞれ原位置を離れて出土している。燃焼部、煙道共に地山を削り出して形成され、煙道部は住居の外側に延びている。掘方において右袖芯材を据えたと思われる痕跡が検出されたが、左袖芯材を据えた痕跡は検出できなかった。なお、燃焼部の中央より北東寄り、支脚を据えたと考えられる痕跡が検出された。

貯蔵穴：住居の南東隅、竈前面のすぐ南側で検出された。東西に長い楕円形状を呈し、長径0.72m・短径0.59m・深さ0.44m。上層に褐色土、下層に黒褐色土が堆積していた。

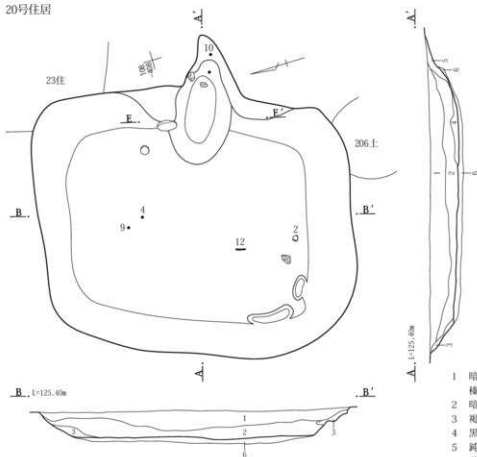
柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：掘方の上に0.05～0.18mほど褐色土・暗褐色土・黒褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：南側がテラス状にやや高まるが、全体に平坦で、凹凸は激しくない。

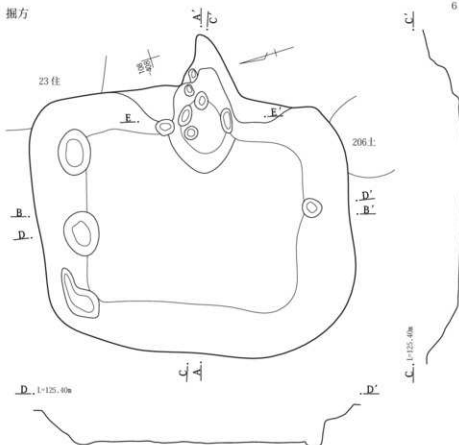
遺物：須恵器杯3点(3・5埋土、4貯蔵穴)、同脚付盤1点(埋土)、土師器杯片2点(埋土)、同裏片6点(7・12

20号住居



- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 約4～5mm程度の
棒状山ニツ居軽石In-FPを少量、炭化物含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 炭化物及び砂粒を含む。
- 3 褐色シルト質土10YR4/4
- 4 黒褐色土10YR3/2 炭化物を多く含む。
- 5 鈍い黄褐色シルト質土10YR4/3 炭化物及び
砂粒を含む。
- 6 暗褐色粘質土10YR3/4 褐色粘質土ブロック
を少量含む。しまりあり。

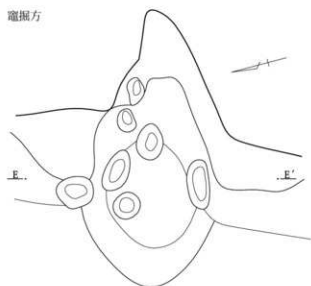
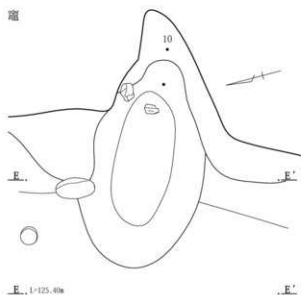
掘方



第54図 C区20号住居 平面図・土層断面図

0 1:60 2m

第4節 C区で検出された遺構と遺物



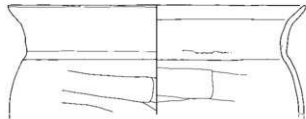
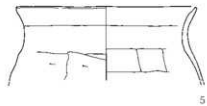
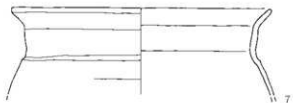
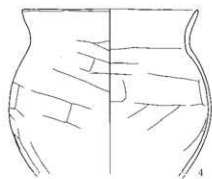
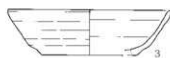
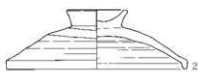
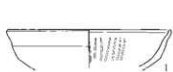
E., 1-125.0m

E.



- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約4～5mm程度の椋名山ニツ倍軒石画-FP粒を少量、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 炭化物を含む。
- 3 褐色土10YR4/4
- 4 黒褐色土10YR3/3 小粒の焼土を微量含む。しまりあり。やや粘質。
- 5 暗褐色土10YR3/4 砂を少量含む。ややしまりあり。
- 6 褐色粘質土5YR4/6 黄褐色混土及び焼土を多量に含む。所々に砂粒ブロックあり。しまりあり。

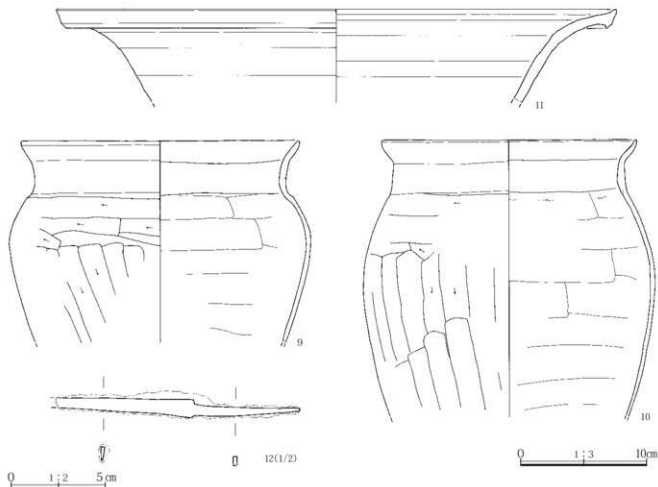
0 1:30 1m



0 1:3 10cm

8

第55図 C区20号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(1)



第56図 C区20号住居 出土遺物(2)

掘方、8床直、9埋土、10・11竈)、不明鉄製品1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第1四半期。

(16) 23号住居(第62・63図、PL. 28・29・102)

位置：C区的最東端寄り、北端付近。C4調査区の東寄り、北端付近。14号溝の南側に隣接する。X=48,108~48,112、Y=-69,404~-69,409。

主軸方位：N-81°-W。竈主軸方位：N-86°-W。

面積：11.23㎡。

規模と形状：南北方向に長い隅丸長方形を呈する。長辺4.36m・短辺3.64m・確認面からの深さ0.35m。掘方までの深さは0.61m。

重複：20号住居に南西隅を掘り込まれる。28号住居の西辺を掘り込む。

埋土：上層に灰黄褐色土、下層に鈍い黄褐色土が堆積する。

竈：東壁の南寄りの位置に取り付く。ほぼ掘方に近い状

態で検出された。両袖、燃烧部、煙道共に地山を削り出して形成され、煙道部は住居の外側に延びている。煙道の周囲及び燃烧部前の床面にかけて広く炭化物・焼土・灰等が検出された。

貯蔵穴：貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴・周溝：検出されなかった。

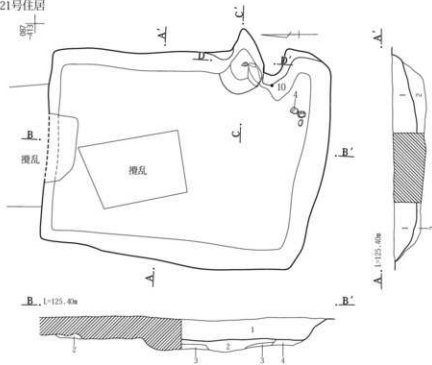
床面：掘方の上に部分的に0.05~0.1mほど暗灰黄褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：全体に平坦で、凹凸は激しくない。住居の中央部に南北に並列して床下土坑が2基検出された。南側の床下土坑1は、東西に長い不整楕円形状を呈し、長径1.61m・短径1.14m・深さ0.2m。暗灰黄褐色土が堆積している。北側に位置する床下土坑2は、南北にやや長い不整楕円形状を呈し、長径0.85m・短径0.83m・深さ0.11m。

遺物：土師器甕2点(埋土1、掘方1)、灰釉陶器碗2点(埋土1、床直1)。

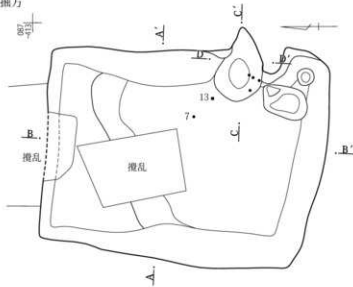
第4節 C区で検出された遺構と遺物

21号住居

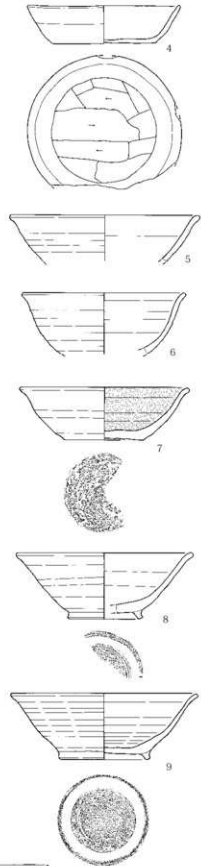


- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石泥-FF粒を少量、炭化物を含む。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物を含む。
- 4 褐色砂質土10YR4/6 炭化物を少量含む。

掘方

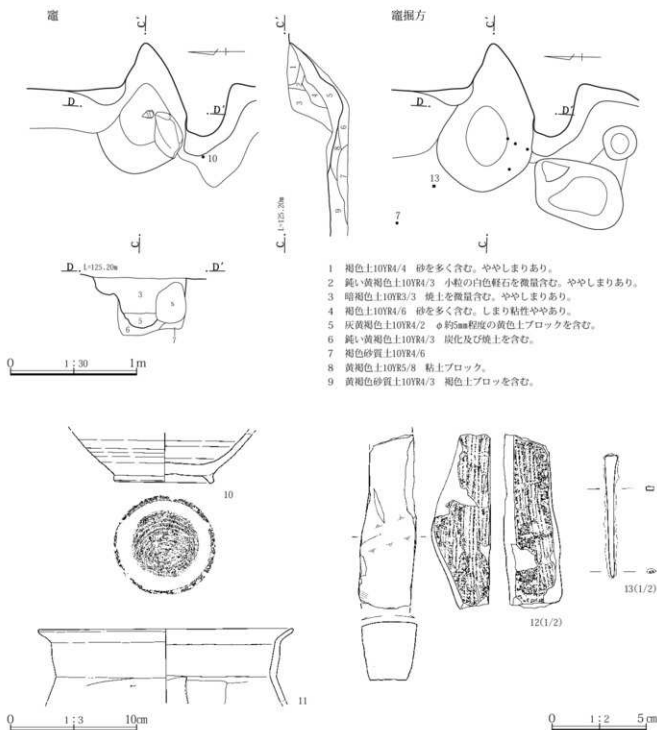


0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第57図 C区21号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



- 1 褐色土10YR4/4 砂を多く含む。ややしまりあり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 小粒の白色軽石を微量含む。ややしまりあり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 焼土を微量含む。ややしまりあり。
- 4 褐色土10YR4/6 砂を多く含む。しまり粘性ややあり。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 φ約5mm程度の黄色土ブロックを含む。
- 6 鈍い黄褐色土10YR4/3 炭化及び焼土を含む。
- 7 褐色砂質土10YR4/6
- 8 黄褐色土10YR5/8 粘土ブロック。
- 9 黄褐色砂質土10YR4/3 褐色土ブロックを含む。

第58図 C区21号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(2)

時期：平安時代中期、10世紀第2四半期。

(17) 24号住居(第64図、PL. 29)

位置：C区の東寄り。C4調査区の中央から西南寄り。22号住居の北側に位置する。X=48,092~48,094、Y=-69,413~69,415。

主軸方位：N-86°-E。竈主軸方位：N-108°-E。

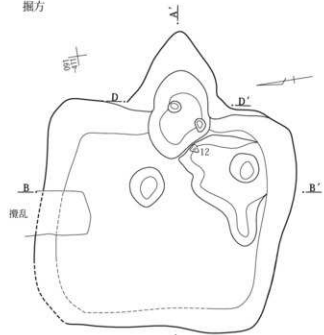
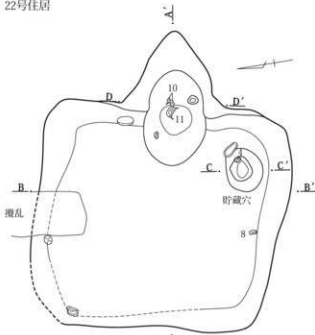
検出面積：3.87㎡。

規模と形状：隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、中央部を南北に試掘トレンチで大きく破壊され、北辺の大部分を後世に攪乱されており、全容は不明である。東西辺2.51m・南北辺確認最大長1.18m・確認面からの深さ0.15m。掘方までの深さは0.3m。

重複：なし。

22号住居

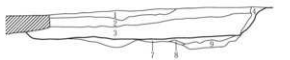
掘方



A. 1=125.00m



B. 1=125.00m



C. 1=124.80m



22号住居貯蔵穴

- 1 褐色土10YR4/4 中粒の白色軽石及び焼土を微量、砂粒を多く含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 中粒の白色軽石を1層よりやや多く含む。粘性しまりややあり。

0 1:60 2m

A. 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量、炭化物を含む。

2 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量、褐色土ブロックを含む。

3 鈍い黄褐色土10YR5/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を極少量、褐色土ブロックを含む。

4 黒褐色土10YR3/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を少量、焼土を多く含む。

5 褐色土10YR4/4 炭化物・灰・焼土等を多く含む。

6 暗褐色土10YR3/3 砂粒ブロックを所々に含む。粘性しまりややあり。

7 褐色土10YR4/4 小粒の白色軽石を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

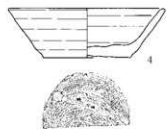
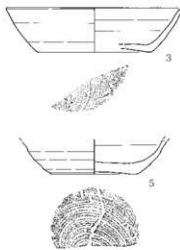
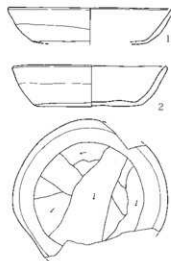
8 黒褐色土10YR3/1 中粒の白色軽石を少量含む。粘性しまりあり。

9 暗褐色土10YR3/4 中粒の白色軽石を微量含む。やや強い。

10 褐色土7.5YR4/3 砂を多く、焼土ブロックを少量含む。ややしまりあり。

11 暗褐色土7.5YR3/4 焼土ブロックを多く、砂ブロックを少量含む。しまりあり。

12 黒褐色粘質土10YR3/2 焼土を少量含む。

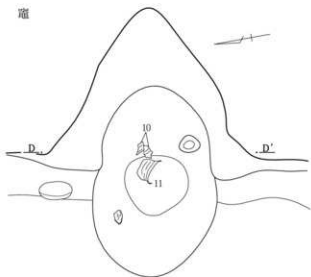


0 1:3 10cm

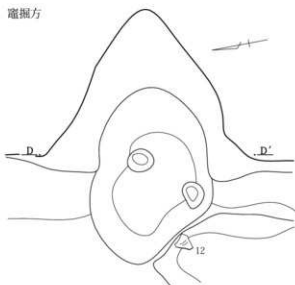
第59図 C区22号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

第3章 調査の成果

竈

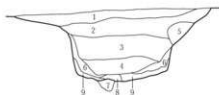


竈掘方

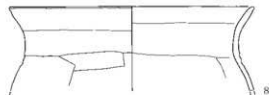
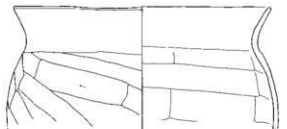
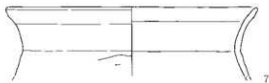
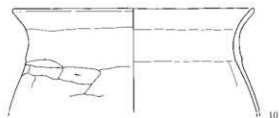
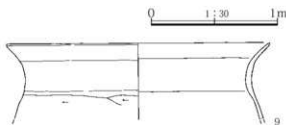
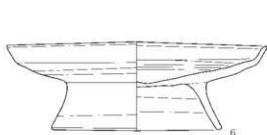


D, L=125.40m

D'



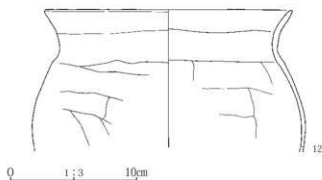
- 1 暗褐色土10YR3/3 棒名山ニツ岳軽石田-IP粒を少量、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 棒名山ニツ岳軽石田-IP粒を少量、褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 棒名山ニツ岳軽石田-IP粒と炭化物を少量、焼土を多く含む。
- 4 褐色土10YR4/4 炭化物・灰・焼土等を多く含む。
- 5 黒褐色土10YR3/1 棒名山ニツ岳軽石田-IP粒を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/3 大粒の焼土を少量、砂を含む。しまりややあり。
- 7 暗褐色粘質土7.5YR3/4 大粒の焼土を多く、砂粒ブロックを少量含む。しまりあり。
- 8 黒褐色粘質土10YR3/2 焼土を少量含む。
- 9 褐色粘質土10YR4/4 砂粒ブロックを少量、黒色土ブロックを含む。しまりあり。



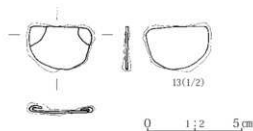
0 1:3 10cm

第60図 C区22号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(2)

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第61図 C区22号住居 出土遺物(3)



埋土: 明灰黄褐色土。

竈: 東壁に取り付く。両袖は灰黄褐色の粘質土を貼り付けて形成されている。燃焼部は地山を削り出して形成されている。煙道部は検出されなかった。燃焼部の周囲及び燃焼部前の床面にかけて広く炭・焼土・灰等が検出された。掘方において、竈右袖の芯材と思われる角柱状の一部を加工した石片が検出された。

貯蔵穴: 貯蔵穴は検出されなかったが、住居の中央部の西壁寄りの位置で床下ビットが検出された。南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.31m・短径0.24m・深さ0.35m。灰黄褐色土が堆積している。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 掘方の上に部分的に0.05~0.1mほど黄褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方: 凹凸激しく掘り込まれていた様子が伺える。

遺物: 須恵器皿1点(竈)、土師器甕1点(埋土)。

時期: 平安時代前期。

(18) 25号住居(第65~67図、PL. 30・31・102・103)

位置: C区及びC3調査区のほぼ中央。X=48,082~48,086、Y=-69,432~69,437。

主軸方位: N-69°-W。竈主軸方位: N-73°-W。

面積: 7.98㎡。

規模と形状: 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.69m・短辺3.12m・確認面からの深さ0.43m。

重複: 東辺で31号住居を、北辺から東辺にかけて40号住居を、南辺で58号住居を、西辺で34号住居を掘り込む。北辺及び西辺・南辺のそれぞれ一部を試掘トレンチによって破壊されている。

埋土: 灰黄褐色土。

竈: 東南隅近くに取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖及び燃焼部・煙道は地山を削り出して形成され、両袖は住居の内側に張り出している。左右袖の芯材、燃焼部天井に使用されたと見られる自然石が検出され、竈にかけられていたと見られる土師器甕の破片が煙道部から竈前にかけてまとまって出土した。竈前の床面には広く焼土・灰の分布が見られた。竈前及び燃焼部には0.01~0.1mの厚さで灰褐色土を貼って火床面を形成していた。

煙道部は住居の外側に長く延びている。

貯蔵穴: 貯蔵穴は検出されなかった。

床面: 地山を削り出して平坦な床面を形成している。

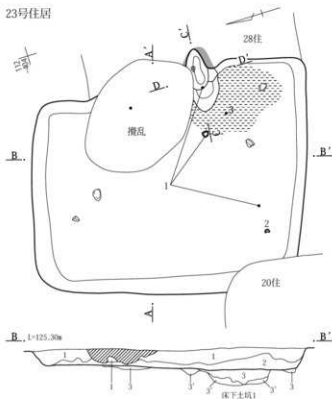
掘方: 床下土坑が検出された以外は、床面と掘方とがほぼ一致している。住居の南西隅、中央部南寄り、北東隅の三箇所床下土坑が検出された。中央部南寄りの位置から検出された床下土坑1は、南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.82m・短径0.69m・深さ0.21m。灰黄褐色土及び鈍い黄褐色土が堆積している。南西隅から検出された床下土坑2は、北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈し、長径0.6m・短径0.58m・深さ0.38m。灰黄褐色土及び暗褐色土が堆積している。北東隅から検出された床下土坑3は、北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径1.01m・短径0.84m・深さ0.38m。灰黄褐色土が堆積している。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

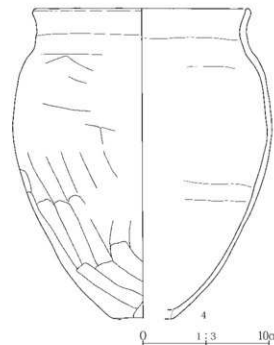
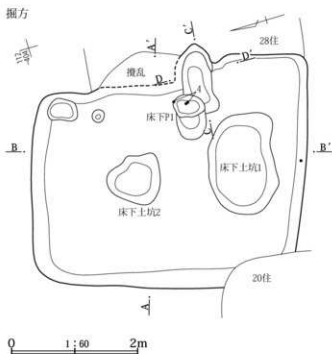
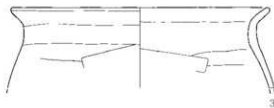
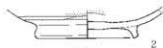
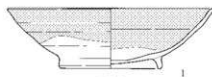
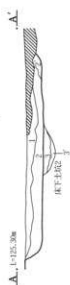
遺物: 黒色土器碗1点(床直)、須恵器碗2点(床直・竈)、同羽釜10点(埋土4、床直3、竈3)、灰軸陶器碗片1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀第2四半期。

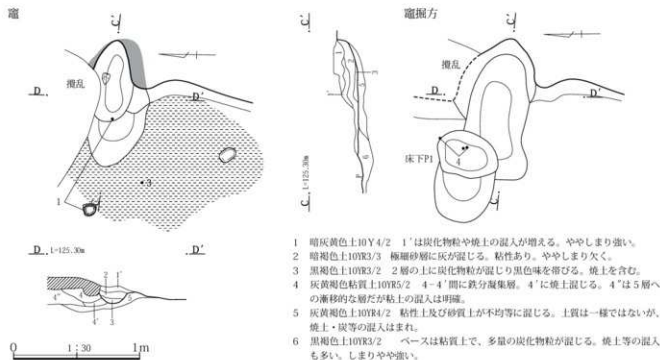
23号住居



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 極細サイズ砂粒。しまりやや強い。僅かに鉄及びマンガンの凝集があり、淡い斑状に見える。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 1層以上に砂質。やや黄色味を帯びている。床面直上で炭化物粒の混入がやや増える。2'で竈付近から混入したような黄土粒が均等に見られる。
- 3 暗灰黄色土2.5Y4/2 中粒の砂で地山層と同じ土質。黒色灰や少量の灰黄色粘性土が不均等に混じる。ややしまり欠く。3'はシミのような黒褐色部分がある不明瞭な層。



第62図 C区23号住居 平面図・土層断面図・出土遺物



第63図 C区23号住居 電平面図・土層断面図

(19) 26号住居(第68・69図、PL. 31・32)

位置: C区及びC3調査区のほぼ中央から南壁寄りの位置。31号住居の南側、47号住居の北側に隣接する。X = 48,075~48,078、Y = -69,432~-69,435。

主軸方位: N-75°-W。 **竈主軸方位:** N-69°-W。

面積: 7.73㎡。

規模と形状: 南北に長い隅丸長方形を呈する。長辺3.42m・短辺2.83m・確認面からの深さ0.28m・掘りまでの深さ0.44m。

重複: 南辺を14号溝に掘り込まれる。南辺から西辺にかけて27号住居を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土。

竈: 東南隅付近に取り付く。両袖は灰黄褐色土を貼り付けて形成され、住居の内側にやや大きく張り出す。燃烧部・煙道は、掘方を掘り出した土を貼り付けてして形成しているが、煙道部は完全に埋まった状態で検出され、掘方で確認された。煙道部の掘方は住居の外側に延びている。竈前及び燃烧部には0.04~0.06mの厚さで暗褐色土を貼って火床面を形成していた。竈前の床面には広範囲に焼土・灰等の堆積が見られた。

貯蔵穴: 貯蔵穴は検出されなかったが、住居の北東隅近

くと竈前とで床下土坑が検出された。住居の北東隅近くで検出された床下土坑1は、東西にやや長い楕円形状を呈し、長径0.65m・短径0.62m・深さ0.25m。灰黄褐色土が堆積している。竈前から検出された床下土坑2は、南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.67m・短径0.64m・深さ0.14m。暗灰色土及び堆積している。

柱穴・溝溝: 検出されなかった。

床面: 地山を削り出して平坦面を形成した上に0.09~0.15mほど灰黄褐色土を貼り付けて硬質な床面を形成している。

掘方: 平坦である。北側へ約0.3~0.4m、西側に約0.26mほど拡張された様子が判明した。

遺物: 灰軸陶器椀片1点、同皿片1点(埋土)、黒色土器椀片1点(床直・竈床上)、土師器甍片1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀前葉。

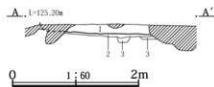
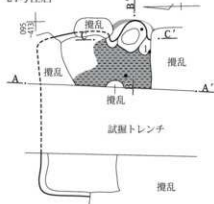
(20) 27号住居(第70図、PL. 32・33・103)

位置: C区及びC3調査区のほぼ中央から南壁寄りの位置。58号住居の南側、48号住居の北側に隣接する。X = 48,075~48,078、Y = -69,434~-69,437。

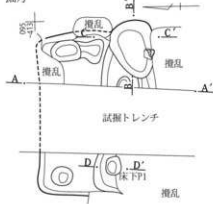
主軸方位: N-18°-E。

第3章 調査の成果

24号住居



掘方



1-125.20m
D, 床下P1, D'

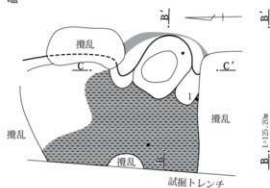


24号住居床下P1

1 灰黄褐色土10YR4/2 混入物の少ないやや砂質の上。全体的に均等にする。

- 1 暗灰黄色土2.5Y5/2 極細砂や灰褐色粘性土など雑多な土の混入。人為的な埋戻し土と思われる。しまりややあり。遺物と思われる右側部分に焼土や炭化物等が少量混入する。
- 2 黄褐色土2.5Y5/3 黄褐色粘性土が顕微に見られ、焼土や炭化物粒等が少量混入する。しまりややあり。
- 3 暗褐色土10YR3/2 やや砂質。炭化物粒を少量含む。地山砂質土の混入少なく丁寧に底さらいした後、一気に埋戻したようだ。

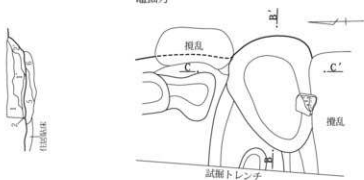
竈



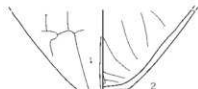
C, 1-125.20m
.C'



竈掘方



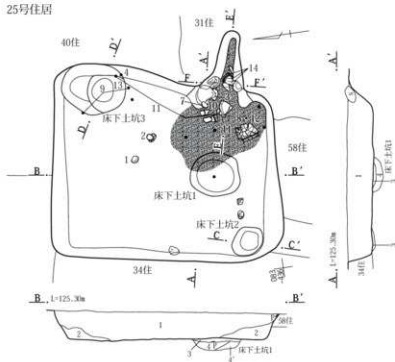
- 1 黒褐色土10YR3/2 弱粘性。炭化物粒を少量含む焼土も散在する。しまりややあり。1'は灰黄色の極細砂粒をブロック状に含み、遺物落土が混入するように見える。南側には焼土がやや多くみられる。
- 2 黒褐色土10YR3/1 炭化物粒をやや多く含む。灰が混入。粘性あり。2'は焼土多いが炭化物粒は少ない。
- 3 暗褐色粘質土10YR3/3 黄褐色粘性土を小ブロック状に、南側では焼土をやや多く含む。しまりあり。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 3層に近いが黄褐色粘質土の含有率が高くなる。
- 5 灰褐色土7.5YR4/2 粘質土中に炭化物や黒色灰・焼土ブロック等を多量に含む。上面では硬化面が認められる。しまりはあまり強くない。
- 6 灰黄褐色粘質土10YR4/2 細かい焼土や炭化物を不均等に含む。しまりはあまり強くない。



第64図 C区24号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

第4節 C区で検出された遺構と遺物

25号住居



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 最も赤みを帯びる層。上半部に椋名山ニツ房軽石0~10mm程度の黒いパミスを含む以外、混入物は少ない。ややしまり欠く。墓付近でも特に焼土や炭等の混入はない。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 地山灰黄色砂質土を不均等に含む。1層とは明瞭に区別できず。1・2層併せてほぼ単層に近い。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2 焼土粒を僅かに、黄褐色砂質土をブロック状に含む。しまり強い。
- 4 灰黄褐色土10YR4/3 粒子細かい。黄褐色土ブロックを少量含む。しまりはやや弱くなり3層と明瞭に区別できる。4'は焼土ブロック・炭化物粒の混入がやや多い。

床下土坑2
C, L=125.30m C'



25号住居床下土坑2

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 最も赤みを帯びる層。上半部に椋名山ニツ房軽石0~10mm程度の黒いパミスをやや多く含む以外、混入物は少ない。しまり強い。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR5/2 粒子サイズは微細。

床下土坑3
D, L=125.30m D'

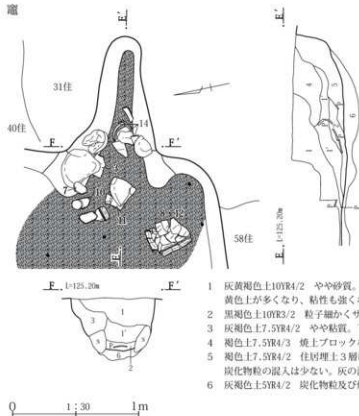


25号住居床下土坑3

- 1 暗褐色土10YR3/3 粒子細かい。椋名山ニツ房軽石0~10mm程度の黒いパミスを含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 黄褐色土及び灰黄褐色砂質土・粘性の弱い暗褐色土等の大粒のブロックが混入する。
- 3 暗褐色土10YR3/2 混入物少ない。下部ほど黒味が強くなる。粘性弱くしまりやや弱い。

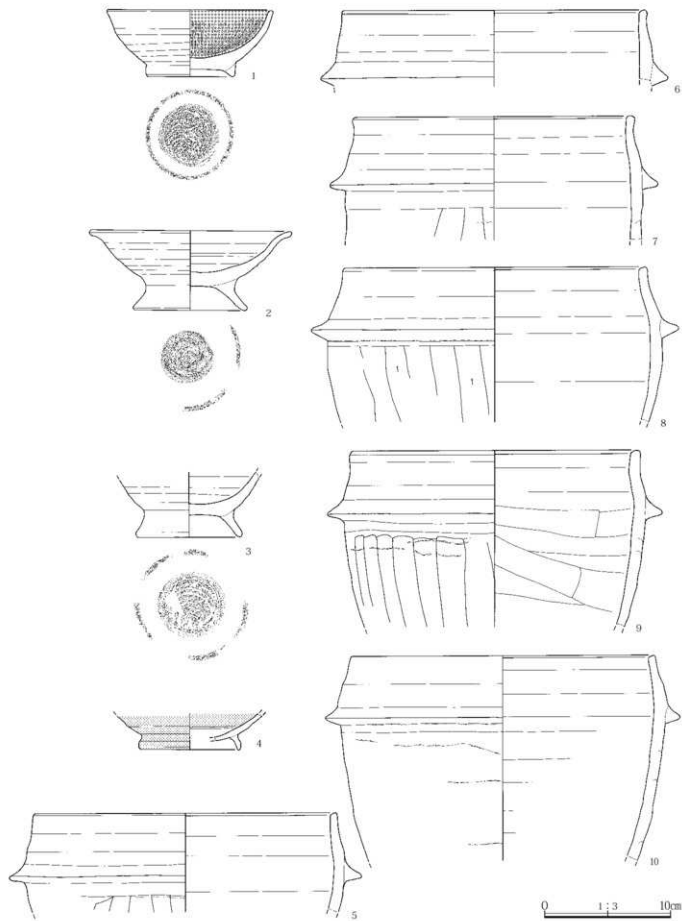
0 1:60 2m

遺

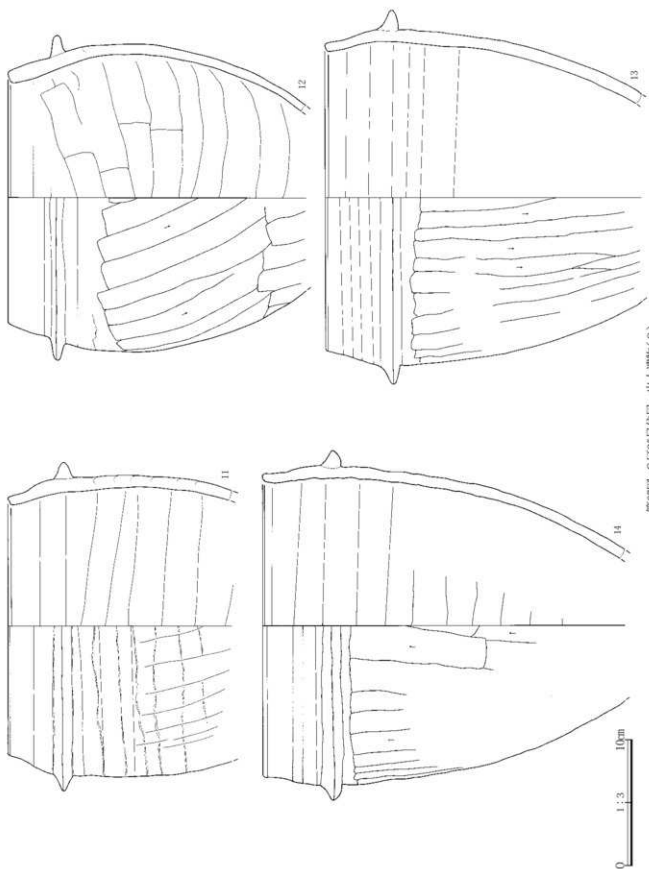


- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。炭化物粒及び灰黄色土の小ブロックを含む。しまりやや強い。1'は灰黄色土が多くなり、粘性も強くなる。
- 2 黒褐色土10YR3/2 粒子細かくサラサラしている。黒色灰及び焼土粒を含む。しまりやや強い。
- 3 灰褐色土7.5YR4/2 やや粘質。下層に焼土ブロックを不均等に含む。しまりやや弱い。
- 4 褐色土7.5YR4/3 焼土ブロックを不均等にやや多量に含む。やや粘質。しまり強い。
- 5 褐色土7.5YR4/2 住居埋土3層に比べややしまり欠き砂質に近い。上部に多量の焼土ブロックを含む。炭化物粒の混入は少ない。灰の混入があるのかサラサラした状態。
- 6 灰褐色土5YR4/2 炭化物粒及び焼土の小ブロックをやや多く含む。しまりやや強い。

第65図 C区25号住居 平面図・土層断面図

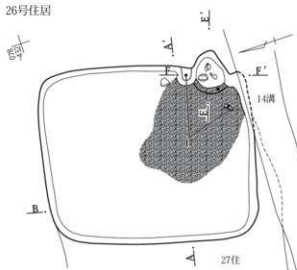


第66図 C区25号住居 出土遺物(1)

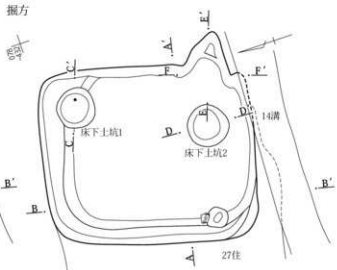


第67図 C区25号住居 出土遺物(2)

26号住居



掘方



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。上部では榛名山二ツ高軽石面-FPらしいバミスをやや多く含む。下部では灰赤色土の小ブロックを含み 1'→1"と量が増えていく。しまり強い。
- 2 黄褐色土2.5Y5/3 ローム状粘質土のブロック。しまり強い。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 色調は1層に近い。さらに砂質。混入物少ない。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 褐色土をベースとし灰黄色土小ブロックを多量に、炭化物粒等をごく少量含む。しまり強い。

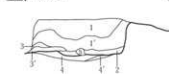
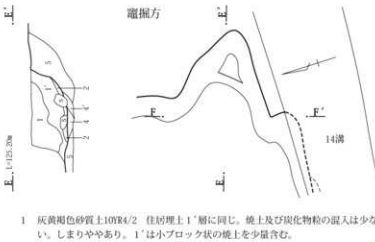
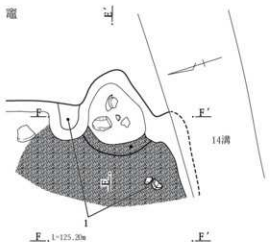
0 1:60 2m

26号住居床下土坑1

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐色土粒・黒色土粒・灰黄色砂質土等が小ブロック状及び霜降り状に混じり合う。しまりややあり。1'は灰黄色砂質土を多く、1"は焼土を少量含む。

26号住居床下土坑2

- 1 暗灰色砂質土2.5Y4/2 粒子細かい。黒味を帯びる部分と黄色味を帯びる部分とが不規則ながら互層状に堆積している。しまりやや強い。

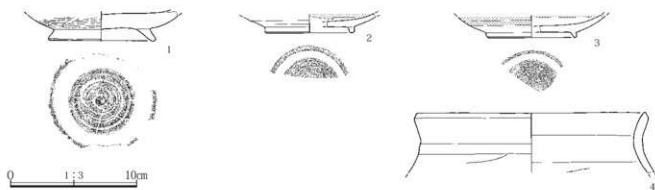


E-E', l=125.30m

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 住居埋土1'層に同じ。焼土及び炭化物粒の混入は少ない。しまりややあり。1'は小ブロック状の焼土を少量含む。
- 2 暗赤色土5YR3/2 焼土及び炭化物粒をやや多く含むボソボソした層。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 しまりやや強い。3'は黄色味を帯び、しまりさらに強い。
- 4 暗褐色土10YR3/3 灰が混じりサラサラしている。黄褐色土を小ブロック状に含む。4'は焼土を多く含む。
- 5 住居掘方埋戻し土。

0 1:30 1m

第68図 C区26号住居 平面図・土層断面図



第69図 C区26号住居 出土遺物

検出面積：4.84㎡。

規模と形状：北辺の大部分及び西辺のおよそ北半分を26号住居に掘り込まれているが、南北に若干長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.48m・短辺3.09m・確認面からの深さ0.24m・掘方までの深さ0.28m。

重複：東側を26号住居に、南東隅を14号溝に掘り込まれる。南西隅部で299号土坑を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

竈：北東隅に取り付く。14号溝及び26号住居に破壊され、煙道南側の掘方のごく一部が辛うじて残存しているに過ぎなかった。

貯蔵穴：貯蔵穴は検出されなかったが、住居の南西隅近くで床下土坑が検出された。不整形形状を呈し、径0.63m・深さ0.17m。灰黄褐色土が堆積している。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を削り出して平坦な面を形成した上に0.03～0.04mほど灰黄褐色土を貼り付けて硬質な床面を形成している。

掘方：平坦である。

遺物：須恵器羽釜片1点(壁際)。

時期：平安時代中期、10世紀第2～4半期。

(21) 28号住居(第71図)

位置：C区の北東端寄り。C4調査区の北東端付近。14号溝の南側に隣接する。X=48,108～48,110、Y=-69,401～-69,404。

検出面積：11.26㎡。

規模と形状：西辺を23号住居に掘り込まれるが、東西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺検出最大長4.04m・短辺3.38m・確認面からの深さ0.33m。掘方までの深さ

は0.4m。

重複：23号住居に南西隅を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土、床面近くの底部に暗褐色土が堆積する。

竈：23号住居に掘り込まれ、検出されなかったが、住居の南西隅付近一帯の床面に焼土・灰の堆積が顕著な部分が検出された。また、掘方では、西端から中央部にかけて一段深く掘り窪められた箇所が検出され、竈前の掘り込みと考えられ、竈は西壁のほぼ中央に造られていた可能性が高い。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：掘方の上に部分的に0.05～0.07mほど暗褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：西端から中央部にかけて竈前の小規模で浅い土坑状の掘り込みが南壁際中央と北壁寄りの中央の2箇所で見られたが、全体に平坦で、凹凸は激しくない。

遺物：土師器残片1点・須恵器椀片1点(床面)。

時期：平安時代前期、9世紀第4～4半期。

(22) 29号住居(第72・73図、PL.33・34・103)

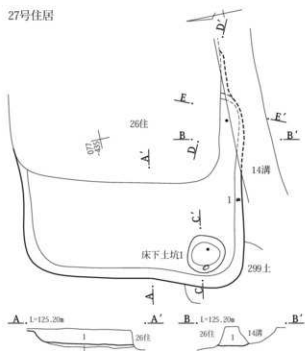
位置：C区の中央部、南寄り。C3調査区の東端の南寄り。31・41号住居の東側に隣接する。X=48,079～48,083、Y=-69,424～-69,428。

主軸方位：N-58°-W。**竈主軸方位**：N-60°-W。

面積：10.51㎡。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長辺4m・短辺3.87m・確認面からの深さ0.28m。掘方までの深さは0.42m。鍛冶工房であり、竈前から住居の中央にかけて作業用の台石が出土した。

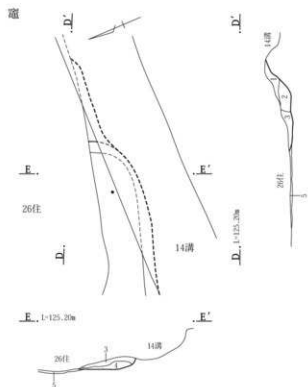
27号住居



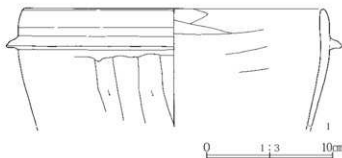
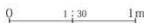
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 確認面では26号住居埋土1層と全く区別できなかった。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 褐色土をベースとし、灰黄色土小ブロックを多量に、炭化物粒等を極少量含む。しまり強い。



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黒褐色土中に灰黄色土ブロックを多量に含む。しまりやや強い。



- 1 鈍い赤褐色土5YR4/3 土上の小ブロックを含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム状。炭化物粒を含む。しまりややあり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 炭化物粒が散見する。
- 4 暗褐色土10YR3/2 不揃いの灰黄色土ブロックを不均等に含む。しまり強い。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2



第70図 C区27号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

重複:37号住居の西辺、30号住居の南側大半を掘り込む。

埋土:灰黄褐色土、床面近くの底部に黒褐色土が堆積する。

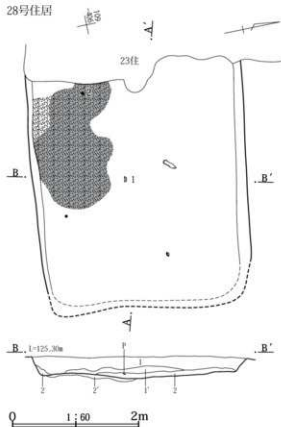
竈:東辺のほぼ中央に取り付く。両袖は暗灰黄褐色土、黄褐色粘質土を貼り付けて構築され、住居の内側に若干張り出している。両袖とも芯材に使用された扁平でやや大きな自然石が検出されている。燃焼部は、住居の東壁の位置に、地山を削り出した上に灰黄褐色土を貼り付け

て構築している。煙道は住居の外側に長く伸びていない。火床面は、竈前を一段深く掘り込んだ上に、灰黄褐色粘質土を0.08~0.18m貼り付けて形成している。

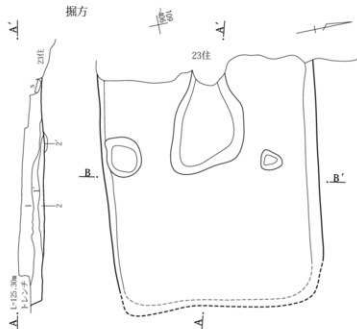
貯蔵穴:掘方において床下土坑が3基検出された。住居南東隅部で検出された床下土坑1は、東西にやや長い不整形円形状を呈し、長径0.99m・短径0.89m・深さ0.1m、暗褐色土をベースに底部付近に極少量黄褐色土が堆積する。住居北東隅で検出された床下土坑2は、東西にやや

第4節 C区で検出された遺構と遺物

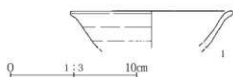
28号住居



掘方



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 23号住居上層の埋土と区別ができなかった。地山砂質土以外の混入物は少ない。1"は砂質土の混入が増え、炭化物粒も少量みられる。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 土質は1層と同じ。炭化物粒を多く、黄褐色土小ブロックを若干含む。しまりやや強い。2"は炭化物の混入が少なくなる。



第71図 C区28号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

長い不整楕円形状を呈し、長径1.05m・短径0.87m・深さ0.28m、上層に暗褐色土・黒褐色土、下層に灰黄褐色土が堆積している。中央部で検出された床下土坑3は、東西にやや長い楕円形状を呈し、長径1.18m・短径1.14m・深さ0.26m、灰黄褐色土が堆積する。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 掘方の上にやや厚く黄褐色土・黒褐色土・暗褐色土を0.06~0.19mほど暗褐色土を貼って平坦で硬質な床面を形成している。

掘方: 全体的に凹凸激しく掘り込まれており、竈の両側及び中央部、南東隅、北西隅部が一段深く掘り込まれていた。北側へ約0.35~0.75m拡張していたことが判明した。

遺物: 灰軸陶器椀1点(竈・床直)、同皿2点(床直)、須

恵器羽釜片1点(竈)、鉄製かこ1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期。

(23) 30号住居(第74図、PL.33)

位置: C区の中央部、南寄り。C3調査区の東端の南寄り。41号住居の東側に隣接する。X=48,083~48,084、Y=-69,424~-69,427。

主軸方位: N-77°-W。

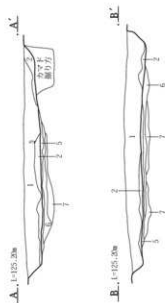
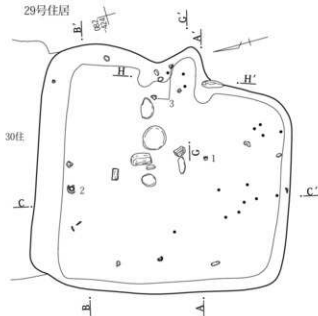
検出面積: 3.59㎡

規模と形状: 南側大半を29号住居に掘り込まれているため、全容は不明である。隅丸長方形ないし隅丸方形を呈するものと思われる。東西辺3.45m・南北辺最大検出長1.3m・確認面からの深さ0.29m。

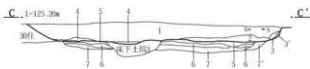
重複: 南側大半を29号住居に掘り込まれる。35号住居の

第3章 調査の成果

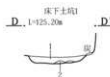
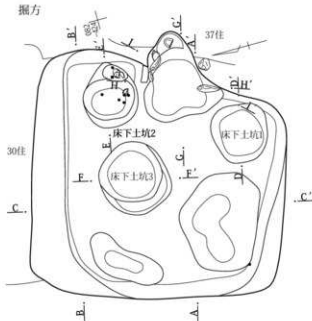
29号住居



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粒子細かい、種名山二ツ峰軽石層-FPらしいバミス・炭化物粒・焼土等を種多に少量含む。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土10YR3/2 土質は1層と同じ。灰黄色砂を小ブロック状に含む。小枝のような炭化物の混入もやや目立つ。上部に硬化面が見られる所がある。
- 3 黄褐色土2.5YR5/2 炭化物粒の混入が多い。3'は混入物は少ない。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 貼り床状の灰黄色土と黒褐色土とが重なり合う部分。
- 5 黄褐色土2.5YR5/3 灰黄色土主体で一部黒色味おびる土が水平に踏み固められている。
- 6 黒褐色土10YR3/2 黒褐色土や焼土等が不均等に混入する。しまりややあり。
- 7 暗褐色土10YR3/3 地山砂質土に6層の土が不均等に混じる。7'は地山との区別が難しいシムのような汚れ部分を含む。

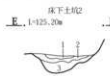


掘方



29号住居床下土坑1

- 1 暗褐色土10YR3/3 黒色土や黄褐色粘性土等が小ブロック状に混じり合う。焼土散見。粘性しまりややあり。
- 2 黄褐色土2.5YR5/2 ブロック状のローム状土。

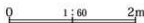


29号住居床下土坑2

- 1 黒褐色土10YR2/2 炭化物・黒色灰主体。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土10YR3/2 微粘性。炭化物粒散見。混入物は少ない。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山黄褐色ブロックを主体とし下部には焼土をやや多く、黒褐色土を小ブロック状に含む。しまり強い。

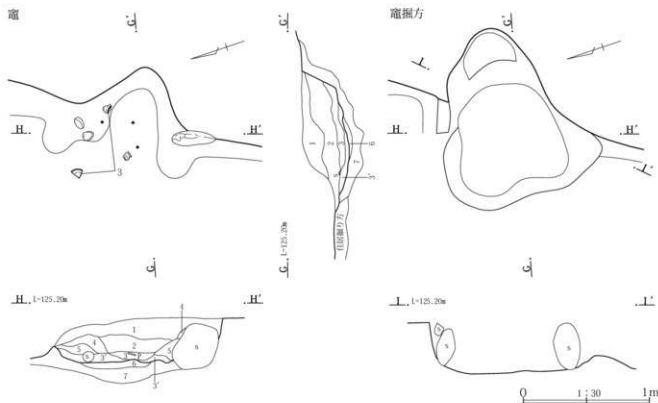
29号住居床下土坑3

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐色土中に灰黄色土や黒色土等の小ブロックを多量に、焼土及び炭化物粒を少量含む。1~1'は同一層。1''は上部に炭化物粒。1'''は上部に黄褐色土を含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 ややしまり強いローム状土をブロック状に含むしまりやや強い粘性土。

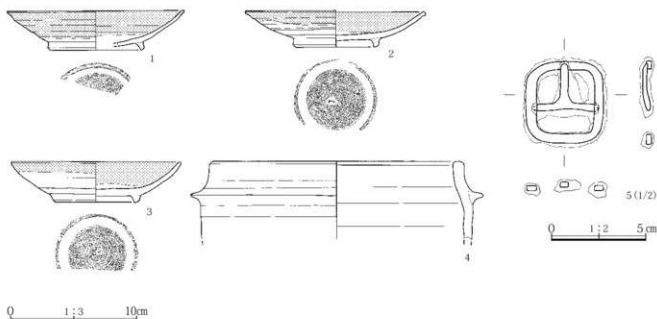


第72図 C区29号住居 平面図・土層断面図

第4節 C区で検出された遺構と遺物



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。椋名山ニツ岳軽石田-FPらしいバミスを上部に少量含む以外に混入物は少ない。しまりややあり。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層の上に焼土・黄褐色土・炭化物粒等種多な混入物をやや多く含む。しまりやや強い。
- 3 黒褐色土10YR2/2 炭化物粒や黒色灰を主体とし焼土粒の混入も多い。しまりやや強い。3'は焼土が少なく灰が多い。
- 4 暗灰黄色土2.5Y4/2 やや砂質。混入物が少ない。しまりやや強い。
- 5 黄褐色土2.5Y5/3 焼土の混入が多い。
- 6 鈍い赤褐色土5YR4/3 粘性強い。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂より粒子細かくねっとりしている。焼土や黒色土等が不均等に混じる。



第73図 C区29号住居 甕平面図・土層断面図、住居出土遺物

第3章 調査の成果

南辺、56号住居の西側大半を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土、床面近くの底部に黒褐色土が堆積する。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。

掘方：床面と掘方がほぼ一致している。

遺物：なし。

時期：古代。

(24) 31号住居(第75～78図、PL. 34～36・103)

位置：C区の中央部、南寄り。C3調査区の東端の南寄り。29号住居の西側に隣接する。X=48.079～48.083、Y=-69.429～-69.433。

主軸方位：N-87°-W。竈A主軸方位：N-74°-W。竈B

主軸方位：N-73°-W。

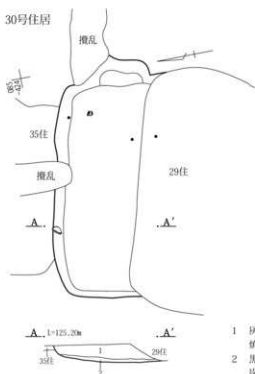
面積：14.29㎡。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。長辺4.8m・短辺4.32m・確認面からの深さ0.36m、掘方までの深さは0.62m。

重複：西辺の北寄りを25号住居に掘り込まれる。40号住居の南東隅部、41号住居の南側大半、58号住居の東側を掘り込む。

埋土：上層に灰黄褐色土、下層及び壁際に斜めに黒褐色土、床面近くの底部に僅かに灰黄褐色土が堆積する。

竈：東辺の中央に竈Aが、竈Aの南側に竈Bが取り付く。竈Aが最終使用の竈と考えられる。竈Aは、地山を削り出して燃焼部と煙道を形成し、燃焼部は住居の壁の位置に造られ、火床部は地山を削り出した上に灰黄褐色土を0.07～0.1mほど貼り付けて形成している。煙道は住居の壁の外側に長く伸びている。両袖は灰黄褐色土と鈍い黄褐色土を貼って構築され、住居の内側に若干張り出している。竈Bは、地山を削り出して燃焼部と煙道を形成し、燃焼部は住居の壁の位置に造られ、火床部は地山を削り出した上に暗褐色土を0.05～0.14mほど貼り付けて形成している。煙道は住居の壁の外側に長く伸びている。右袖の芯材と見られる自然石が出土している。両袖は灰黄褐色土を貼り付けて構築されているが、廃絶後のためか住居の内側には全く張り出さない状態で検出された。

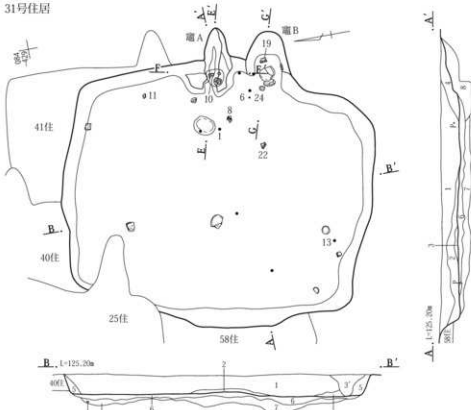


- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粒子細かい、礫名山二ツ岳軽石層-FPらしいバミスや炭化物粒・焼土等を種多に少量含む。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土10YR3/2 土質は1層と同じ。灰黄色砂を小ブロック状に含む。小枝のような炭化物の混入もやや目立つ。上部に硬化面が見られる所がある。

0 1:60 2m

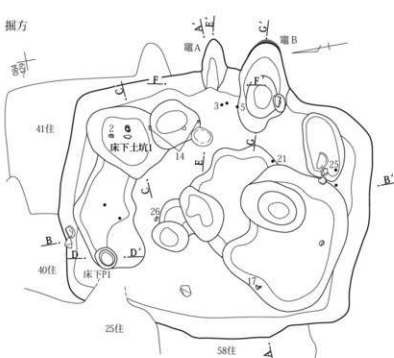
第74図 C区30号住居 平面図・土層断面図

31号住居



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 浅間山火山灰As-Cらしいハミスを上部を主体にやや多く、灰黄色砂質土を小ブロック状に少量含む。炭化物粒が散見する。
- 2 黒褐色土10YR2/2 炭化物をきわめて多く、灰を多く含む。焼上の混入はまれ。サラサラしている。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 灰赤色砂質土を多く、炭化物を少量含む。3'は灰黄色土を少量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/2 灰黄色土小ブロックをやや多く、炭化物粒及び焼土を少量含む。しまりやや強い。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 地山灰黄色土を小ブロック状にやや多く、ハミスを少量含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 やや砂質。黄褐色土小ブロックをやや多く、炭化物粒及び焼土を少量含む。しまり強い。
- 7 暗褐色土10YR3/3 土質は6層と同じ。混入物少ない。下部には浅間山火山灰As-C混入地山黒色土を小ブロック状に含む。
- 8 暗灰黄色土2.5YR4/2 微粒の砂質土及び黄褐色土を小ブロック状に多量に、炭化材及び灰を含む。焼上散見。

掘方



床下土坑I
C, l=125.20m, C'



- 1 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 砂質土及び浅間山火山灰As-C混入黒色土等をブロック状に不均等に含む。しまり強い。

床下PI
D, l=125.20m, D'

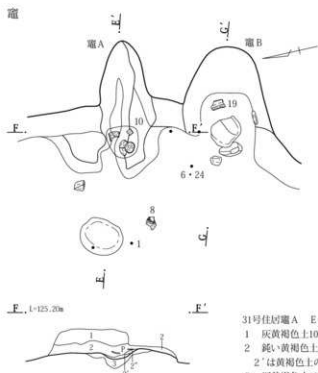


- 1 黒褐色土10YR3/2 粒子細かい、灰褐色土を小ブロック状に上層部に含む。しまりやや弱い。
- 2 暗灰黄色微粒砂質土2.5Y4/2 混入物少ない。しまりやや弱い。

0 1:60 2m

第75図 C区31号住居 平面図・土層断面図

第3章 調査の成果

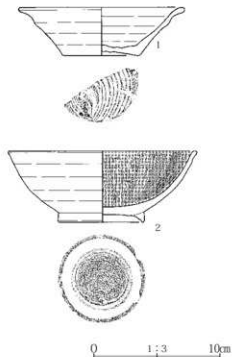
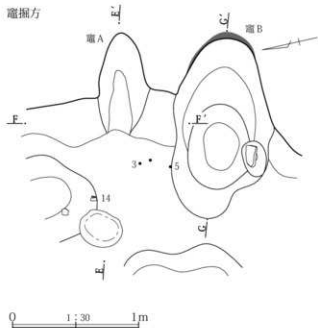


31号住居竈 A E・F

- 1 灰黄色土10YR4/2 しまりややあり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 大粒の黄褐色土ブロックと1層の上との混土。炭化物粒を少量含む。
2'は黄褐色土の量が増える。2''は地山土の可能性あり。
- 3 灰黄色土10YR4/2 地山砂質土を主体とし灰黄色土炭化物等を含む。

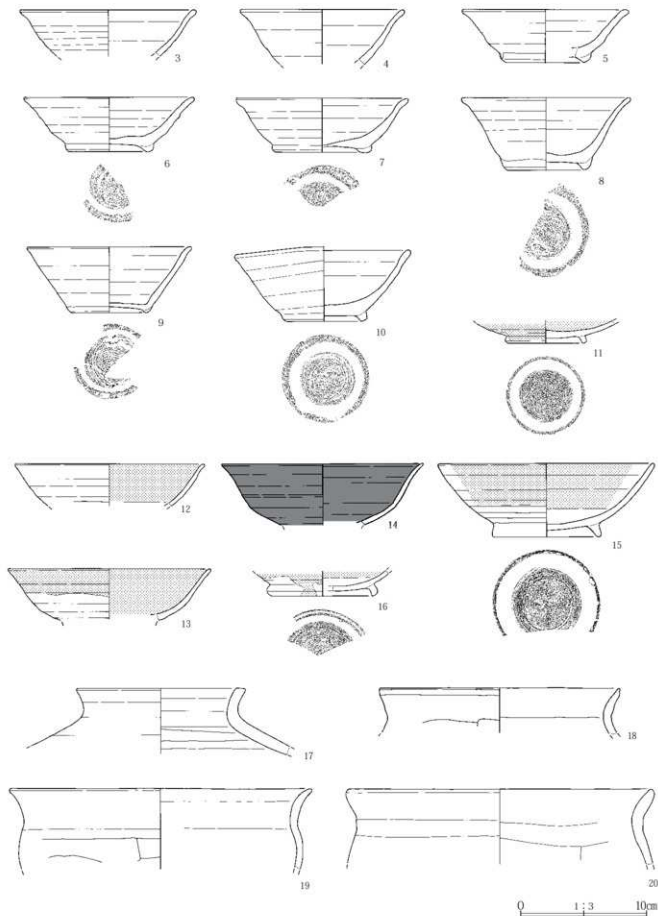
31号住居竈 B G

- 1 灰黄色褐色微粒砂質土10YR4/2 黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。1'は炭化物粒や焼土の混入が多くなる。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。焼土をやや多く含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物及び灰を多く含む。若く硬質。
- 4 鈍い赤褐色土5YR4/4 焼土が詰まっている。
- 5 暗褐色土10YR3/3 暗褐色土・黄褐色粘質土・炭化物粒等の混土。しまりあり。

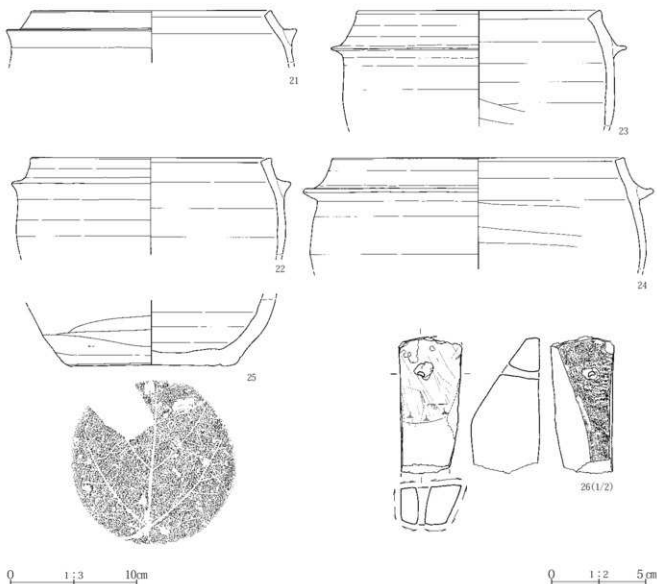


第76図 C区31号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(1)

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第77図 C区31号住居 出土遺物(2)



第78図 C区31号住居 出土遺物(3)

貯蔵穴：床面では検出されなかった。掘方の南東隅で竈B時代の貯蔵穴らしい掘り込みが見られたが確証は持てなかった。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に凹凸激しく地山を削り出した上に0.05～0.28m暗褐色土を貼って平坦かつ硬質な床面を形成している。

掘方：全体に凹凸激しく地山を削り出しており、南壁から中央部にかけてと北壁際にかけて、一段と深く激しく掘り込まれている。掘方の北東隅で床下土坑1が検出された。南北に長い不整楕円形状を呈し、長辺1.35m・短辺1.19m・深さ0.06m、黄褐色粘質土が堆積していた。

また、同じく掘方において北西隅付近から床下ピット1が検出された。東西にやや長い楕円形状を呈し、長径0.35m・短径0.3m・深さ0.28m、黒褐色土が堆積していた。

遺物：土師器裏片3点(埋土1、竈B1、掘方1)、黒色土器椀1点(床下土坑)、須恵器杯1点(埋土)、同椀8点(埋土1、床直2、竈A1、竈B1、竈B掘方1、掘方2)、同裏片1点(埋土)、同短頸壺片1点(掘方)、同羽釜片4点(埋土1、床直2、掘方1)、灰釉陶器椀4点(埋土2、掘方2)、同皿片1点(床直)、緑釉陶器椀片1点(掘方)、砥石1点(埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(25) 32号住居(第79・80図、PL. 36・37・104)

位置: C区の中央部、やや東寄りの位置。C3調査区の東端。中央。266・267号土坑の西側に隣接する。X = 48,090~48,094、Y = -69,421~-69,425。

主軸方位: N-70°-W。 **竈主軸方位:** N-79°-W。

面積: 14.52㎡。

規模と形状: 南北に長い隅丸長方形を呈する。長辺4.7m・短辺4.18m・確認面からの深さ0.29m、掘方までの深さは0.5m。

重複: 北西隅近くを247号土坑に掘り込まれる。39号住居の南側大半を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土、下層及び壁際に斜めに黒褐色土が堆積する。

竈: 東辺のほぼ中央に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。燃焼部はほぼ住居の壁の位置に地山を削り出して形成され、火床部は地山を削り出した上に鈍い黄褐色土を約0.1mほど貼り付けて形成している。煙道は検出されなかった。竈前から住居内北東側の広い範囲、およそ1/3程度に当たる範囲の床面から焼土の堆積が検出された。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。掘方において、住居内北西側で、東西に並んで、小規模な床下ピットが2基検出された。西側の床下ピット1は、東西に長い楕円形状を呈し、長径0.3m・短径0.24m・深さ0.37m、灰黄褐色土が堆積していた。東側の床下ピット2は、北東-南西方向に若干長い楕円形状を呈し、長辺0.28m・短辺0.26m・深さ0.36m、同様に灰黄褐色土が堆積していた。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 全体に凹凸激しく地山を削り出した上に0.1~0.2m上層に暗褐色土、下層に灰黄褐色土を貼って、平坦かつ硬質な床面を形成している。

掘方: 全体に凹凸激しく地山を削り出しており、竈前及び南壁から中央部にかけて、竈の北西側にかけて、土坑状に一段と深く掘り込まれている。

遺物: 須恵器椀3点(埋土1、床直2)、同羽釜片2点(埋土1、竈1)、灰釉陶器椀3点(埋土1、壁際1、掘方1)、鉄製紡輪2点(床直)、鉄鏃1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期~第2四半期。

(26) 33号住居(第81・82図、PL. 37・38・104)

位置: C区・C3調査区の中央部よりやや北東寄りの位置。32・39号住居の西側に位置する。X = 48,093~48,096、Y = -69,428~-69,431。

主軸方位: N-82°-W。 **竈主軸方位:** N-35°-W。

面積: 5.81㎡。

規模と形状: ほぼ隅丸方形を呈する。南北辺2.95m・東西辺3.11m・確認面からの深さ0.29m、掘方までの深さは0.44m。

重複: 246・257号土坑を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土、壁際に斜めに鈍い黄褐色土が堆積する。

竈: 南東隅に取り付く。両袖は黒褐色土を貼り付けて形成され、燃焼部はほぼ住居の壁の位置に地山を削り出して形成され、火床部は地山を削り出した上に灰褐色土、暗褐色土を約0.14mほど貼り付けて形成している。煙道は地山を削り出した上に、同じく灰褐色土と暗褐色土を約0.14mほど貼り付けて形成され、住居の外側に長く延びている。竈前の床面から焼土の堆積が検出された。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 全体に凹凸激しく地山を削り出した上に0.1~0.2m上層に暗褐色土、下層に灰黄褐色土を貼って、平坦かつ硬質な床面を形成している。

掘方: 全体に凹凸激しく地山を削り出しており、中央部、北西隅、南西隅にかけて、浅い土坑・ピット状に一段と深く掘り込まれている。

遺物: 土師器片口鉢1点(床直)、緑釉陶器段皿1点(埋土)、鉄鏃1点(床直)、鉄釘1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀後半か。

(27) 34号住居(第83・84図、PL. 38・104)

位置: C区・C3調査区の中央部よりやや南西寄りの位置。50号住居の北側に隣接する。X = 48,081~48,087、Y = -69,435~-69,440。

主軸方位: N-72°-W。 **竈主軸方位:** N-50°-W。

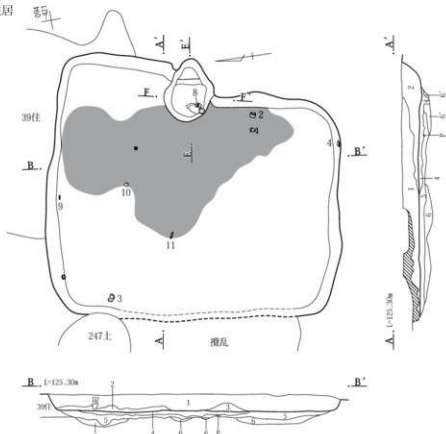
面積: 13.94㎡。

規模と形状: 北北東-南南西方向に長い隅丸方形を呈する。長辺4.93m・短辺3.79m・確認面からの深さ0.4m。

重複: 東辺を25号住居に掘り込まれる。南西隅で55号住居を、西辺で42号住居を、北辺で46号住居を掘り込む。

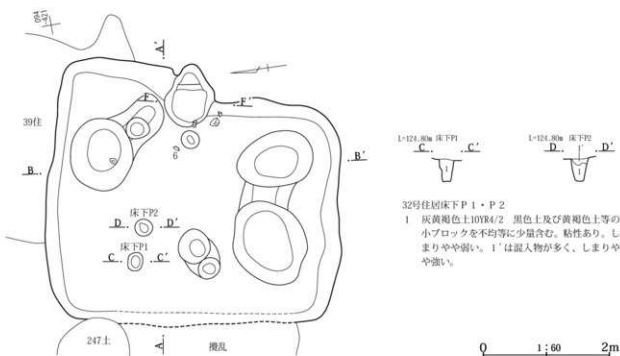
第3章 調査の成果

32号住居



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 種名山二ツ居軽石tr-FPらしいミスを上部中心に多量に含む。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土10YR3/2 多量の炭化物を含む。黒味を帯びる。粘性ややあり。しまり強い。
- 3 暗灰黄色砂質土2.5Y4/2 焼土等を含まない。
- 4 黒褐色土10YR2/2 炭化物を多く、とくに下部に多く含む。しまり強い。
- 5 暗褐色土10YR3/3 やや砂質。炭化物が不均等に、南側には焼土が混じる。しまりやや強い。
- 6 灰黄褐色土10YR4/1 灰黄色砂質土をベースとし、種間山火山灰As-C 混入黒色土や暗褐色粘性土が混じる。6'は炭化物粒をやや多く含む。

掘方

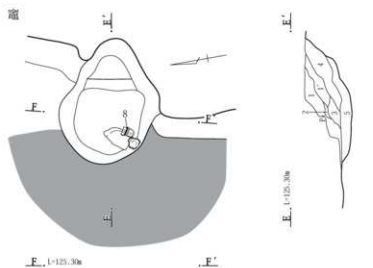


32号住居床下P1・P2

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黒色土及び黄褐色土等の小ブロックを不均等に少量含む。粘性あり。しまりやや弱い。1'は混入物が多く、しまりやや強い。

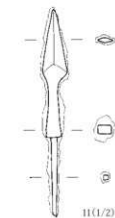
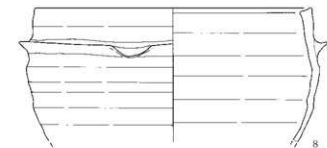
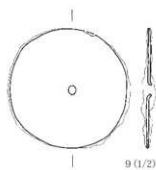
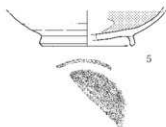
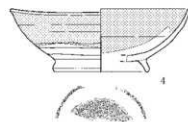
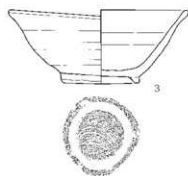
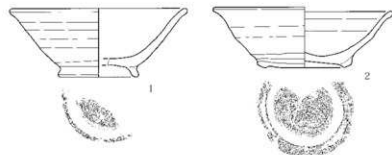
第79図 C区32号住居 平面図・土層断面図

第4節 C区で検出された遺構と遺物



0 1:30 1m

- 1 灰黄褐色極微細粒砂質土10YR4/2 ローム上に焼土・パミス・炭化物粒など雑多な混入物を霏降り状に含む。しまりやや強い。1'は混入物少なくなる。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 灰黄色土を小ブロック状に不均等に含む。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 灰黄色土主体。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 やや大粒の焼土を含む。炭化物等の混入少ない。しまり強い。
- 5 鈍い黄褐色土10YR4/3

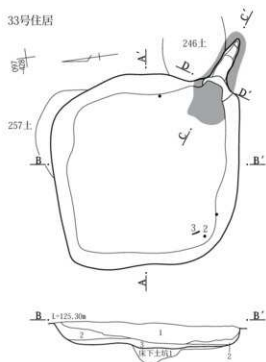


0 1:3 10cm

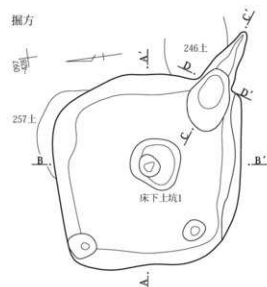
0 1:2 5cm

第80図 C区32号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物

33号住居



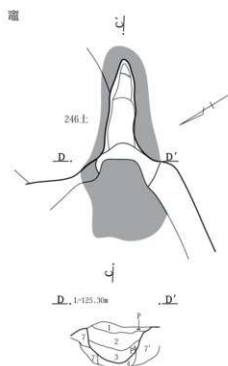
掘方



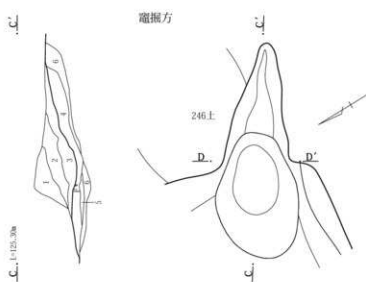
- 1 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 地山灰黄色砂質土を編織に多量に、炭化物粒を少量含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土を多量に含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 砂質土主体。黄褐色粘性土や暗褐色土の小ブロックを含む。

0 1:60 2m

竈



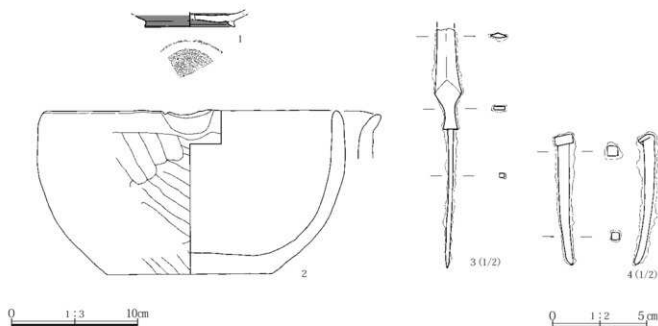
竈掘方



- 1 灰褐色中粒砂質土5YR4/2 焼土ブロックを不均等に含む。
- 2 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 ややサラサラしている。焼土を少量含む。
- 3 灰褐色土5YR4/2 土質は1層に近い。焼土を多く含む。煙道側ほど焼土の量が少なくなる。
- 4 灰褐色土5YR4/2 灰を多く含みやサラサラした感触である。焼土を不均等に含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 4層に近似している。炭化物粒及び灰を多く含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 地山上主体。焼土を含む。7'は混入物少なく地山との区別が難しい。

0 1:30 1m

第81図 C区33号住居 平面図・土層断面図



第82図 C区33号住居 出土遺物

埋土: 灰黄褐色土、床面近くのごく一部に黄褐色土が少量堆積する。

竈: 南東隅に取り付く。両袖及び燃焼部とも鈍い黄褐色土を貼り付けて形成され、左袖は住居内に若干張り出す。燃焼部はほぼ住居の壁の位置に形成され、火床部は地山を削り出した上に黒褐色土を約0.05mほど貼り付けて形成している。煙道は地山を削り出した上に、同じく黒褐色土を約0.02~0.06mほど貼り付けて形成され、住居の外側に長く延びている。

貯蔵穴: 検出されなかった。

柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方: 掘方と床面とがほぼ一致している。中央部の南壁寄りて床下土坑1基が検出された。北東-南西方向に長い楕円形状を呈し、長径0.8m・短径0.65m・深さ0.1m、灰黄褐色土が堆積する。

遺物: 土師器残片4点(床直3、床下土坑1)、須恵器羽釜片2点(埋土1、床直1)、緑軸陶器碗片1点(埋土)、不明鉄製品1点(床直)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期。

(28) 35号住居(第85図、PL. 39・104)

位置: C区・C3調査区の中央部よりやや南東寄りの位置。38号住居の東側に、29号住居の北側、252号土坑の南側にそれぞれ隣接する。X=48,084~48,086、Y=-69,424~-69,427。

主軸方位: N-84°-W。 **竈主軸方位:** N-78°-W。

検出面積: 4.82㎡。

規模と形状: 南北共に掘り込まれているが、ほぼ隅丸方形状を呈するものと思われる。東西辺2.59m・南北最大検出長2.49m・確認面からの深さ0.09m。

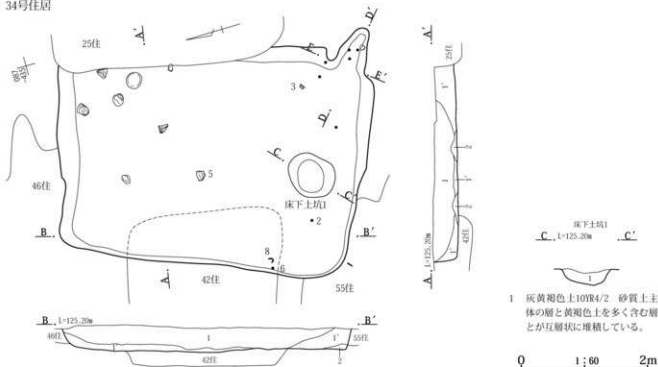
重複: 南辺を30号住居に、北辺を238号土坑に、掘り込まれる。

埋土: 灰黄褐色土、床面近くのごく一部に鈍い黄褐色土が少量堆積する。

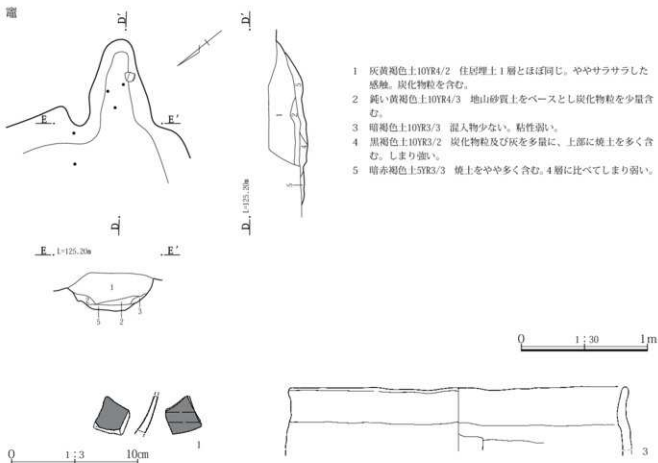
竈: 東壁のほぼ中央に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖及び燃焼部とも地山を削り出して形成され、左袖は住居内に若干張り出す。燃焼部は住居の壁の外側に形成され、火床部は地山を削り出した上に黒褐色土を約0.04~0.08mほど貼り付けて形成している。煙道は地山を削り出した上に、同じく黒褐色土を約0.04~0.09mほど貼り付けて形成され、住居の外側に長く延びている。

貯蔵穴: 検出されなかったが、南西隅寄りてビット1が検出された。南北に長い楕円形状を呈し、長径0.44m・

34号住居

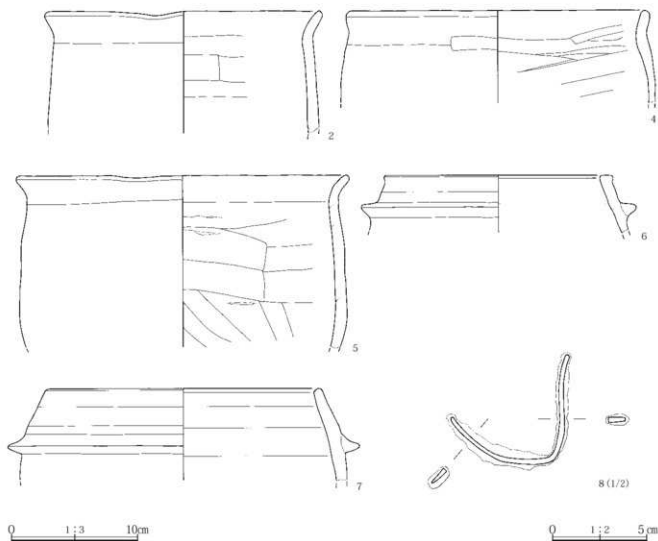


- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 混入粒少ない。しまりやや弱い。1'は灰黄色の地山砂が多くなり、やや明るく見える。
- 2 黄褐色土2.5Y5/3 黄色味の強い砂質土がブロック状に多く含まれる部分。



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 住居埋土1層とほぼ同じ。ややサラサラした感触。炭化物粒を含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土をベースとし炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土10YR3/3 混入物少ない。粘性弱い。
- 4 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒及び灰を多量に、上部に焼土を多く含む。しまり強い。
- 5 暗赤褐色土5YR3/3 焼土をやや多く含む。4層に比べてしまり弱い。

第83図 C区34号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第84図 C区34号住居 出土遺物(2)

短径0.34m・深さ0.24m、暗褐色土が堆積する。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：須恵器椀1点(埋土)、同杯片1点(床直)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(29) 36号住居(第86図、PL. 39)

位置：C区の中央部から東寄りの南端。C3調査区の東南端、東半分はC4区の西南端に当たる。243号土坑の南側に隣接する。X=48,078~48,080、Y=-69,420~-69,423。

主軸方位：N-66°-W。

検出面積：6.85㎡。

規模と形状：東南隅が調査区外に出るが、ほぼ隅丸方形状を呈するものと思われる。南北辺3.11m・東西最大検出長3.1m・確認面からの深さ0.28m。

重複：南辺を239号土坑に、西辺から北辺にかけて37号住居に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

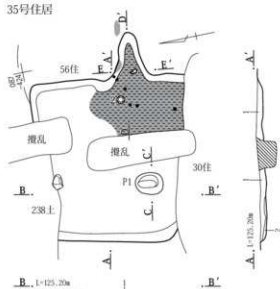
竈：東壁に取り付くものと考えられるが、調査区外に出るため未検出。東壁際の中央と、南壁際及び中央から南寄りの位置で、床面に炭の堆積が顕著な場所が合計三箇所見られた。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

第3章 調査の成果

35号住居

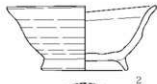


- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 最下部に炭化物粒を多く含む。椋名山ニツ岳軽石層-FPらしい軽石や灰黄色砂質土ブロックを不均等に含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土と1層との混土。東側で炭化物を極めて多く含む。



- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 灰黄色砂質土ブロックを不均等に含む。しまり強い。1'は混入物少なくしまりにも欠ける。

0 1;60 2m



0 1;3 10cm

第85図 C区35号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

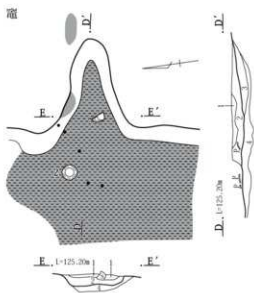
掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：土師器裏片1点・須恵器杯1点(埋土)。

時期：平安時代中期。

(30) 37号住居 (第87・88図、PL. 39・40・104)

位置：C区の中央部から東寄りの南端。C3調査区の



- 1 鈍い赤褐色土5YR4/3 炭化物及び灰等を少量、焼土を含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 煙道側に焼土をまとまって含むが焼土等の混入は少ない。しまりやや強い。粘性弱い。
- 3 暗褐色土10YR3/3 焼土をごく少量含む。粘性弱い。
- 4 黒褐色土10YR3/2 炭化物・焼土・黄褐色土ブロック等を不均等に含む。しまり強い。

0 1;30 1m

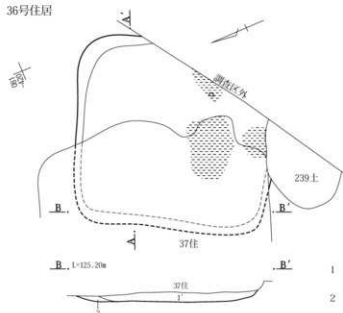
東南端、東壁はC4区の西南端に当たる。243号土坑の南側に隣接する。X=48,078~48,082、Y=-69,421~-69,425。

主軸方位：N-85°-W。副主軸方位：N-60°-W。

検出面積：9.82㎡。

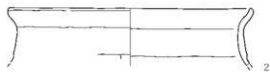
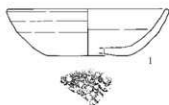
規模と形状：ほぼ隅丸方形を呈するものと思われる。

36号住居



- 1 灰黄褐色中粒砂礫土10YR4/2 黒褐色土及び灰黄色土をブロック状に含む。1'は砂質土の混入多くザラザラしている。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/2 地山砂質土を多く含む。しまりやや強い。

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第86図 C区36号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

南北辺3.69m・東西辺3.6m・確認面からの深さ0.28m。

重複：西辺を29号住居に掘り込まれる。36号住居の西辺から北辺にかけてを掘り込む。

埋土：暗褐色土。壁際に灰黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：東南隅付近に取り付くが、上面を甚だしく削平され、痕跡しか検出されなかった。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：土師器残片1点(床直)、須恵器杯1点(埋土)、同羽釜4点(埋土2、床直1、竈1)、灰釉陶器碗2点(埋土1、床直1)、同皿1点(埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀第一四半期。

(31) 38号住居(第89・90図、PL.40・41・104)

位置：C区・C3調査区のほぼ中央。25号住居の北東側に隣接する。X=48,086~48,090、Y=-69,427~-69,431。

主軸方位：N-72°-W。**竈主軸方位：**N-75°-W。

面積：7.64㎡。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.69m・短辺3.6m・確認面からの深さ0.28m。

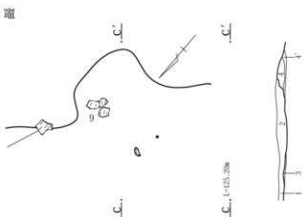
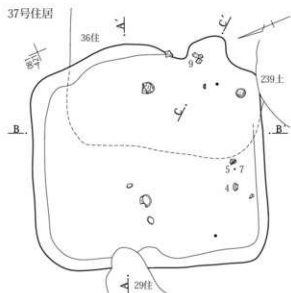
重複：なし。

埋土：上層に灰黄褐色土、下層に黒褐色土、壁際に鈍い黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：東壁の中央、やや南寄りの位置に取り付く。両袖及び燃焼部、煙道とも地山を削り出した上に、黒褐色土を貼り付けて形成している。両袖は住居の内側に若干張り出しており、燃焼部はほぼ住居の壁の位置に造られ、煙

第3章 調査の成果

37号住居

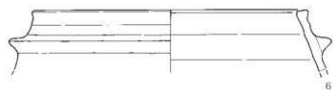
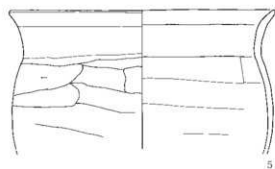
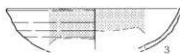
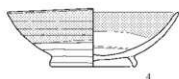
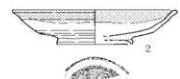


- 1 暗褐色土10YR3/3 粒子が細かい。浅間山火山灰As-Cらしいバミスやや多く、炭化物粒を多く含む。しまり強い。
- 2 灰褐色土5YR4/2 焼土・炭化物粒・灰等を含む。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3
- 4 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 焼土等ごく少量。浅間山火山灰As-Cらしいバミスを含む。4'は36号住居埋土と思われる。

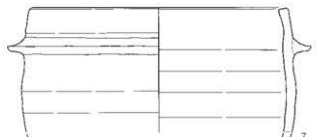
- 1 暗褐色土10YR3/3 36号住居埋土よりも黒色味を帯びている。榛名山二ツ房軽石田-PPらしいバミスを不均等に、地山砂質土ブロックを含む。焼土・炭化物粒散見。しまりやや強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物粒の混入が多くなる。やや粘性を帯びている。

0 1:60 2m

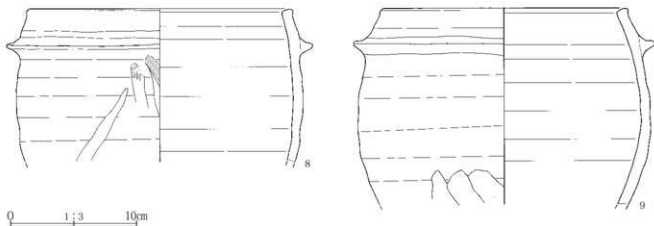
0 1:30 1m



0 1:3 10cm



第87図 C区37号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第88図 C区37号住居 出土遺物(2)

道は住居の外側に長く延びる。火床は地山を削り出した上に暗灰黄褐色土・黒褐色土を貼って形成している。竈前から住居の西壁近くまでに至る床面に、焼土・炭の堆積が顕著な部分が見られた。

貯蔵穴：貯蔵穴自体は検出されなかったが、南側中央部で大きな床下土坑が検出された。東西に長い不整楕円形状を呈し、長径1.39m・短径1.24m・深さ0.27m。暗褐色土及び鈍い黄褐色土が堆積していた。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成しているが、一部に0.02～0.06mほど灰黄褐色土を貼り付けて、平坦な面を形成している場所もある。

掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：土師器甕2点(埋土1、竈掘方1)、須恵器杯1点(埋土)、同椀1点(竈)、同高台付杯1点(埋土)、灰釉陶器椀1点(床直)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(32) 39号住居(第91・92図、PL. 36・104)

位置：C区の中央よりやや東寄り。C3調査区のほぼ中央、東端。X=48,092～48,096、Y=-69,420～-69,424。

主軸方位：N-72°-W。竈主軸方位：N-77°-W。

検出面積：6.17㎡。

規模と形状：南側を32号住居に掘り込まれているため、全容は不明であるが、南北にやや長い隅丸長方形を呈するものと考えられる。東西辺3.26m・南北検出最大長

2.47m・確認面からの深さ0.42m。

重複：南側大部分を32号住居に掘り込まれる。245号土坑を掘り込む。

埋土：上層に灰黄褐色土、壁際から下層に鈍い黄褐色土が堆積する。

竈：東壁の南寄りの位置に取り付くものと考えられるが、南側を32号住居に破壊されており、燃燒部奥及び煙道が辛うじて遺る程度である。燃燒部、煙道とも地山を削り出した上に、鈍い黄褐色土を貼り付けて形成している。燃燒部はほぼ住居の壁の位置に造られ、煙道は住居の外側に延びる。火床は地山を削り出した上に暗褐色土を貼って形成している。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：土師器甕片2点(埋土1、竈1)、須恵器椀1点(床直)、同皿1点(竈掘方)、灰釉陶器皿1点(床直)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(33) 40号住居(第93・94図、PL. 41・42・105)

位置：C区・C3調査区のほぼ中央。X=48,084～48,087、Y=-69,430～-69,434。

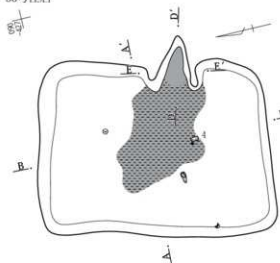
主軸方位：N-87°-W。竈主軸方位：N-86°-W。

検出面積：4.98㎡。

規模と形状：南側及び西側を25・31号住居に破壊されているため、全容は不明であるが、恐らくは南北にやや長

第3章 調査の成果

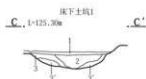
38号住居



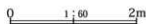
掘方



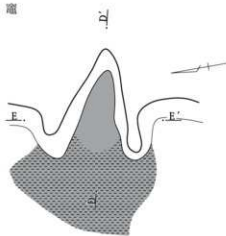
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土中に黒褐色粘質土を不均等に含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒を少量、1層の上に多量の炭化物及び炭化物粒を含む。灰を含みネットリしている。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/2 不揃いで灰黄色土ブロックを不均等に含む。粘性弱い。



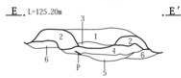
- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 一部で礫状に踏み固められている。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黒色味を帯びた砂質土をベースとし焼土ブロック及び炭化物粒等を多量に含む
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土をベースとし黒褐色土及び灰黄色土ブロック等を不均等に含む。3は混入物少ない。



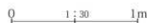
竈



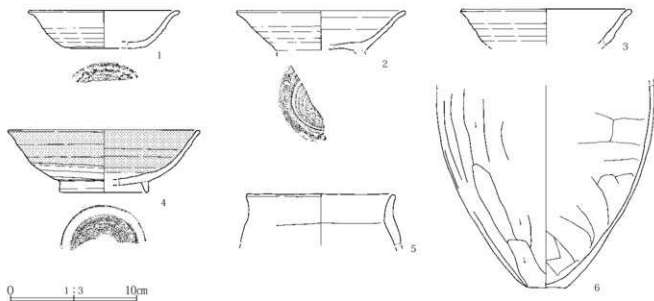
竈掘方



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 住居埋土1層とはほぼ同じ黒色味の強く粘性弱い層。炭化物混じりの褐色土を不均等にやや多く含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 地山砂質土をベースとし黒褐色粘質土をブロック状にやや多く、焼土を含む。袖。
- 3 鈍い赤褐色土5YR4/3 大粒焼土ブロックを多く含む。灰を含みサラサラしている。
- 4 暗灰黄色土2.5Y4/2 黄褐色土ブロック及び炭化物粒等雑多な混入物を少量、北側では黄褐色土を多く含む。粘性弱くしまりやや強い。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 炭化物を多く、東側では焼土をやや多く含む。
- 6 暗灰黄色土2.5Y4/2 地山砂質土を多く、焼土及び炭化物粒はほとんど含まない。粘性弱い。



第89図 C区38号住居 平面図・土層断面図



第90図 C区38号住居 出土遺物

い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。東西長2.88m・南北検出最大長3.17m・確認面からの深さ0.32m。

重複：南東隅から南辺の東側を31号住居に、南西隅から南辺にかけてを25号住居に掘り込まれる。41号住居の西辺から北辺にかけてを掘り込む。

埋土：上層に暗褐色土、下層に灰黄褐色土、壁際に灰黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：東壁に取り付く。両袖及び燃焼部、煙道とも地山を削り出した上に、黄褐色粘質土を貼り付けて形成している。両袖は住居の内側に若干張り出しており、芯材の自然石がほぼ原位置に遺されている。燃焼部はほぼ住居の壁の位置に造られ、煙道は住居の外側に長く延びる。火床は地山を削り出した上に黒褐色土・暗赤褐色土を貼って形成している。竈前の床面に、焼土・炭の堆積が顕著な部分が見られた。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方：掘方と床面とがほぼ一致している。

遺物：須恵器羽釜7点(埋土1、竈1、竈+床直3、竈掘方2)、同椀1点・灰軸陶器椀片1点(床直)、土師器小型燹片1点(竈掘方)。

時期：平安時代中期、10世紀第2四半期。

(34) 41号住居(第95図、PL.42・105)

位置：C区・C3調査区の中央よりやや南寄りの位置。29・30号住居の西側、38号住居の南側に隣接する。X = 48,081~48,084, Y = -69,429~-69,431。

主軸方位：N-87°-W。**竈主軸方位**：N-84°-W。

規模と形状：南側及び西側大半を31号住居に、北西隅を40号住居に掘り込まれているため、全容は不明である。南北検出最大長1.7m・東西最大検出長2.04m・確認面からの深さ0.22m。

重複：南側及び西側大半を31号住居に、北西隅を40号住居に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土、

竈：東壁に取り付く。煙道及び燃焼部以西は31号住居によって掘り込まれる。ほぼ掘方の状態で検出であった。燃焼部・煙道共に地山を削り出して形成されている。火床は地山を削り出した上に暗褐色土を貼って形成している。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

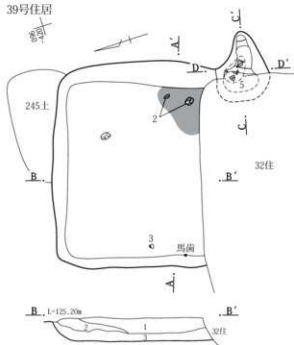
床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：須恵器椀2点(1は埋土、2は床直で体部外面正位墨書「本」)、灰軸陶器段皿片1点(埋土)、同長頸燹片1点(床直)。

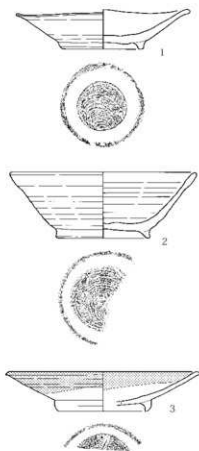
第3章 調査の成果

39号住居

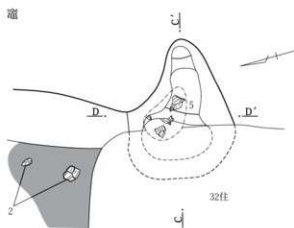


- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 斑状に黒色味を帯びている。パミスや黄褐色土粒を少量含む以外混入物少ない。
- 2 鈍い黄褐色細粒砂質土10YR4/3
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 土質は1層に近い。ブロック状の灰黄色砂質土を不均等にやや多く含む。

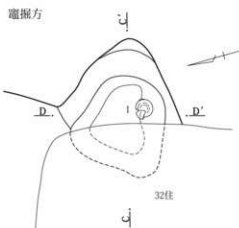
0 1:60 2m



0 1:3 10cm



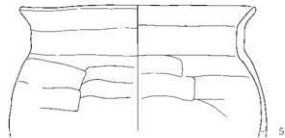
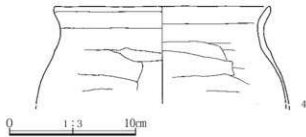
0 1:30 1m



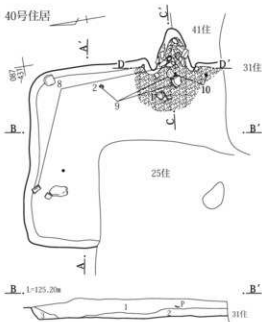
- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石田-FPらしい軽石を霜降り状に多量に、下部には黄褐色粘質土を不均等に含む。しまりやや強く粘性強かにあり。
- 2 褐色土7.5YR4/3 暗褐色土と灰黄色土との混土。柳道側ほど焼土の混入が多い。しまり強く粘性強い。
- 3 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 焼土ブロックを含む。3'は焼土をより多く含む。
- 4 鈍い赤褐色土5YR4/3 大粒の焼土ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 焼土粒・灰・炭化物粒等を多量に含む。
- 6 暗褐色粘質土10YR3/3 炭化物粒を多く含む。しまりあり。

第91図 C区39号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

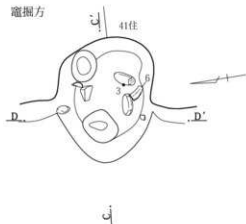
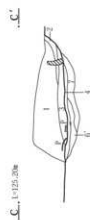
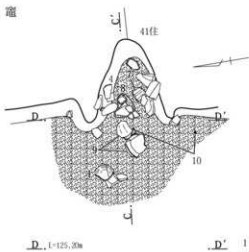
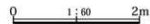
第4節 C区で検出された遺構と遺物



第92図 C区39号住居 出土遺物(2)



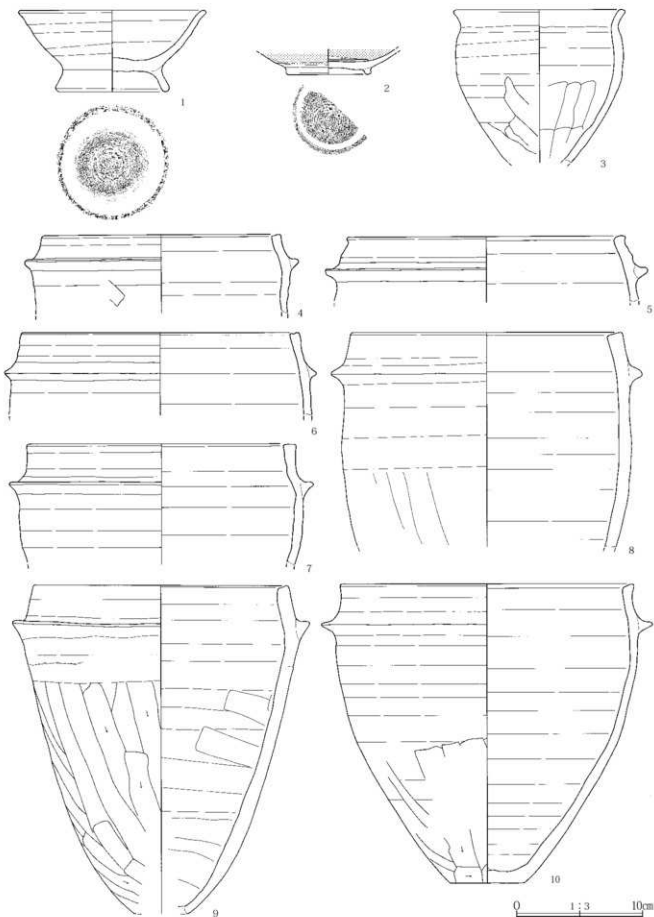
- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 混入物は少ない。下層に向かって漸移的に砂の量が増えていく。しまりややあり。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 地山に近い。黒褐色土及び灰黄色土をブロック状に含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土の二次堆積層。



- 1 暗褐色土10YR3/3 住居埋土1層に近い。炭化物粒をやや多く含む。
- 2 暗赤褐色土10YR3/2 不鮮明な焼土を多量に含む。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土10YR3/2 1層に近い。微細な炭化物粒を多く含む。灰を含みややサラサラしている。
- 4 黒褐色土10YR3/2 焼土の混入少ない。炭化物粒の混入が目立つ。しまり強い。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土に近い。焼土及び炭化物粒を少量含む。しまり強い。5'は暗褐色粘質土の比率が高い。
- 6 黒褐色土10YR2/2 炭化物粒主体。灰を含みやサラサラしている。しまり強い。6'は褐色土との混土。焼土を少量含む。しまり強い。
- 7 暗赤褐色土10YR3/3 焼土主体だが赤色味弱い。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2 しまり強く粘性弱い。

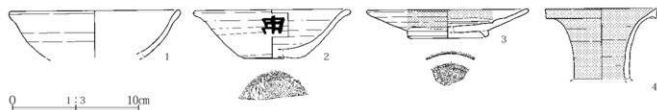
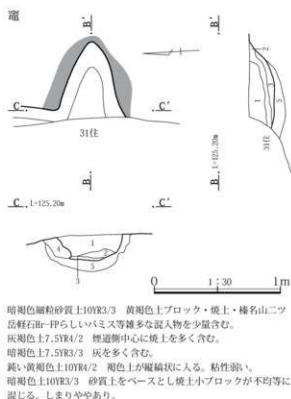
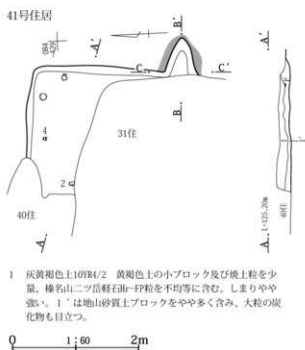


第93図 C区40号住居 平面図・土層断面図

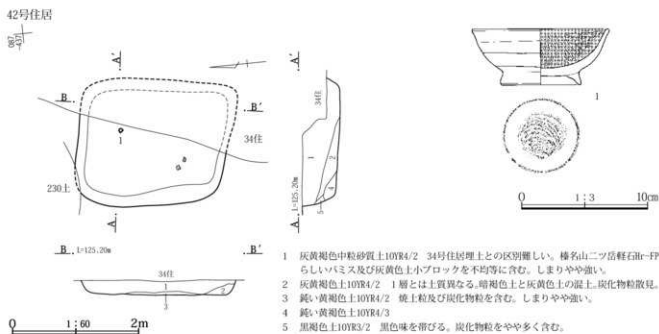


第94図 C区40号住居 出土遺物

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第95図 C区41号住居 平面図・土層断面図・出土遺物



第96図 C区42号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(35) 42号住居(第96図、PL.42・105)

位置：C区・C3調査区のほぼ中央。251号土坑の東側に隣接する。X=48,083~48,086、Y=-69,437~-69,439。

主軸方位：N-10°-E。

検出面積：3.3㎡。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺2.47m・短辺2.04m・確認面からの深さ0.52m。

重複：34号住居に東側の上面約1/2を、230号土坑に南西隅を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。底面付近に僅かに鈍い黄褐色土の堆積が見られる。壁際に斜めに灰黄褐色土、鈍い黄褐色土の堆積が見られる。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に平坦に地山を削り出して床面を形成している。

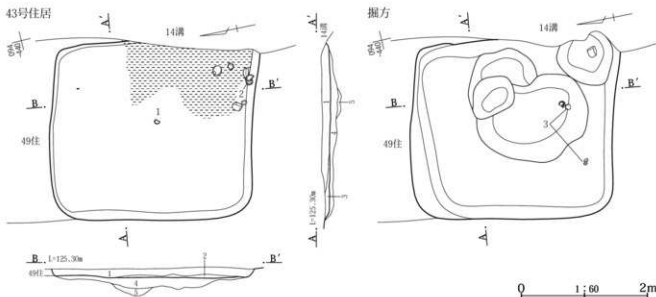
掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：黒色土器碗1点(床直)。

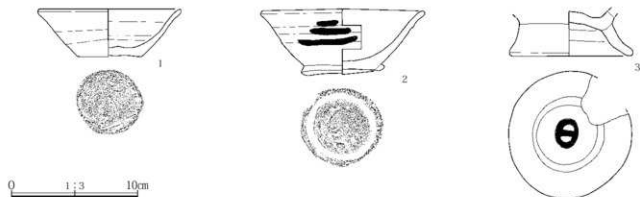
時期：平安時代中期、10世紀第3四半期。

(36) 43号住居(第97図、PL.43・105)

位置：C区のほぼ中央から北寄りの位置。C3調査区の



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 黄褐色上の不鮮明なブロックや炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 炭化物粒や黄褐色土小ブロックをやや多く含み、一部で固くしまっている。粘性は1層よりもややあり。
- 3 黄褐色砂質土2.5Y5/3 地山砂質土及び黒褐色土を若干含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。炭化物粒を僅かに、下部主体に灰黄色土ブロックを含む。しまりやや強い。
- 5 暗褐色土10YR3/2 黒色味が強くなっている。混入物は少ない。しまり強く粘性弱い。



第97図 C区43号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

北西。44・45号住居の東側に隣接する。X=48,090～48,093、Y=-69,440～-69,443。

主軸方位：N-13°-E。

検出面積：7.8㎡。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.18m・短辺2.81m・確認面からの深さ0.11m、掘方までの深さは0.43m。

重複：東辺の南側から南東隅を14号溝に掘り込まれる。49号住居の南側に掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。底面付近に僅かに鈍い暗褐色土の堆積が見られる。

竈：南東隅に造られていたと考えられるが、14号溝に破壊され、竈前の焚き口部の掘り込みのみ検出された。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に地山を凹凸激しく掘り込んだ上に、灰黄褐色土を0.01～0.18m程灰黄褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：全体に凹凸激しく掘り込まれている。特に中央部から東壁に掛けては大きな土坑状に一段深く掘り込まれている。

遺物：須恵器3点(1・2は床直、2には体部外面正位墨書「三」。3は掘方。底部外面正位墨書「日」)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(37) 44号住居(第98・99図、PL.43・44・105・106)

位置：C区のはぼ中央から北西寄りの位置。C3調査区の北西隅近く。西辺はC2調査区に入る。43・49号住居の西側に隣接する。X=48,090～48,093、Y=-69,445～-69,447。

主軸方位：N-76°-W。**竈主軸方位**：N-71°-W。

面積：7.63㎡。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.51m・短辺2.92m・確認面からの深さ0.2m。

重複：45号住居の南側半分以上を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

竈：南東隅近くに造られている。両袖及び燃焼部は地山を削り出した上に灰黄褐色土を貼って形成されている。両袖は住居の内部に張り出さず、燃焼部は住居の壁よりも外側に造られる。右袖の芯材の自然石が原位置で検出された。また、構築材として使用された自然石が竈前に

おいて数点検出された。煙道は検出されなかった。火床面は地山を削り出した上に0.01～0.07mほど黒褐色土を貼って形成している。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：全体に地山を平坦に削り出して形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：土師器鬚片2点(埋土1、床直1)、須恵器杯1点(床直)、同椀2点(埋土1、壁際1)、同皿1点(床直)、同羽釜6点(竈4、埋土・竈1、埋土1)、灰軸陶器椀1点(床直)。

時期：平安時代中期、10世紀第3四半期。

(38) 45号住居(第100図、PL.44)

位置：C区のはぼ中央から北西寄りの位置。C3調査区の北西隅近く。西辺の一部はC2調査区に入る。43・49号住居の西側に隣接する。X=48,091～48,095、Y=-69,444～-69,448。

主軸方位：N-75°-W。**竈主軸方位**：N-57°-W。

規模と形状：南側大部分を44号住居に破壊されるため、全容は不明であるが、南北にやや長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。東西辺2.57m・南北検出最大長1.02m・確認面からの深さ0.2m。

重複：44号住居の南側半分以上を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

竈：44号住居に大きく破壊されているため、全容は不明であるが、住居の南東隅近くに造られているものと考えられる。燃焼部の奥が検出されただけで、両袖は44号住居によって破壊され、また、煙道は検出されなかった。火床面は地山を削り出して形成している。竈前の床面には炭の堆積が色濃い範囲が検出された。

貯蔵穴：貯蔵穴ではないが、住居の北東隅付近で床下土坑が検出された。南北に長い楕円形状を呈し、長径0.64m・短径0.39m・深さ0.26m、灰黄褐色土が堆積していた。

柱穴・周溝：検出されなかった。

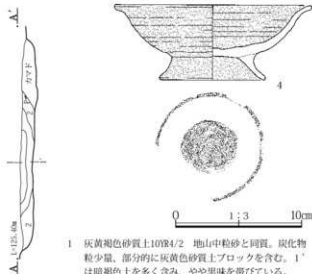
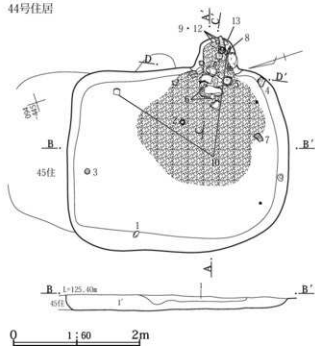
床面：全体に地山を平坦に削り出して形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

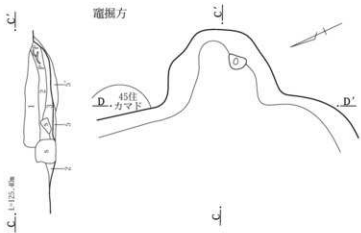
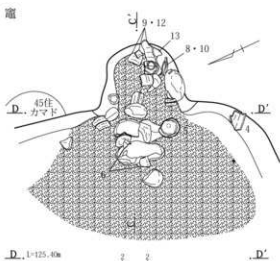
遺物：なし。

時期：古代。

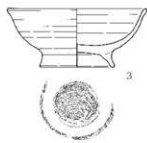
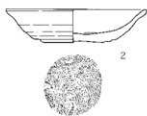
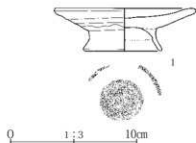
44号住居



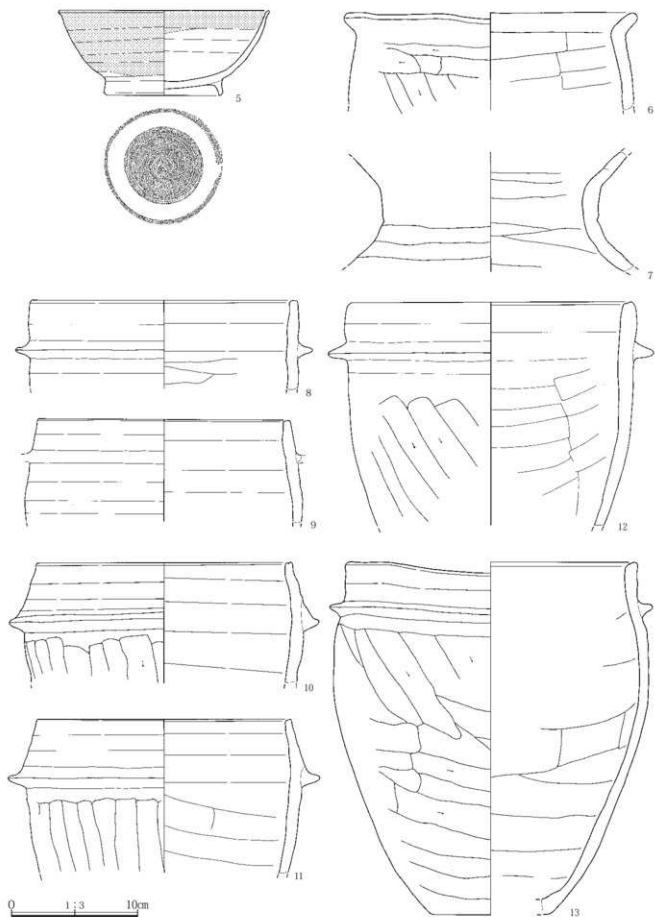
- 1 灰黄色砂質土10YR4/2 地山中粒砂と同質。炭化物粒少量、部分的に灰黄色砂質土ブロックを含む。1'は暗褐色土を多く含み、やや黒味を帯びている。
- 2 灰黄色砂質土10YR4/2 粗砂に近くザラザラしている。西側では混入物少なく、東側では炭化物粒をやや多く含む。



- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 炭化物及び焼土等の混入は少ない。
- 2 暗赤褐色土5YR3/3 砂質土主体。あまり明瞭ではない焼土を多く含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物を多く含み、下部ほど炭化物は多くなる。焼土散見。
- 4 灰黄色土10YR4/2 地山砂質土主体。炭化物粒及び焼土をごく少量含む。
- 5 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒と黒色灰のような層。5'は被熱赤変したような砂質土。
- 6 灰黄色砂質土10YR4/2 炭化物粒を含む。しまりあまりなし。

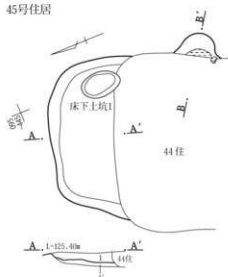


第98図 C区44号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第99図 C区44号住居 出土遺物(2)

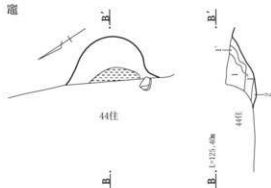
45号住居



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 地山中粒砂と同質。やや黒色味を帯びる。暗褐色土を多く、炭化物粒少量、灰黄色砂質土ブロックを部分的に含む。1'はやや黒味強く、砂質土を多く含む。

0 1:60 2m

竈



- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 炭化物粒及び焼土が散見する。1'は地山砂質土を多く含む、黄色味を帯びる。1'の下部では炭化物粒を含み、黒味がやや強くなる。
2 暗灰黄色土10YR4/3 地山砂質土をベースとし、炭化物粒及び焼土を若干含む。

0 1:30 1m

第100図 C区45号住居 平面図・土層断面図

(39) 46号住居(第101図、PL.44・45・106)

位置：C区・C3調査区のほぼ中央。14号溝の東側に隣接する。X=48,087~48,090、Y=-69,434~69,436。

主軸方位：N-73°-W。竈主軸方位：N-85°-W。

検出面積：5.61㎡。

規模と形状：南東隅を34号住居に破壊され、また、西側を大きく230号土坑に掘り込まれるため、全容は不明であるが、南北にやや長い隅丸長方形を呈するものと考えられる。東西長3.12m・南北検出最大長3.22m・確認面からの深さ0.21m。

重複：北東隅を34号住居に破壊され、また、西側を大きく230号土坑に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

竈：南側を34号住居に大きく破壊されているため、全容は不明であるが、住居の東壁の南寄りの位置に造られているものと考えられる。燃焼部から煙道部にかけては、ほぼ掘方の状態で検出された。左袖は、地山を削り出した上に黄褐色土を貼って形成している。袖の芯材に使用されたと見られる自然石が出土している。両袖とも住居の内側には全く張り出していない。燃焼部及び煙道は住居の壁よりも外側に形成され、煙道は住居の外側に延びている。火床面は地山を削り出した上に0.01~0.05mほ

ど黒褐色土を貼って形成している。燃焼部から竈前にかけて、竈の構架材あるいは袖の芯材として使用されたと見られる自然石が散乱し、また、竈前の床面には炭の堆積が色濃い範囲が検出された。

貯蔵穴・柱穴・溝溝：検出されなかった。

床面：全体に地山を平坦に削り出して形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：土師器甕1点・須恵器椀1点・同段皿1点・灰陶陶器皿1点(床直)。

時期：平安時代中期。

(40) 47号住居(第102図、PL.45)

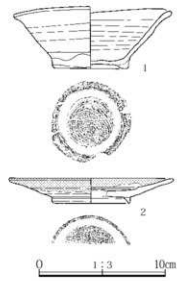
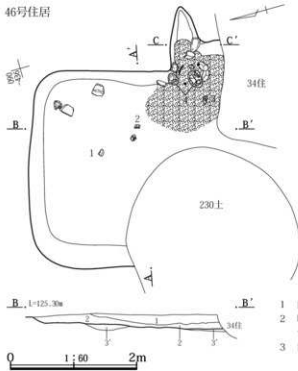
位置：C区・C3調査区のほぼ中央、南端。48号住居の東側、26号住居の南側、268・269号土坑の西側に隣接する。南壁にかかる。X=48,070~48,074、Y=-69,431~69,436。

主軸方位：N-89°-W。

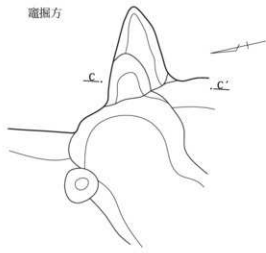
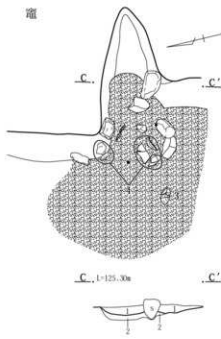
検出面積：9.11㎡。

規模と形状：南東隅を含め、南東側約1/4が調査区外に出るため、全容は不明であるが、ほぼ隅丸形状を呈するものと考えられる。東西径3.97m・南北検出最大径3.72m・確認面からの深さ0.34m、掘方までの深さ0.41m。

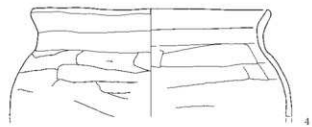
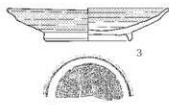
第4節 C区で検出された遺構と遺物



- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 混入物少なく、ボソボソして脆い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黒褐色土の比率が高い。炭化物粒を多く、黄褐色土小ブロックを含む。
- 3 黄褐色土2.5Y5/3 地山粗砂主体、黒色土を少量含む。3'は掘方の埋戻し土。



- 1 灰黄褐色粗粒砂質土10YR4/2 焼土及び炭化物粒の混入はまれ。
- 2 暗褐色土10YR3/3 地山砂質土をベースとし、炭化物粒が不均等に混じる。炭化物粒をやや多く含む。



第101図 C区46号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。壁際及び下層に暗褐色土が堆積する。

竈：検出されなかったが、南東側床面に焼土、炭の堆積分布が見られるため南東隅付近に造られていたものと考えられる。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

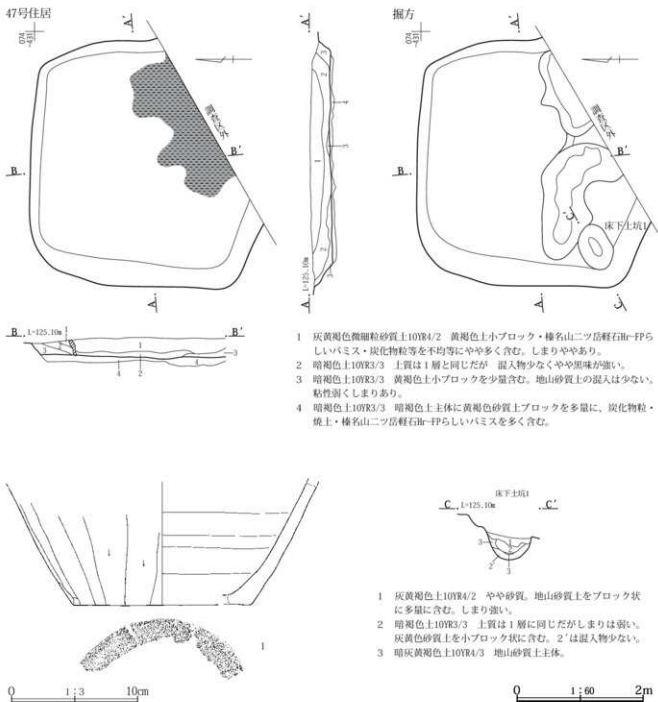
床面：地山を全体にやや凹凸激しく掘り込み、厚さ0.05

～0.14mほど黒褐色土を貼って平坦な床面を形成している。

掘方：地山を全体にやや凹凸激しく掘り込んでいる。特に南側がいくつもの土坑状に掘り窪めてある。

遺物：土師器残片1点(埋土)。

時期：平安時代中期。



第102図 C区47号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

(41) 48号住居(第103図、PL.45・46)

位置: C区・C3調査区のほぼ中央、南端。C3調査区の最南西端。47号住居の西側、2号住居の北東側に隣接する。X=48,070~48,072、Y=-69,435~69,438。

主軸方位: N-7°-E。

検出面積: 6.08㎡。

規模と形状: 南北にやや長い隅丸長方形を呈する。長辺3.1m・短辺2.65m・確認面からの深さ0.29m。

重複: 52号住居の大部分を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土。壁際に斜めに暗灰黄褐色土が堆積する。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山を全体に平坦に削り出して床面を形成している。住居か否か疑問が残る。

掘方: 掘方と床面とが一致している。

遺物: なし。

時期: 古代。

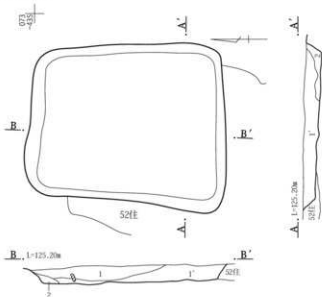
(42) 49号住居(第104図、PL.46・106)

位置: C区の中央より北寄りの位置。C3調査区の北西隅付近。44・45号住居の東側に隣接する。X=48,092~48,095、Y=-69,438~69,442。

主軸方位: N-84°-W。

検出面積: 7.57㎡。

48号住居



第103図 C区48号住居 平面図・土層断面図

規模と形状: 南側を43号住居に、東側を14号溝に掘り込まれているため、全容は不明である。東西長4.18m・南北最大検出長3.1m・確認面からの深さ0.07m。

重複: 南側を43号住居に、東側を14号溝に掘り込まれる。

埋土: 灰黄褐色土。壁際に斜めに暗褐色土が堆積する。

竈・柱穴・周溝: 検出されなかった。

貯蔵穴: 北壁際のほぼ中央で検出された。東西に長い楕円形状を呈し、長径0.58m・短径0.51m・深さ0.09m。暗褐色土が堆積している。

床面: 地山を全体に平坦に削り出して床面を形成している。

掘方: 掘方と床面とが一致している。

遺物: 須臾器機1点(埋土)、羽羽片2点(床直)、碁石状石製品1点(床直)、金属製刀装具1点(床直)、刀子1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期。

(43) 50号住居(第105・106図、PL.46・47・106)

位置: C区の中央、やや西寄り、C3調査区の南西寄り。228・229号土坑の西側、303・304・319号土坑の東側、34・42号住居・251号土坑の南側に隣接する。X=48,079~48,082、Y=-69,438~69,443。

主軸方位: N-73°-W。竈主軸方位: N-78°-W。

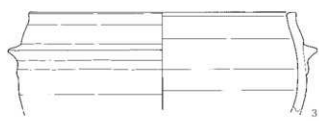
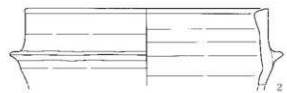
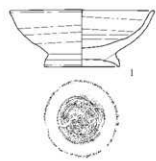
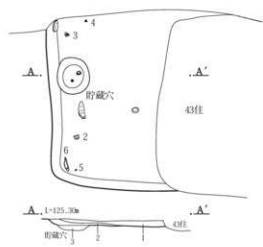
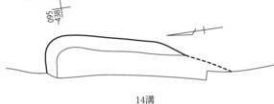
面積: 10.36㎡。

- 1 灰黄褐色砂質土10TR4/2 灰黄色砂質土ブロックを不均等に含む。1'は下部中心に炭化物の混入が増え、灰黄色砂質土ブロックが小粒になる。しまりややあり。
- 2 暗灰黄色土10TR4/3 地山灰黄色砂質土を顕著に含む。

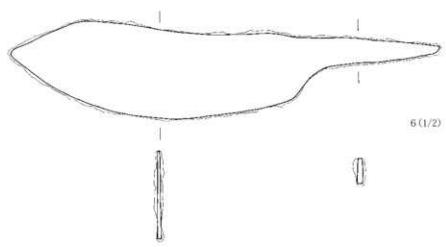
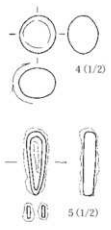
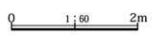
0 1:60 2m

第3章 調査の成果

49号住居



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黄褐色土小ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土10YR3/2 地山粒砂は混入しない。しまりあまり強くない。
- 3 暗褐色土10YR3/2 黒味が強くなっている。混入物は少ない。しまり強く粘性弱い。



第104図 C区49号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

規模と形状：東西にやや長い隅丸長方形を呈する。長辺3.94m・短辺3.73m・確認面からの深さ0.42m、掘方までの深さ0.65m。

重複：55号住居の南側約2/3を掘り込む。西辺寄りの位置を14号溝に南北に掘り込まれる。

埋土：上層に暗褐色土、中・下層に灰黄褐色土。壁際に斜めに鈍い黄褐色土が堆積する。

竈：東辺のほぼ中央部に取り付く。前面はほぼ掘方の状態で検出された。燃焼部は地山を削り出した上に褐色土を貼って形成され、ほぼ、住居の壁から外側に造られている。火床面及び煙道は、地山を削り出した上に0.02～0.12m黒褐色土を貼り付けて形成している。燃焼部にかけて構築材として使用されたと考えられる自然石が出土した。煙道はあまり長く伸びていない。

貯蔵穴：検出されなかった。

柱穴：なし。

床面：地山を削りだして平坦な床面を形成しているが、深く掘り穿められた箇所には灰黄褐色土、灰褐色土を貼って平坦な面を形成している。

掘方：掘方と床面とは大方一致しているが、部分的に深く掘り穿められた箇所がある。掘方において、住居の中央よりやや西側の位置から、南北に一直線に並ぶ柱穴様のピットが3基検出された。掘方での検出であること、最北側のP3が北辺にかかることなどから、住居そのものに関わる施設ではなく、住居に先行する遺構と考えられるが、便宜的にここで報告しておく。平面形状はいずれも不整形形状を呈しており、南側のP1は径約0.34m・深さ約0.38m、中央のP2は径約0.34m・深さ0.34m、北側のP3は径約0.26m・深さ約0.15m。ピット心々間の距離は、P1～2の間で約1.5m、P2～3の間で約1.4m。いずれも暗褐色土が堆積していた。

遺物：土師器甕1点(竈)、同小型甕片1点・須臾器血片1点・同椀1点・灰軸陶器壺1点(埋土)、鉄製紡輪1点(掘方)。

時期：平安時代中期、10世紀第3四半期。

(45) 51号住居(第107・108図、PL.47・48・107)

位置：C区の中央から南西寄りの位置、C3調査区の南寄り、西端。西調査区境にかかる。48・52号住居の西側に隣接する。X=48,068～48,073、Y=-69,442～

-69,447。

主軸方位：N-88°-E。**竈主軸方位**：N-107°-E。

検出面積：11.83㎡。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、南北にやや長い隅丸長方形を呈するものと考えられる。東西径3.98m・南北最大検出径4.01m・確認面からの深さ0.34m、掘方までの深さ0.45m。

重複：C2区で検出された3号住居と重複するが調査年度が異なっていたため新旧関係は不明。なお、調査区を越えて南側に接するC2調査区3号住居は、調査年度が異なり、C2調査区とC3調査区とがそれぞれ別個に調査されたために、相互の新旧関係は明らかにすることが出来なかった。

埋土：上層に暗褐色土、中・下層に灰黄褐色土、下層に鈍い黄褐色土、壁際に斜めに鈍い黄褐色土が堆積する。

竈：南側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、東辺のほぼ中央部から南側に取り付くものと考えられる。燃焼部はほぼ掘方の状態で検出された。両袖は地山を削り出した上に、自然石を芯材とし、黄褐色土を貼り付けて形成している。燃焼部は地山を削り出して形成され、ほぼ、住居の壁の位置に造られている。火床面及び煙道は、地山を削り出した上に暗褐色土を貼り付けて形成している。燃焼部にかけて構築材として使用されたと考えられる自然石が出土した。煙道はあまり長く伸びていない。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：暗褐色土を0.02～0.14m程貼り付けて平坦な床面を形成している。

掘方：平坦である。

遺物：土師器杯2点(1は埋土、2は竈で底部外面墨書「大」)、同甕1点(埋土)、須臾器杯2点(埋土1、床直1)、同椀1点・同小型短頸壺片1点(埋土)。

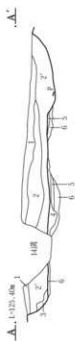
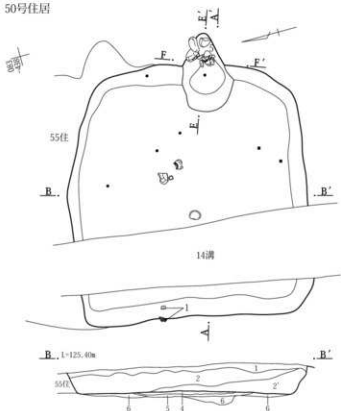
時期：平安時代中期、10世紀第3四半期。

(47) 52号住居(第109～110図、PL.48・49)

位置：C区の中央からやや西寄りの位置、南端。C3調査区の南西端。47号住居の西側に、27号住居の南側に、2号住居の北西に隣接する。X=48,068～48,072、Y=-69,435～-69,438。

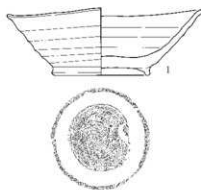
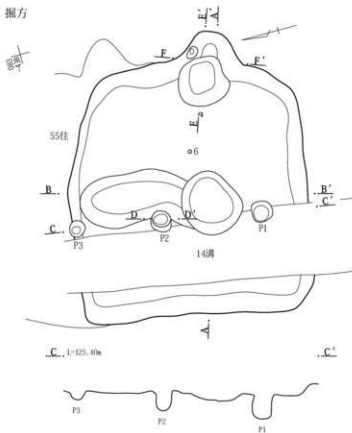
主軸方位：N-71°-W。**竈主軸方位**：N-48°-W。

50号住居



- 1 暗褐色土10YR3/3 粒子細かくしり強い。
- 2 灰黄色細砂砂質土10YR4/2 不揃いの灰黄色砂質土をブロック状に少量、炭化物粒を同じく少量含む。2'は下部ほど砂質土主体になる。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体で不揃いの黒色土ブロックを少量含む。
- 4 灰黄色土10YR4/2 2層より若干明るい色調を呈する。地山砂質土・バミス・炭化物粒を多く含む。
- 5 灰黄色土10YR4/2 2'層とはほとんど変わらないが、表面に炭化物をやや多く含む。しり強い。
- 6 灰褐色土7.5YR4/2 黄褐色土小ブロックを多く、粘土粒を含む。しりあり。

掘方



0 1:3 10m

P2
D, 1-125.40m, D'

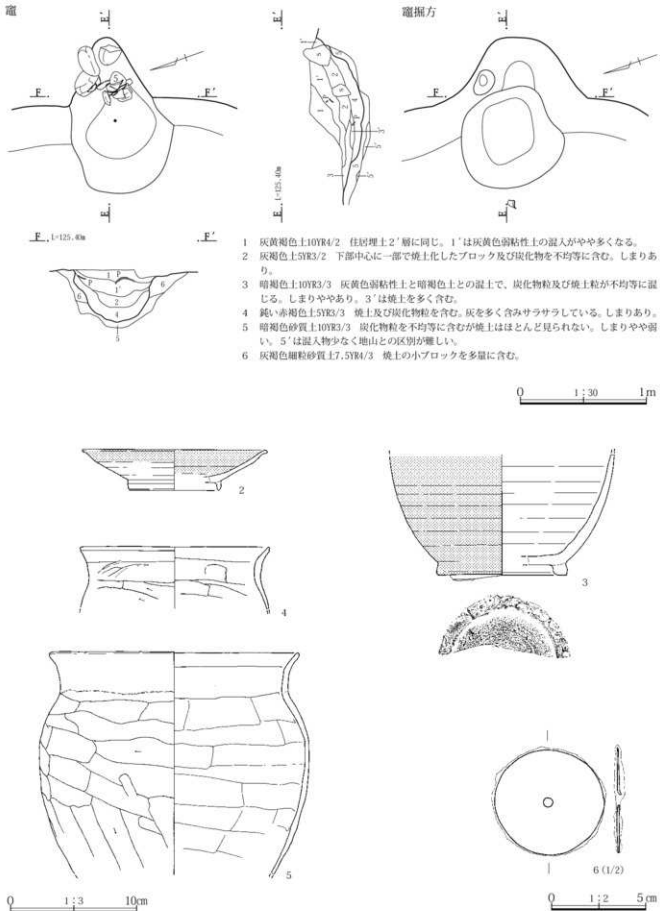


- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 やや粗粒。1'は地山砂質土との混土。

0 1:60 2m

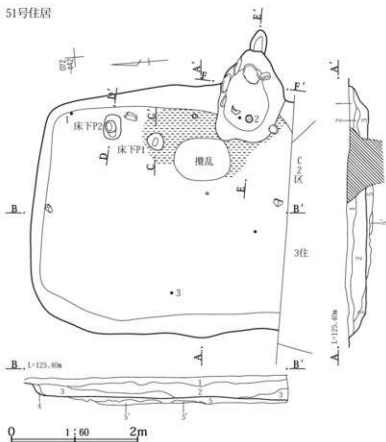
第105図 C区50号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第106図 C区50号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(2)

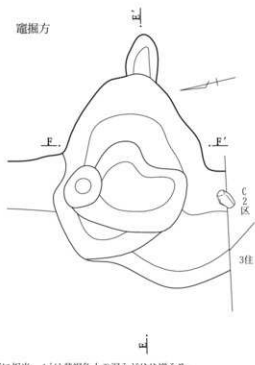
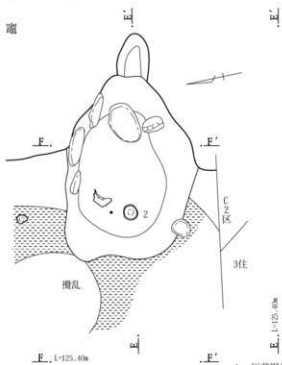
51号住居



51号住居床下P1・P2

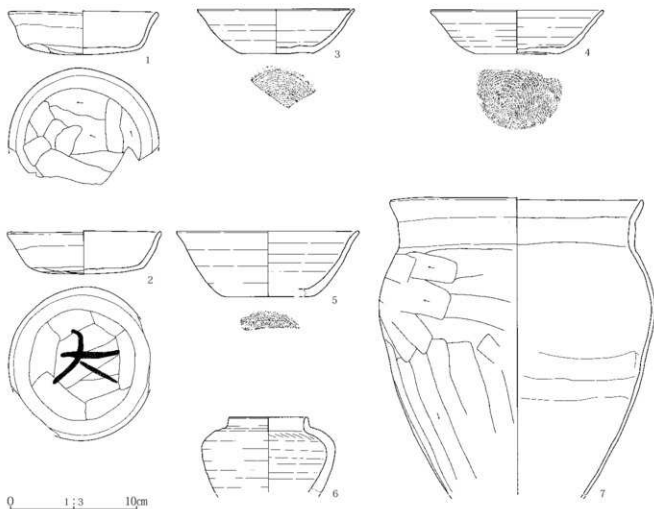
1 暗褐色土10YR3/3 砂質土を小ブロック状に含む。粘性弱い。1'は地山砂質土をベースとする。

- 1 暗褐色土10YR3/3 粒子やや細かい。50号住居埋土1層に類似。バミス及び炭化物粒を少量含む。粘性弱くしまり強い。
- 2 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 炭化物粒を霜降り状に、地山砂質土を大ブロック状に含む。淡い灰鉄あり。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 2層の上に多量の地山砂質土を含む。
- 4 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山と思われるが暗褐色土を不均等に含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 砂質土と粘性が弱い暗褐色土との混土。5'は地山砂質土の比率が高く、シミのような部分が含まれる。



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 住居埋土2層に相当。1'は黄褐色土の混入がやや増える。
- 2 黄褐色土2.5Y5/3 粘性土で混入物少ない。しまり強い。下部では被熱面跡が顕著である。
- 3 鈍い黄褐色土10YR5/3 地山砂質土をベースとし焼土粒及び炭化物粒をややく含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 天井崩落でできた隙間に流入した1層の上。4'は6層の上との混土。
- 5 暗赤褐色土5YR3/3 ゼラゼラした感触。焼土ブロックを多く含むが2層ほど顕著ではない。炭化物粒及び炭等を多く含む。
- 6 黄褐色土2.5Y5/3 2層に比べて砂質土の含有量が多い。焼土をややく含む。しまり強い。
- 7 暗赤褐色粘質土5YR3/3 焼土を多く含む。7'は炭化物粒を多く含む。

第107図 C区51号住居 平面図・土層断面図



第108図 C区51号住居 出土遺物

規模と形状：北側大部分を48号住居に掘り込まれているため、全容は不明であるが、ほぼ隅丸形状を呈するものと考えられる。東西長2.96m・南北最大検出長2.84m・確認面からの深さ0.25m。

重複：北側大部分を48号住居に掘り込まれている。

埋土：灰黄褐色土。

竈：南東隅に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖、燃焼部、煙道は地山を削り出して形成され、両袖は自然石を芯材にして形成されている。支脚として使用された自然石も燃焼部中央奥側で出土している。また、全体的に、竈の構築材として使用されたと見られる自然石が多数出土している。燃焼部は地山を削り出して形成され、住居の壁の位置よりも外側に造られている。地山を削り出し、火床面は、地山を削りだして形成した上に、厚さ0.16m程灰黄褐色土を貼り付けて形成している。竈

の焚き口の手前の床面からは灰の堆積が顕著な部位が検出された。また、煙道は地山を削り出して形成され、住居外側に長く延びている。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：土師器甕3点(竈)。

時期：平安時代中期、11世紀前半。

(48) 53号住居(第111図、PL.49・50・107)

位置：C区の中央よりやや西寄りの位置。C3調査区西端付近。292～294号土坑の南側に、296・297号土坑の東側に、302・303・305号土坑の北側に隣接する。X = 48,083～48,087, Y = -69,442～-69,445。

主軸方位：N-68°-W。竈主軸方位：N-75°-W。

検出面積：6.69㎡。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺3.65m・短辺2.62m・確認面からの深さ0.22m。

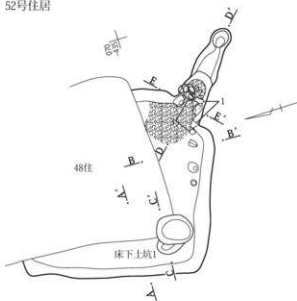
重複：253・254・298号土坑に上面を掘り込まれるが、掘り込み自体は住居遺構の破壊には及ばない。

埋土：灰黄褐色土。壁際で鈍い黄褐色土が斜めに堆積

する。

竈：東壁の中央、やや南寄りの位置に取り付く。両袖は芯材に自然石を使用し、燃燒部、煙道は地山を削り出した上に灰黄褐色土を貼って形成され、住居の壁よりも外側に造られている。火床面は地山を削りだして形成した上に、厚さ0.01~0.1m程黒褐色土を貼り付けて形成し

52号住居

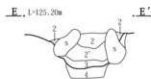
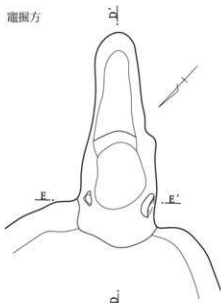
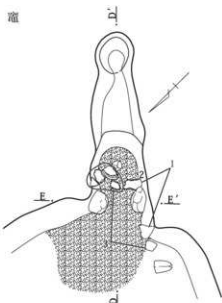


- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや粗粒の砂質土をベースとし、炭化物粒及び暗褐色土を少量含む。ややしまりを欠く。
- 2 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 黄色味を帯びる。2'は浅間山火山灰As-C 混入黒色土や同層直上粘性土を少量含む。



- 1 灰黄褐色土10YR4/2 色調は48号住居1層よりも暗く見える。黒褐色土と砂質土との混上で互層状に近い堆積。

0 1; 60 2m

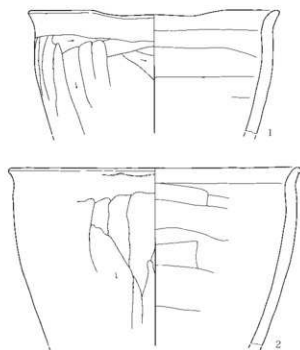


- 1 鈍い赤褐色土5YR5/4 シルト質の竈構築材が使上化。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 混入物は少ない。2'は竈構築材らしい灰黄色土を少量含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒及び黒色灰主体。
- 4 鈍い赤褐色土5YR4/3 地山粗粒砂が焼熟して赤変。上部ほど赤味が強く漸移的に地山砂質土となる。

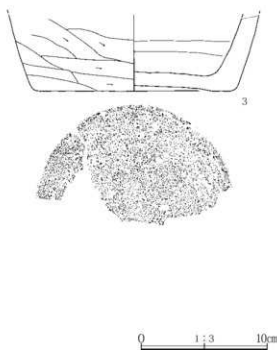
0 1; 30 1m

第109図 C区52号住居 平面図・土層断面図

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第110図 C区52号住居 出土遺物



ている。竈の構築材として使用されたと見られる自然石が多数出土している。竈の焚き口の手前の床面からは灰の堆積が顕著な部位が検出された。また、煙道は地山を削り出した上に0.05～0.21mほど黒褐色土を貼って形成され、住居外側に延びている。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方: 掘方と床面とが一致している。

遺物: 須恵器羽釜片3点(4竈、5・6床直)、同杯蓋片1点(埋土)、灰釉陶器稜枕片1点(床直)、緑釉陶器枕1点(埋土)。

時期: 平安時代中期、10世紀第1四半期。

(49) 54号住居(第112図、PL. 50・51)

位置: C区の中央よりやや西寄りの位置。C3調査区のほぼ中央、西端。住居本体の大部分はC2調査区の東端にかかる。120・164号土坑の南側に、302・320号土坑の西側に、隣接する。X=48,079~48,082、Y=-69,447~69,450。

主軸方位: N-84°-E。竈主軸方位: N-122°-E。

検出面積: 4.71m²。

規模と形状: 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。長辺

2.96m・短辺2.71m・確認面からの深さ0.22m。

重複: 西辺を166号土坑に掘り込まれる。

埋土: 灰黄褐色土。壁際及び下層に暗灰黄褐色土が堆積する。

竈: 東南隅に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖は芯材に自然石を使用し、燃燒部、煙道は地山を削り出した上に暗褐色土を貼って形成され、住居の壁よりも外側に造られている。火床面は地山を削りだして形成している。竈の構築材として使用されたと見られる自然石が多数出土している。竈の焚き口の手前の床面からは灰の堆積が顕著な部位が検出された。また、煙道は地山を削り出した上に0.05～0.21mほど暗褐色土を貼って形成され、住居外側に延びている。

貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方: 掘方と床面とが一致している。

遺物: なし。

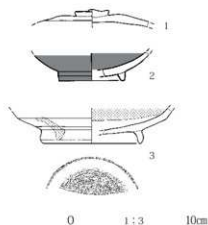
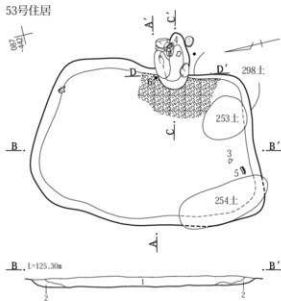
時期: 古代。

(50) 55号住居(第113図、PL. 51・107)

位置: C区の中央から南寄りの位置。C3調査区の西南寄りの位置。53号住居の東側に隣接する。X=48,081~

第3章 調査の成果

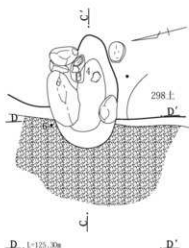
53号住居



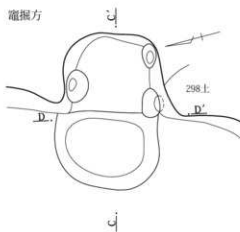
- 1 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 炭化物粒を少量含む。2層との境は漸移的。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土を多量に含む。黄色味強く、粘性弱い土を不均等に含む。

0 1:60 2m

竈

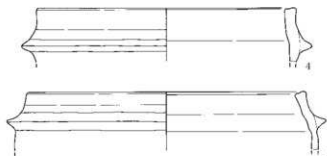


竈掘方

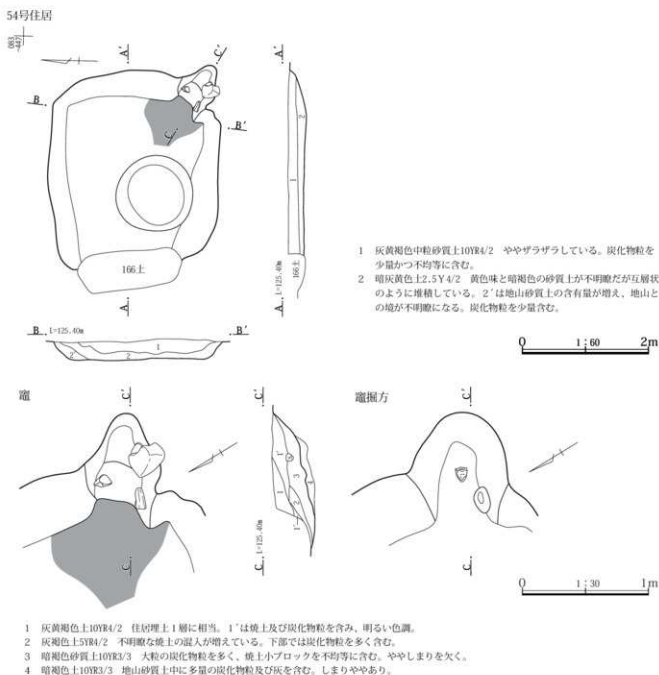


- 1 灰黄褐色土10YR4/2 住居埋土1層に近い。炭化物粒を含みやや黒色味が強い。1'は炭化物粒の混入がやや多いが焼土の混入みれである。
- 2 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒及び灰をベースとする。焼土はほとんど含まない。
- 3 黒褐色土10YR3/2 黄褐色土小ブロックを多量に、炭化物粒をやや多く含む。

0 1:30 1m



第111図 C区53号住居 平面図・土層断面図・出土遺物



第112図 C区54号住居 平面図・土層断面図

48,084, Y=-69,438~69,442。

主軸方位：N-84°-W。**竈主軸方位**：N-81°-W。

規模と形状：南側大半を50号住居に、西端近くを14号溝に掘り込まれているため、全容は不明である。東西検出最大長4m・南北検出最大長1.12m・確認面からの深さ0.3m。

重複：南側大半を50号住居に、北東隅を34号住居に、西北隅付近を南北に14号溝に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

竈：東壁に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。燃焼部は地山を削り出し、住居の壁よりも外側に造られている。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：須臾器杯片1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第2四半期。

(S1) 56号住居(第114図、PL. 51)

位置：C区の中央よりやや南東寄りの位置。C3調査区の東端、中央。244号土坑の西側に隣接する。X = 48,083~48,086, Y = -69,422~-69,424。

主軸方位：N-84°-W。竈主軸方位：N-68°-W。

検出面積：3.85㎡。

規模と形状：西側大半を30・35号住居に掘り込まれているため、全容は不明である。南北最大検出長3.84m・東西最大検出長1.58m・確認面からの深さ0.14m。

重複：西側大半を30・35号住居に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。壁際に鈍い黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：東壁に取り付く。完全に掘方の状態で検出された。燃焼部は地山を削り出し、住居の壁よりも外側に造られ

ている。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：土師器裏片1点(竈)、土師器小型裏片1点(埋土)、須恵器羽釜片1点(竈・埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀前葉。

(S2) 57号住居(第115図、PL. 51・52)

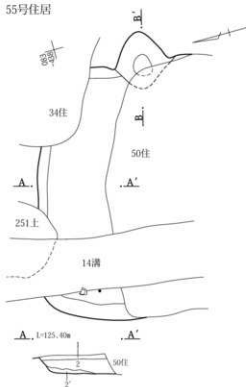
位置：C区・C4調査区の最北東端。北壁に掛かる。X = 48,112~48,115, Y = -69,410~-69,413。

主軸方位：N-78°-W。竈主軸方位：N-91°-W。

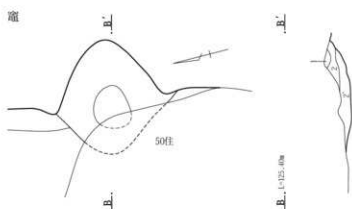
検出面積：4.65㎡。

規模と形状：北側が調査区外に出、中央部を14号溝に掘り込まれるため、全容は不明である。東西長2.29m・南北最大長2.7m・確認面からの深さ0.36m。

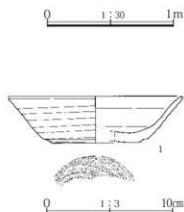
55号住居



- 1 暗褐色土10YR3/3 粒子細かくしまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土・バミス・炭化物粒等を多く含む。2'は壁の崩落土。



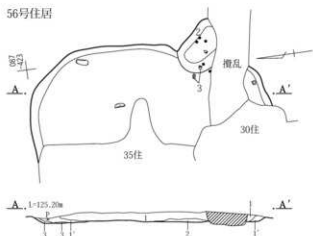
- 1 鈍い赤褐色土5YR4/3 砂質土中にやや大粒の焼土ブロックを不均等に含む。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 炭化物粒及び焼土を少量含む。2'は火床埋戻し土とみられる砂質土であるが不明瞭。



第113図 C区55号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

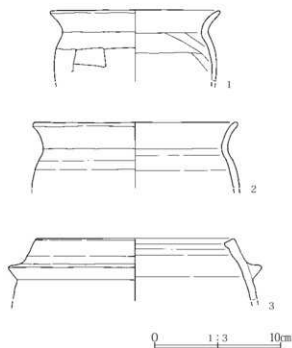
第4節 C区で検出された遺構と遺物

56号住居



- 1 暗褐色土10YR3/3 炭化物粒をやや多く、黄褐色砂質土を不均等に含む。焼土散見。しまりやや強い。1'は壁筋際砂質土多く、北側ほど顕著となる。
- 2 暗褐色土10YR3/3 土質は1層に近い。褐色粘質土を含み、焼土・炭化物粒を多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 1層の上と砂質土との混上。

0 1;60 2m



第114図 C区56号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

重複：中央部を14号溝に掘り込まれる。59号住居の西辺を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。壁際に鈍い黄褐色土が斜めに堆積する。

竈：東壁に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。燃焼部は地山を削り出し、住居の壁よりも外側に造られている。構築材の一部であったと考えられる自然石が燃焼部の外側に検出された。燃焼部から竈前の床面に焼土・炭の堆積が顕著な範囲がみられた。竈の掘方は、14号溝よりも低い位置から検出されたので、同溝による破壊は受けていない。

貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：なし。

時期：古代。

(53) 58号住居(第116図、PL.52・107)

位置：C区・C3調査区のほぼ中央、やや南寄りの位置。34号住居の東側に隣接する。X=48,080~48,083、Y=-69,434~69,436。

検出面積：3.58㎡。

規模と形状：北側を25号住居に、東側を31号住居に掘り込まれるため、全容は不明である。南北検出最大長2.47m・東西検出最大長1.82m・確認面からの深さ0.26m。

重複：北側を25号住居に、東側を31号住居に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

竈・貯蔵穴・柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削り床面を形成している。

掘方：掘方と床面とが一致している。

遺物：須恵器羽釜片1点・同壺片1点・鉄釘1点(埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀第1四半期。

(54) 59号住居(第117図、PL.52)

位置：C区・C4調査区の最北東端。北壁に掛かる。X=48,113~48,116、Y=-69,408~69,410。

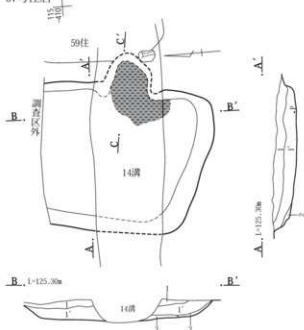
主軸方位：N-87°-E。竈主軸方位：N-93°-E。

検出面積：3.24㎡。

規模と形状：北側約半分が調査区外に出、南寄りを14号溝に大きく掘り込まれるため、全容は不明である。東西長2.29m・南北検出最大長1.87m・確認面からの深さ0.3m。

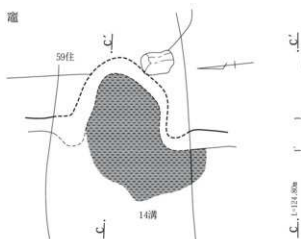
第3章 調査の成果

57号住居



- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 権名山二ツ岳軽石田-FPらしいハミス・炭化物粒・焼土等を不均等に含む。1'はハミスが増え、淡い痕跡が見られる。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土をベースとした壁崩落土。1層の上を小ブロック状に含む。
- 3 暗褐色土10YR3/3 炭化物粒をやや多く、焼土を少量含む。

0 1:60 2m



- 1 鈍い赤褐色土5YR4/3 ブロック状の焼土と灰混じりの黒褐色土との混土。1'は焼土ほとんどなく黒褐色を呈する。
- 2 暗褐色土10YR3/3 細粒砂質土をベースとし炭化物粒及び灰を含み、焼土を含まない。しまり強い。

0 1:30 1m

第115図 C区57号住居 平面図・土層断面図

重複: 南寄り14号溝に東西に、西辺を57号住居に掘り込まれる。260号土坑の北辺を掘り込む。

埋土: 灰黄褐色土。壁際に鈍い暗褐色土が斜めに堆積する。

竈: 東壁に取り付く。完全に掘方の状態で検出された。燃焼部は地山を削り出し、住居の壁よりも外側に造られている。

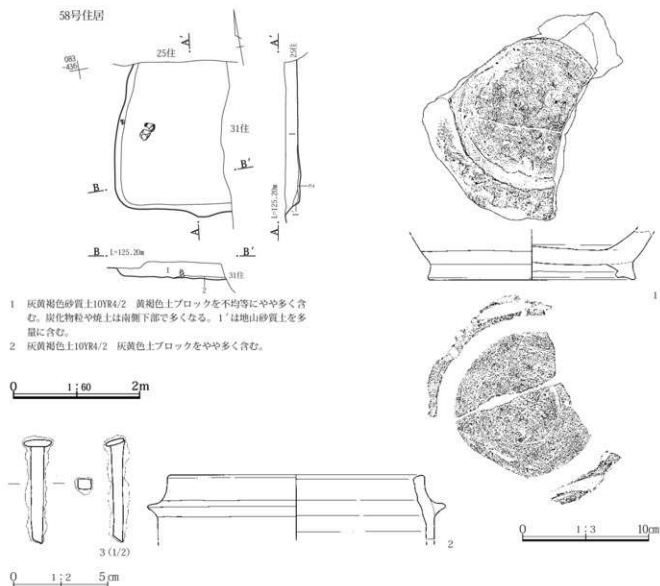
貯蔵穴・柱穴・周溝: 検出されなかった。

床面: 地山を平坦に削り床面を形成している。

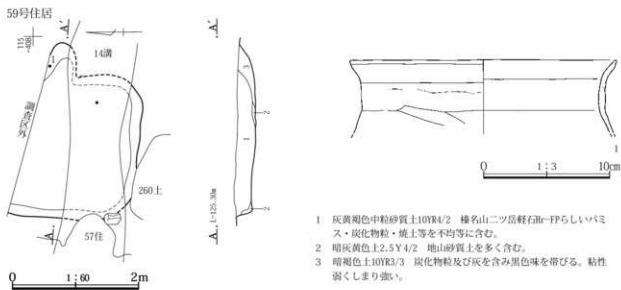
掘方: 掘方と床面とが一致している。

遺物: 土師器破片1点(竈)。

時期: 平安時代前期、9世紀第2四半期。



第116図 C区58号住居 平面図・土層断面図・出土遺物



第117図 C区59号住居 平面図・土層断面図・出土遺物